県道西白方善通寺線改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

昭和61年度

善　通　寺　市
香川県教育委員会

例　言

1. 本書は，県道西白方善通寺線改良工事に伴う，埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 調査は，香川県土木部の委託を受け，善通寺市が行った。

3. 調査にあたっては，香川県教育委員会文化行政課より文化財専門員松本敏三の派遣を受けた。

4. 調査に要する経費は，香川県土木部が負担した。

5. 調査にあたっては，下記の機関等の援助・協力を得た。記して謝意を表したい。

香川県土木部道路課　香川県土木部善通寺事務所　香川県教育委員会文化行政課
日本道路公団高松建設局善通寺工事事務所　善通寺市高速自動車道対策室　地元自治会
植松邦浩　北山健一郎　徳永多佳子

6. 本書に用いている遺構記号は次の通りである。
SA　柵列，SB　掘立柱建物，SD　溝，SH　竪穴住居，SK　土抗，SR　自然河川
ST　墳墓，SX　その他の遺構

7. 調査組織は下記の通りである。

調査総括	善通寺市都市計画課長	
	（善通寺市高速自動車道対策室長）	北堀俊一
調査事務指導	善通寺市都市計画課主幹	増田武志
調査事務担当	善通寺市都市計画課	神原トシオ
	同　主任主事	泉美津子
発掘調査担当者	香川県教育委員会文化行政課文化財専門員	松本敏三
指導員	同　嘱託	高木竜太郎
補助員		大砂古佳美
		片桐節子
		杉山和也
		森岡裕子

目　　次

Ⅰ　はじめに

1　普通寺市周辺の遺跡 …… 1

2　調査に至る経過 …… 3

3　発掘調査の経過，発掘日誌（抄） …… 9

Ⅱ　阿弥陀堂地区

1　調査の概要と調査小区の設定（AM 1 ～14区） ……21

2　調査の概要

(1)　土層序 ……21

(2)　主要遺構 ……22

①　掘立柱建物 ……22

②　土坑 ……22

③　溝 ……29

④　土器群01 ……29

⑤　SA01 ……29

⑥　不明遺構 ……30

⑦　SK04 ……32

⑧　ピット群 ……32

Ⅲ　中村西地区

1　調査の概要と調査小区の設定（NKW 1 ～11区） ……36

2　調査の概要

(1)　主要遺構 ……36

①　不明遺構 ……36

② 土坑 ……39
③ 小ピット群 ……39
④ SX03 ……38
⑤ 溝 ……40

Ⅳ 中村東地区
1 調査の概要と調査小区の設定（NKE 1 ～15区） ……41
2 調査の概要
(1) 主要遺構 ……41
① 掘立柱建物 ……41
② 溝 ……42
③ 土坑 ……42
④ 不明遺構 ……42
⑤ ピット群 ……42
⑥ 自然河川 ……46

Ⅴ 永井地区
1 調査の概要と調査小区の設定（NG 1 ～19区） ……50
2 調査の概要
(1) 主要遺構 ……50
① 溝 ……50
② 土坑 ……58
③ 不明遺構 ……58
④ 自然河川 ……59

Ⅵ 稲木地区
1 調査の概要と調査小区の設定（INI 1 ～ 8 区，IN Ⅱ，Ⅲ 1 ～21区） ……60
2 調査の概要
(1) 主要遺構 ……60
① 溝 ……60
② 自然河川 ……67
③ 不明遺構 ……71
④ ピット群 ……71

⑤ 竪穴住居跡 ……71
⑥ 墳墓 ……78

Ⅶ まとめ ……83

挿 図 目 次

第1図 周辺地域の遺跡 …… 2
第2図 県道西白方ー善通寺線埋蔵文化財調査区割 …… 5
第3図 県道文化財調査区割図 阿弥陀堂地区，中村西地区，中村東地区 ……17
第4図 県道文化財調査区割図 稲木地区 ……18
第5図 県道文化財調査区割図 永井地区 ……19
第6図 AM地区基本土層図 ……21
第7図 阿弥陀堂地区遺構配置図(1) ……23
第8図 阿弥陀堂地区遺構配置図(2) ……25
第9図 AM－1区 SB01平・断面図 ……27
第10図 AM－1区 SB02平・断面図 ……27
第11図 AM－1区 SA01平・断面図 ……29
第12図 AM．SX01平面図 ……33
第13図 AM．SX01 南北トレンチ土層 ……33
第14図 AM．SX02平面図 ……34
第15図 AM．SX02東西土層 ……34
第16図 AM．SX03平面図 ……35
第17図 AM．SX03南北土層 ……35
第18図 中村西地区遺構配置図 ……37
第19図 中村東地区遺構配置図(1) ……43
第20図 中村東地区遺構配置図(2) ……45
第21図 NKE－9・10区 SR01南壁東西土層 ……46
第22図 NKE－15区 SR02平面図 ……47

第23図　NKE－15区　SR02北壁土層 ……49
第24図　NKE－15区　SR02東壁土層 ……49
第25図　永井地区遺構配置図(1) ……51
第26図　永井地区遺構配置図(2) ……53
第27図　NG－２区　SD03北壁東西土層 ……55
第28図　NG－12区　SD24北壁東西土層 ……56
第29図　NG－12区　SD25北壁東西土層 ……57
第30図　NG－15A区　SR01北壁東西土層 ……58
第31図　稲木Ⅰ地区遺構配置図 ……61
第32図　稲木Ⅱ・Ⅲ地区遺構配置図 ……63
第33図　INⅢ－７・８・９区　SR04平面図 ……68
第34図　INⅢ－７・８・９区　SR04土層図 ……69
第35図　INⅡ－６区　SH01平・断面図 ……72
第36図　INⅢ－11区　SH02・03平・断面図 ……73
第37図　INⅢ－15区　SH04平・断面図 ……74
第38図　INⅢ－15区　SH05・06平・断面図 ……75
第39図　INⅢ－15区　SH07平・断面図 ……76
第40図　INⅢ－15区　SH08平・断面図 ……77
第41図　INⅡ－３・４区　ST01平面図 ……79
第42図　INⅡ－３・４区　周溝西側土層断面図 ……79
第43図　INⅡ－３・４区　周溝東側土層断面図 ……79
第44図　INⅡ－６区　ST02平面図 ……82
第45図　NKE地区　SR02出土遺物 ……98
第46図　NG地区出土遺物 ……99
第47図　INⅡ地区ST01出土遺物(1) ……100
第48図　INⅡ地区　ST01出土遺物(2) ……101
第49図　INⅡ地区　ST01出土壺棺 ……102
第50図　INⅡ地区　ST01上位包含層出土遺物 ……102
第51図　INⅡ地区　SH01包含層出土遺物 ……103
　　INⅢ地区　SR04出土遺物(1) ……103
第52図　INⅢ地区　SR04出土遺物(2) ……104
第53図　INⅢ地区　竪穴住居跡出土遺物 ……105
第54図　INⅢ地区　包含層出土遺物(1) ……106

第55図　IN Ⅲ地区　包含層出土遺物(2) ……107

表　目　次

表1　AM－1・2区　SB01・SB02・SA01ピット諸元表 ……28
表2　NKE－8区　SB01ピット諸元表 ……48
表3　中村東地区SR02出土遺物観察表 ……85
表4　NG地区出土遺物観察表 ……85
表5　稲木・高架地区出土遺物観察表 ……86
表6　阿弥陀堂地区遺構一覧 ……91
表7　中村西地区遺構一覧 ……91
表8　中村東地区遺構一覧 ……92
表9　永井地区遺構一覧 ……93
表10　稲木・高架地区遺構一覧 ……96

写 真 目 次

写真１　阿弥陀堂地区　作業風景…… 4
写真２　中村西地区　調査前風景…… 4
写真３　中村東地区　作業風景…… 7
写真４　永井地区　作業風景…… 7
写真５　稲木地区　調査前風景…… 8
写真６　稲木地区　調査区遠景…… 8
写真７　中村東地区　重機による表土除去…… 14
写真８　稲木地区　調査前風景…… 14
写真９　稲木地区　調査風景…… 15
写真10　永井地区　実測風景…… 15
写真11　中村西地区より南を望む…… 16
写真12　埋め戻し作業…… 16
写真13　ST01土器出土状況…… 81

図 版 目 次

阿弥陀堂地区

図版１ (1) １区中世掘立柱建物群（北より）
(2) ２・３区SX01カツラ製品出土状況

図版２ (1) 10～13区SX03（東より）

中村西地区

図版２ (2) ５～７区遺構検出状況（北より）

図版３ (1) １区遺構検出状況（東より）
(2) ２～４区遺構検出状況（西より）

図版４ (1) 10・11区SD02・03（東より）

中村東地区

図版４ (2) ４・５区遺構検出状況（東より）

図版５ (1) ８～12区遺構検出状況（東より）
(2) 15区SK03（北より）

図版６ (1) ８・９区SR01西壁土層（東より）
(2) 15区SR02北壁土層（南より）

図版７ (1) 15区SR02木器出土状況（東より）
(2) 同近景（東より）

永井地区

図版８ (1) ２区SD02（南より）
(2) ２区SD03（南より）

図版９ (1) ５区遺構検出状況（西より）
(2) ７区全景中世建物群（西より）

図版10 (1) 10～12区全景溝状遺構群（西より）
(2) 12・13区SD25（東より）

図版11 (1) 12・13区SD25遺物出土状況（北より）
(2) 12・13区SD25土層（東より）

稲木・高架地区

図版12 (1) Ⅰ－３区SD03遺物出土状況及び北壁土層（南より）
(2) Ⅰ－６区SD07木器出土状況（北より）

図版13 (1) Ⅰ－８区SD11（東より）
(2) Ⅱ－３・４区ST01検出状況（北より）

図版14 (1) Ⅱ－３・４区ST01甕棺出土状況（南より）
(2) Ⅱ－３・４区ST01周溝遺物出土状況（南より）

図版15 (1) Ⅱ－３・４区ST01周溝遺物出土状況（北より）近景
(2) 同近景（北より）

図版16 (1) Ⅱ－３・４区ST01完堀状況（北より）
(2) Ⅱ－３・４区ST01西壁土層（北より）

図版17 (1) Ⅱ－６区ST02検出状況（北より）
(2) 同完堀状況（北より）

図版18 (1) Ⅱ－６区ST02近景（西より）
(2) 同近景（東より）

図版19 (1) Ⅱ－6区遺構検出状況（手前SH01・後方ST02）（西より）
(2) 同SH01近景
図版20 (1) Ⅱ－6区SH01近景
(2) 同近景
図版21 (1) Ⅱ－6区SH01近景
(2) 同SH01柱穴完堀状況
図版22 (1) Ⅲ－7・8区SR04・SD22（北より）
(2) 同SR04木器出土状況（南より）
図版23 (1) Ⅲ－7・8区SR04木製品出土状況近景（東より）
(2) 同近景（南より）
図版24 (1) Ⅲ－9区包含層土層（北より）
(2) 同包含層土器群出土状況（東より）
図版25 (1) Ⅲ－9区包含土器群出土状況近景（東より）
(2) 同近景（東より）
図版26 (1) Ⅲ－11区遺構検出状況（左後方SH02）（西より）
(2) 同SH02全景（西より）
図版27 (1) Ⅲ－11区SH02・03（南より）
(2) Ⅲ－11区SH02・03（東より）
図版28 (1) Ⅲ－15・16区遺構検出状況（手前よりSH04・05・06・SD02）（西より）
(2) 同竪穴住居群全景（手前よりSH04・05右・06左・08・07）（西より）
図版29 (1) Ⅲ－15・16区竪穴住居群全景（手前よりSH08・05左・06右・04）（東より）
(2) 同SH05左・06右近景（東より）
図版30 (1) Ⅲ－15・16区SH07近景（北より）
(2) 同SH08近景（北より）
図版31 (1) Ⅲ－15・16区SH06カマド遺物出土状況（南より）
(2) 同カマド近景（南より）
図版32 (1) Ⅲ－17区遺構検出状況（北より）
(2) Ⅲ－20・21区トレンチ（西より）

各地区出土遺物

図版33 NKE地区出土遺物
図版34 NG地区出土遺物
INⅡ地区出土遺物
図版35 NKE地区出土遺物
NG地区出土遺物
図版36 INⅡ地区出土遺物
図版37 INⅡ地区出土遺物
図版38 INⅡ地区出土遺物
図版39 INⅢ地区出土遺物
図版40 INⅢ地区出土遺物
図版41 INⅢ地区出土遺物
図版42 INⅢ地区出土遺物
図版43 INⅢ地区出土遺物

Ⅰ　はじめに

1.　善通寺市周辺の遺跡

善通寺市は，土器川，金倉川と弘田川の沖積による丸亀平野の西半に位置する。北から東にかけては仲多度郡多度津町と丸亀市と平野を分けて接している。北には中世山城として有名な天霧山，西から南には五岳山と呼ばれる火上山，中山，我拝師山，筆の山，香色山の連なる山塊と大麻山を背にして善通寺市街地が広がっている。これらの山々を境にして北は多度津町，西は三豊郡高瀬町，三野町，南は仲多度郡琴平町と接している。

善通寺市周辺は古代の讃岐を代表する遺跡が数多く見られる。縄文時代の遺跡には，縄文後期から晩期にかけての永井遺跡が知られているだけであるが，沖積平野の下層，大小の河川の河口，そして沿岸の後背湿地などさらに遺跡の発見が期待される。弥生時代前期から中期にかけての遺跡として，丸亀市中ノ池遺跡，善通寺市五条遺跡，善通寺，多度津に広がる三井遺跡などが知られており，弥生時代の稲作開始とともにこの豊饒な沖積平野には人々が集まり，生活を営んでいたと思われる。

善通寺市街地から南の山麓地帯にある弥生時代後期の遺跡は，甕棺の出土した旧練兵場遺跡，用水路の検出された善通寺西遺跡など，墓域あるいは生活基盤地として大規模な集落遺跡の可能性も考えられる。また，山麓部は，陣山遺跡，瓦谷遺跡，我拝師遺跡，北原シンネバエ遺跡など数多くの銅剣，銅鉾，銅鐸の青銅器を出土した遺跡の集中するところである。弥生時代前期，中期と後期の集落遺跡の立地の違い，これらの平野部の遺跡と山麓部の遺跡との関係などは興味深いところである。

古墳時代の野田院前方後円墳をはじめとする７基の積石塚や，同一系譜上の首長墓群と考えられる６基の前方後円墳のある有岡地区，宮ヶ尾古墳や南光古墳群など400基にも及ぶ古墳の存在は，弥生時代後期から古墳時代のこの地の集団の勢力の大きさを物語るものであろう。

さらに，伝導寺，善通寺前寺，中世山城の天霧城跡など，それ以降も善通寺周辺は古代文化の中心として，また，真言宗開祖空海の生誕地。総本山善通寺の門前町として発達している。

1	永井遺跡	10	甲山シスト群	19	北原古墳	29	谷田古墳
2	三井遺跡	11	旧練兵場遺跡，仙遊地区	20	菊塚古墳	30	経塚古墳
3	稲木遺跡A地区			21	王墓山古墳	31	椀貸塚古墳
4	五条遺跡	12	我拝師山　A地区	22	北向神社古墳	32	宮ヶ尾古墳
5	乾　遺跡	13	我拝師山　B地区	23	鶴ヶ峯1号古墳	33	稲木遺跡　B地区
6	甲山遺跡	14	我拝師山　C地区	24	鶴ヶ峯古墳群	34	金蔵寺下所遺跡
7	旧練兵場遺跡	15	山の谷遺跡	25	磨臼山古墳	35	上一坊遺跡
8	旧練兵場遺跡，彼ノ宗地区	16	瓦谷遺跡	26	野田院古墳	36	中村遺跡
		17	陣山遺跡	27	丸山2号古墳	37	善通寺西遺跡
9	稲木遺跡，C地区	18	鷺井神社古墳	28	丸山1号古墳	38	北原シンネバエ遺跡

第1図　周辺地域の遺跡

2. 調査に至る経過

四国横断自動車道路善通寺～豊浜間の供用開始や瀬戸大橋架橋による広域社会経済圏の成立・発展は，従来の地域生活圏における諸体系の改変を迫るものであり，特に，インターチェンジが設置される善通寺市付近の交通量の増加には著しいものが予測される。この混雑に対処するため，都市間幹線道路や市内幹線道路の整備が急がれている。

このようなことから国道11号線，同319号線の両バイパスの建設をはじめ，主要地方道として県道西白方善通寺線の改良工事が計画され，県土木部道路課，善通寺市及び日本道路公団の間で幾度かの協議が行われた。

また，当該地の埋蔵文化財の取り扱いについては，香川県教育委員会と同土木部及び善通寺市とが協議を行ってきたが，隣接地で実施している四国横断自動車道建設に伴う発掘調査の成果をうけて，香川県と善通寺市が調査の契約を結び，発掘調査を実施するはこびとなった。

調査区は，善通寺市弘田町富頭，雲気神社西の現県道西白方善通寺線とりつき部分から国道319号線までのうち，発掘不要とされた弘田川以西，弘田町406（阿弥陀堂）～弘田町310（高熊），下吉田町下所中を除く，全区間を発掘対象とした。

弘田川東岸～県道多度津善通寺線までを	阿弥陀堂地区（1～14区）
	中村西地区　（1～11区）
	中村東地区　（1～15区）
県道多度津善通寺線～下吉田町下所東までを	永井地区　（1～19区）
下吉田町下所東578～稲木町833までを	稲木Ⅰ地区　（1～8区）
	稲木Ⅱ地区　（1～6区）
	稲木Ⅲ地区　（7～21区）

に細分し，それぞれAM 1～14，NKW 1～11，NKE 1～15，NG 1～19，INⅠ 1～8，INⅡ 1～6，INⅢ 7～21と記号化した。発掘区の小区画割は県道用地幅で調査可能な範囲を10m，または20m区画を1単位として設定したが，小河川など特別な事情の時は現行土地割を尊重し区画を設定することとした。

発掘計画当初，弘田川付近，踏切付近は予備調査地区とされていた。しかし，弘田川付近，つまり阿弥陀堂地区は濃厚な弥生前期土器包含層，同期河道，中世掘立柱建造物が検出されたことと道路工事計画を考慮し，本調査を実施した。また踏切付近（稲木地区）についても調査期間を考え，民家移築の必要な部分を残し，他の全区間を殆ど発掘調査した。

写真１　阿弥陀堂地区作業風景

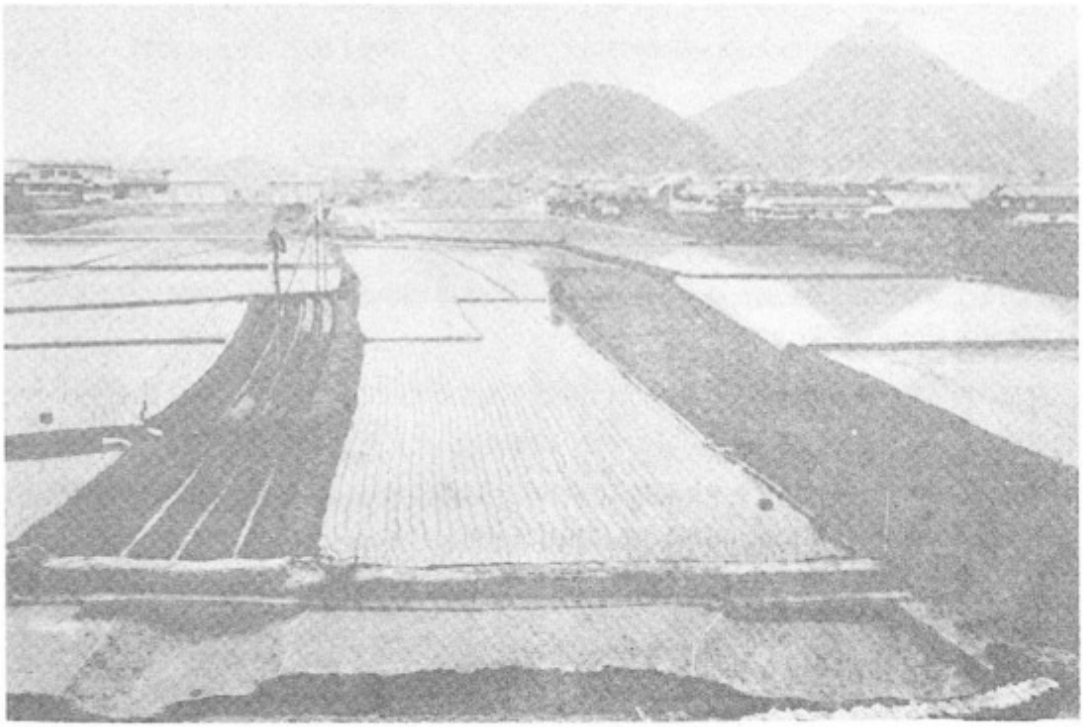
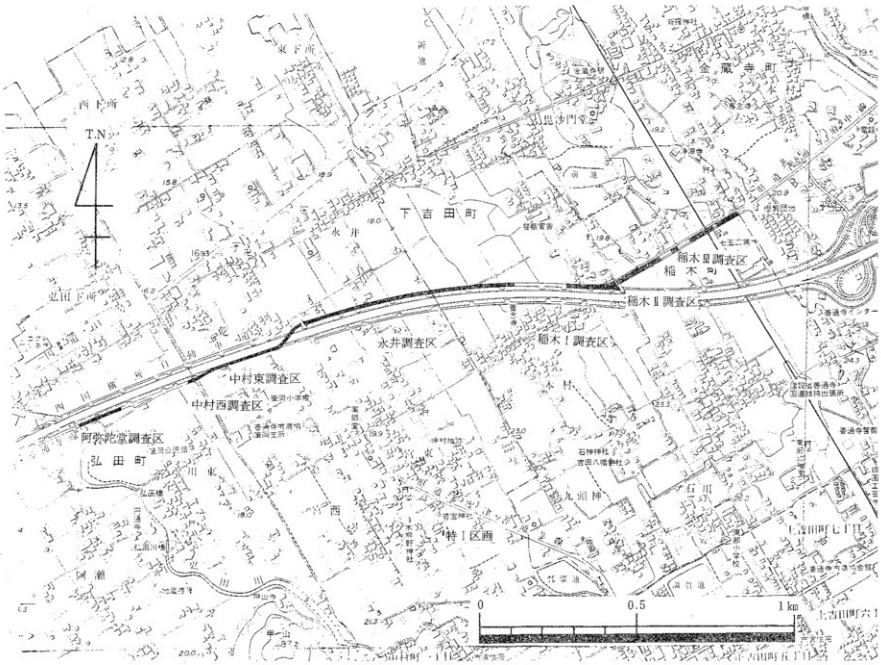


写真２　中村西地区調査前風景



第２図　県道西白方－善通寺線埋蔵文化財調査区割図

写真３　中村東地区作業風景

写真４　永井地区作業風景

写真５　稲木地区調査前風景

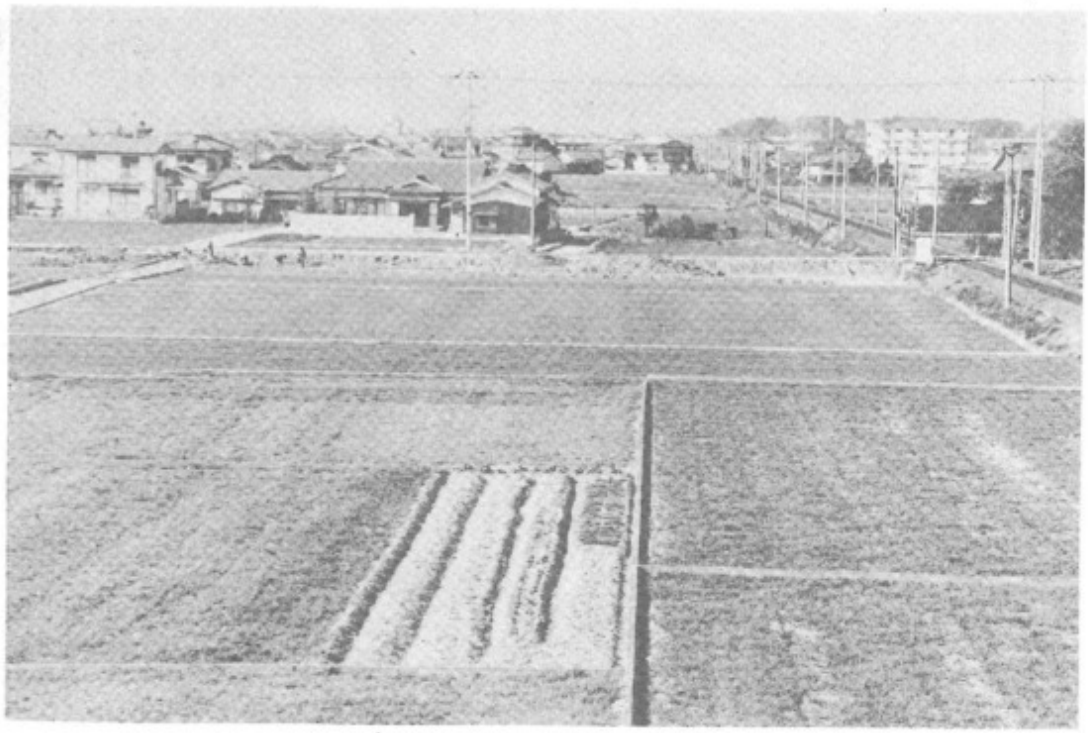


写真６　稲木地区調査区遠景

3. 発掘調査の経過

発掘日誌（抄）

61．4．1　香川県教育委員会事務局文化行政課，香川県土木部道路課，善通寺市都市計画課の人口担当により，調査の全容について打ち合わせ会議。

4．2～11　発掘調査年間計画書作成。発掘調査事務所及び同移動事務所準備。発掘調査記録等調査に必要な各資材の準備。発掘作業員の募集。発掘作業機械の使用計画立案等諸準備を整えた。

4．10　調査地区西端の阿弥陀堂地区より着手。作業機械（バックフォー）により表土掘削。東端（AM１区）より溝状遺構発見。

4．14　男女各作業員が本日より発掘調査に従事する。

4．21　発掘調査移動事務所（コンテナハウス）建つ。調査はAM10～AM13区で弥生時代土器包含層を検出し，本格的となる。

4．22　発電機，ベルトコンベア，水中ポンプ，足場材等準備され，発掘の主要器材も整えられた。

61．5．2　雨天多く，作業は仮テント内にて弥生土器を洗浄することが多い。

5．9　中村西地区(NKW)，中村東地区(NKE)調査区設定。同地区草刈り実施。合わせて阿弥陀堂(AM)地区の弥生土器包含層，自然河川等の精査，記録作成。

5．19　発掘調査移動事務所を中村地区に移転する。

5．23　AM９～13区の調査終了。

61．6．3　AM３～８区調査終了。調査主体は中村地区(NKWとNKE)に移る。NKWでは近世遺構と弥生時代自然河道の調査。NKEでは中近世の掘立柱建物群の検出を行う。

6．6　NKE15区で柱穴群，土坑，溝等検出。

6．20　AM２区において民地水出に水が湛えられ，降雨に絶えず崩壊。土嚢袋，杭，矢板にて応急修理を施す。

6．25　NKE15区で下層に縄文時代土器，石器，木器を検出。幅10m前後，深さ1.5m以上の大溝（自然河道か）であると判明する。この頃，NKWの調査は精査，記録作業にあたる。

6．26　AM１～３区の精査を実施していたが，自然河道または沼状湿地（凹地）SX01より，木器（柄，鍬），編物，石器等が検出された。AM１～２区の掘立柱建物群の柱穴中から中世鎌倉期土器検出。柱穴を調査する。

61．7．1　６月27日に調査区を設定した永井１～６区(NG１～６）の第１区から同地区の発掘調査に着手した。７月はNG，NKW，NKE，AMの４調査区に調査が

分散したため，集中的な進行が困難であった。

7．8　AM１～３区，NKW１～11区，NKE１～７区の調査終了。稲木調査事務所へ発掘資料整理のため，遺物コンテナ移動。

7．11　NG５・６区で縄文時代遺物検出。横断道部分から延長してくる遺構である。

7．16　NKE15区の縄文河道ＳＲ02の遺物検出。現況実測を行う。上層に木器群，下層に縄文土器，石器が多量に検出された。湧水のため苦労する。

7．20　学生アルバイトの募集。NG１～６各区で精査，実測作業進む。

7．21　NKE８～12区の柱穴群，溝，河道などの遺構精査。

7．30　AM14区部分の墓地移転開始。２ヵ月程遅れた着手。

7．31　NKE14区の発掘着手。

61．8．2　NKE８～13区の遺構実測。遺物取り上げ。

8．4　稲木調査事務所にて発掘調査資料のAM地区資料から整理作業開始。

8．6　NKE８～14,15区の西半分，NG１～６区の調査終了。AM14区の墓地移転跡地の表土除去。

8．7　NKE15区の縄文河道とAM14区の調査に集中する。縄文河道では本格的な実測作業，遺物取り上げ作業を開始する。

8．11　横断道工事の部分で，８月中に稲木Ｉ地区（INＩ１～８区）の調査に着手するため，現場移動事務所，資料置場，作業員関連施設整備。INI１～８区の調査基準杭を打ち，調査区設定。

8．13　夏期盆休業とする。（作業員13～17日）調査員，同補助員（15～17日）。

8．18　NKE15区，AM14区，INＩ１～８区において発掘作業開始，AM14区では土坑１基，柱穴群，旧弘田川河道跡を検出，撮影。

8．20　11日準備の下吉田町に移動事務所移転。稲木調査事務所と吉田移動事務所，中村移動事務所の３ヵ所に拠点を置き，調査員と調査補助員で分担調査した。

8．25　AM地区の調査は４月10日より本日まで，延べ４ヵ月の調査で現地発掘作業終了。

8．28　NG11～19区で調査再開。NKE15区のSR02縄文河道の最下層に調査が進む。

61．9．1　四国学院考古学ゼミ12名の調査参加があり，INＩ地区の調査を担当。発掘，実測，写真撮影，資料整理，各内容を実習する。

9．8　NKE15区の縄文時代河道の調査終了。この段階で県道多度津善通寺線以西は，NKWの宅地部分，延長約30mを除き，全区間調査終了した。

9．16　INＩ１～５・８区の調査を終了する。同区６・７区は民家移転の遅れのため，後日まで調査を残す。

9．17　NG15区に調査事務所を移転し，西方のNG７～14区，東方のNG15～19区の各調査区に分散して調査を実施した。新たに５名の作業員が参加。

9．25　NG11～13区では，弥生時代後期遺物を含む溝状遺構が多数検出された。一方NG15～18区では遺構が近代の土取り整地作業のため削平されており，遺構，遺物は良好な状態で発見されなかった。

9．29　NG７・８区では近世建物群が検出された。これらは現代に子孫の続く旧中村村永井の民家であると考えられる。INⅠ６・７区の調査は，用水路の水量と幾度かの降雨のため難行したが，大詰めに近づき実測記録に従事した。

61．10．6　移動事務所下のNG15区でSR02（旧河道跡）を検出したが，遺物の出土はない。

10．14　NG７区，10～13区を除く永井調査区の他区間全てと稲木Ⅰ調査区（INⅠ６・７区）の調査を終了する。高速自動車道では，企業体と数社の請負業者が全線の各地で土工や用水路工を急ピッチで実施している。この工事工程に調査期間を合わせ，各調査区の調査を終了していくため，多忙を窮める調査工程である。

10．20　永井調査区の横断道部分の埋蔵文化財調査部分と県道部分にまたがる溝状遺構追求のため，調査地を拡幅し，両者の結合を図る。（NG11～13区）

10．23　稲木Ⅱ・Ⅲ区の調査準備のため，INⅡ３～６区の調査杭打ちを行う。この付近には菊栽培を行われていたが，その除去後の着手である。NG７・８区の民家跡地の調査終了調査の主体は高架部分に移動した。

10．27　発掘器材置場（仮枠材料で建築した物置小屋）の移転。

10．30　INⅡ４区で壺棺墓検出。NG10～13区断面実測に着手。

61．11．4　NG10～13区の実測作業を終了し，永井地区の全区間の調査を終える。INⅡ６区で河原石積の石棺系石室（ST02）を検出。

11．7　INⅢ11，15～16，17，18の調査区設定。

11．10　INⅡ１～２区調査開始。

11．17　INⅡ３区の菊栽培の終了を待って，本日表土除去。３・４区にまたがる弥生時代後期墳墓を検出。壺棺はこの追葬時の埋葬施設と判明した。またINⅢ７・８区にまたがるトレンチを拡張し，弥生時代，古墳時代，奈良時代にまたがる土器を包含する旧河道SR04を検出。

11．25　INⅡ３・４ST01，INⅢ７・８区の自然河川SR04の調査，遺物検出，遺構実測，写真撮影を繰り返し実施する。

11．27　INⅢ15～18の表土除去に着手し，遺構面の検出にあたる。

61. 12. 1　IN Ⅲ11区の民家移転を待ち，表土除去後，ピット群検出される。IN Ⅱ 6区ST02内埋土除去，副葬品は発見されない。

12. 2　IN Ⅲ11区で竪穴住居跡1棟発見。改めて遺構面の削り出し，精査を行う。

12. 8　IN Ⅲ15～17区の遺構面の削り出しを行う。礫群の集合，弥生土器の集中が確認される。

12. 9　IN Ⅲ18～21区のトレンチ掘りを行う。(試掘)

12. 12　IN Ⅲ19～21区の測量，実測作業を終える。近世用水路，同駐畔跡，湧水より発する河道を確認したが，考古資料は皆無である。即日作業機械で埋め戻す。NKW区の残余部分が民家移転のため可能となる。近世遺構の継続部分を検出した。

12. 17　IN Ⅲ15～17区北の拡張。竪穴住居跡3棟発見により遺構面の全面精査を行う。他に2・3棟の竪穴住居跡が検出される可能性あり。

12. 19　多量の土器，木器の出土をみたIN Ⅲ 7・8区SR04の埋め戻し作業を作業機械で行う。

12. 26　NKW 1区付近の調査終了。年末に近づき，IN Ⅲ11区に1棟，IN Ⅲ15区に2棟竪穴住居址発見。

12. 27　IN Ⅲ11区のSH02，SH03は調査終了し，埋め戻す。年末年始の休み（12月27～1月4日）に備えて，稲木各調査区のシートを張り，保全を行う。IN Ⅱ 6区遺構群，IN Ⅲ 9区，IN Ⅲ15～17区遺構群の調査を昭和62年に繰り越した。

62. 1. 5　調査員，調査補助員，整理作業員の5名で踏切部分の今後の調査と各調査区の資料整理について打ち合わせする。

1. 6　調査範囲の縮小，資料整理の都合もあり，男子作業員を除く軽作業員と調査員，同補助員のスタッフで今後の発掘調査にあたる。

1. 7　IN Ⅱ 6・7区の民家移築部分に15mに東西試掘を行い，同区のSR04の東岸，西岸を把握する。IN Ⅲ15，16区住居跡の床面検出を行う。

1. 9　調査はIN Ⅱ ST01と同Ⅲ区の住居跡群と弥生土器包含層（IN Ⅲ区）に限定された。

1. 13　IN Ⅱ 3・4区にまたがるST01の本格的精査に入る。積石の方形墳墓と推定される。1月から現場作業に並行して，土器洗浄，同注記。土壌サンプル水洗い，各調査区実測図整理の室内作業も実施する。

1. 23　この頃，発掘作業も前年のペースで順調に進み，ST01とIN Ⅲ15・16区の住居跡群の詳細が顕れる。検出－実測－遺物取り上げ－検出の手順の繰り返し。

1. 28　ST01の配石のある周溝を実測，墳丘の平板実測にあたる。

62. 2. 2　IN Ⅲ 7・8区のSR04の東岸肩部にあたる同9区に弥生土器が多量に検出される。完形の出土状態に近い。雪混じりの降雨。

2. 4　ST01周溝底の検出。土器集中が認められる。墳墓における祭祀の跡か。

2. 9　IN Ⅲ 15・16区の住居跡群の床面状態を再点検し，SH06の竈跡を検出，写真撮影，実測を行う。ST01の拡張トレンチを精査し，単純な方形墳墓でないことを確認する。

2. 13　IN Ⅲ 15・16区の古墳時代住居址群の下層に遺構の有無を確かめるため，作業機械により掘削。IN Ⅲ 9区の東西トレンチ第4層土器群の検出，実測，取り上げ。

2. 16　IN Ⅲ 17区の礫群中の弥生土器，須恵器，土師器の検出，清掃，写真撮影，実測，遺物取り上げ。IN Ⅲ 15・16区の埋め戻し作業開始。ST01実測図の最終的チェックを行う。

2. 20　NKE調査区の未買収地調査残地の工事立会。この部分に明確な遺構は認められない。IN Ⅲ 9区は，さらに下層にも土器群が検出される。撮影，実測，取り上げ。

2. 21　ST01の横断調査。下層には遺構は存在しない。作業機械による埋め戻し作業を行う。本日で，現地発掘調査は一部実測を除き完了する。

2. 23　本格的な室内整理作業に着手。土器復元，石器実測，遺物写真撮影を行う。

2. 26　NKE調査区の引き渡し事務を行い，横断道沿線の県道用地の現場での発掘調査は完全に終了した。

62. 3. 1　IN Ⅱ 3・4・6区の埋め戻し作業完了。

3. 3　IN区の土器洗浄を終え，復元作業に着手。遺物写真整理。室内作業順調に進行。

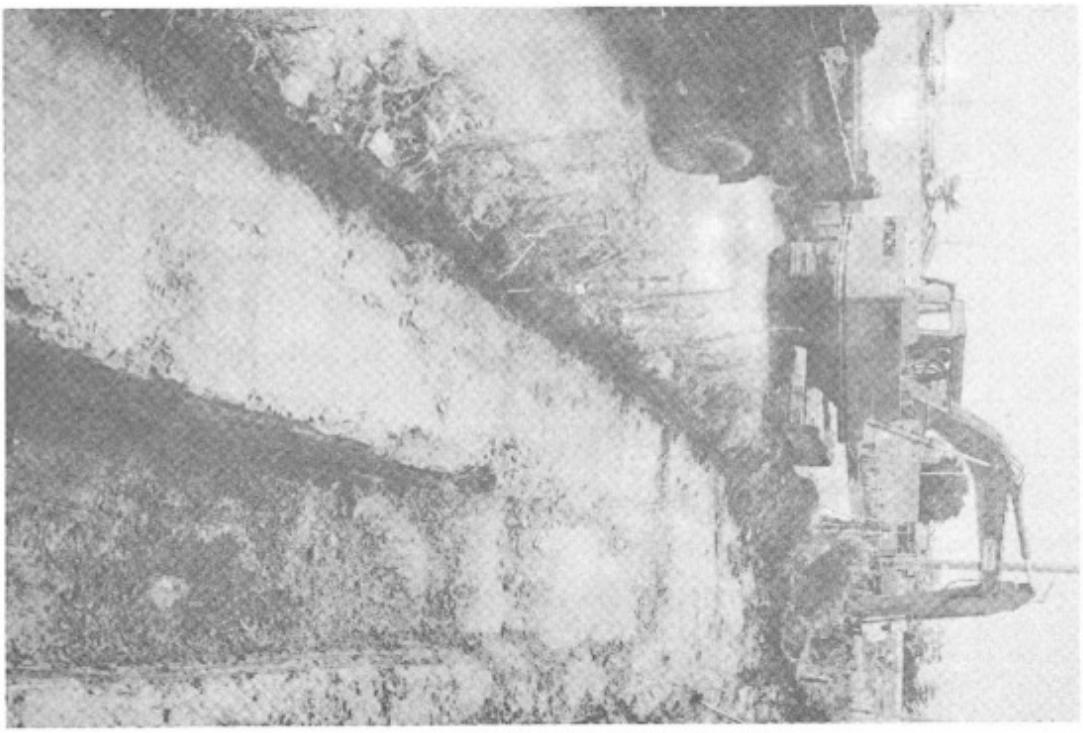


写真７　中村東地区重機による表土除去

写真８　稲木調査前風景

写真 9　稲木地区調査風景

写真10　永井地区実測風景

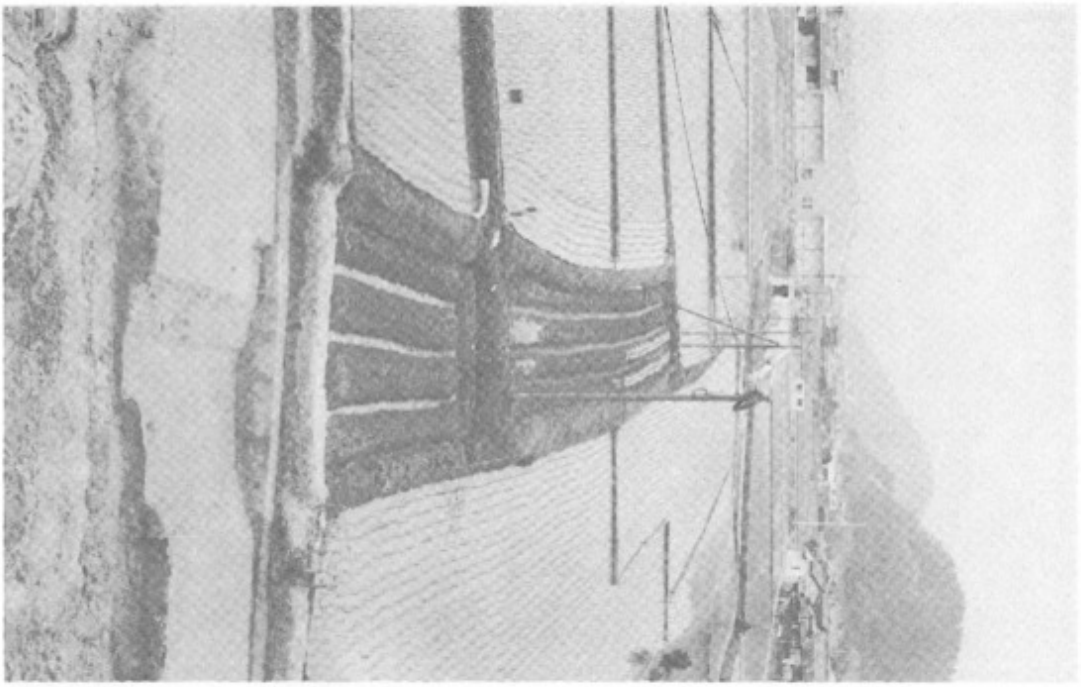


写真11　中村西地区より南を望む

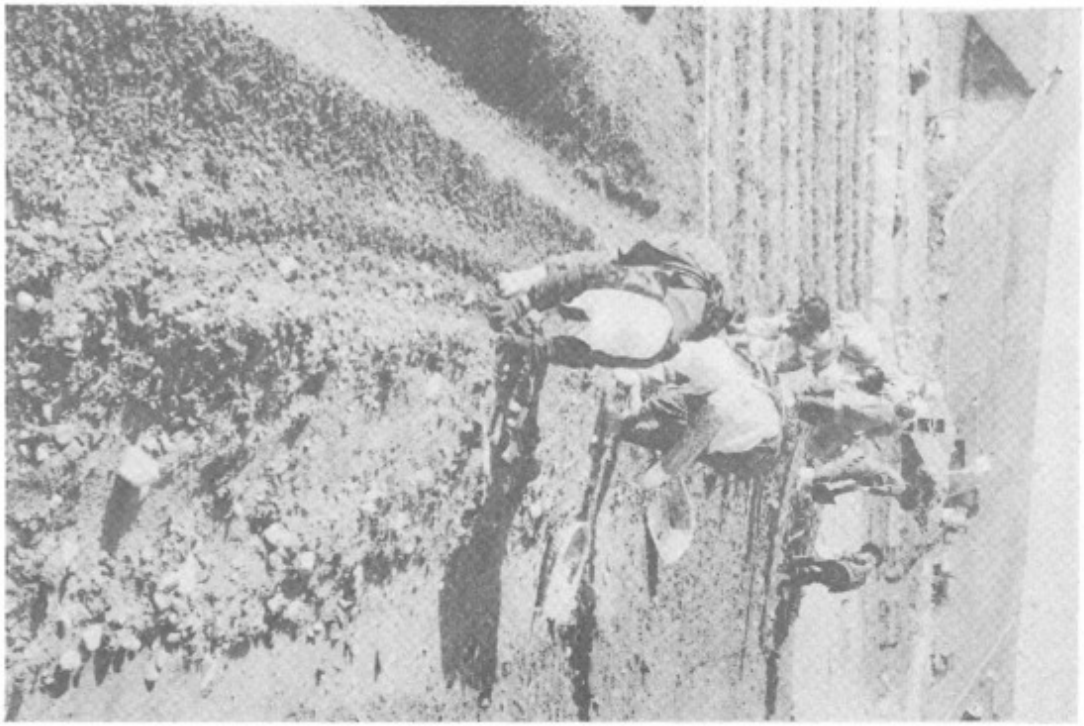
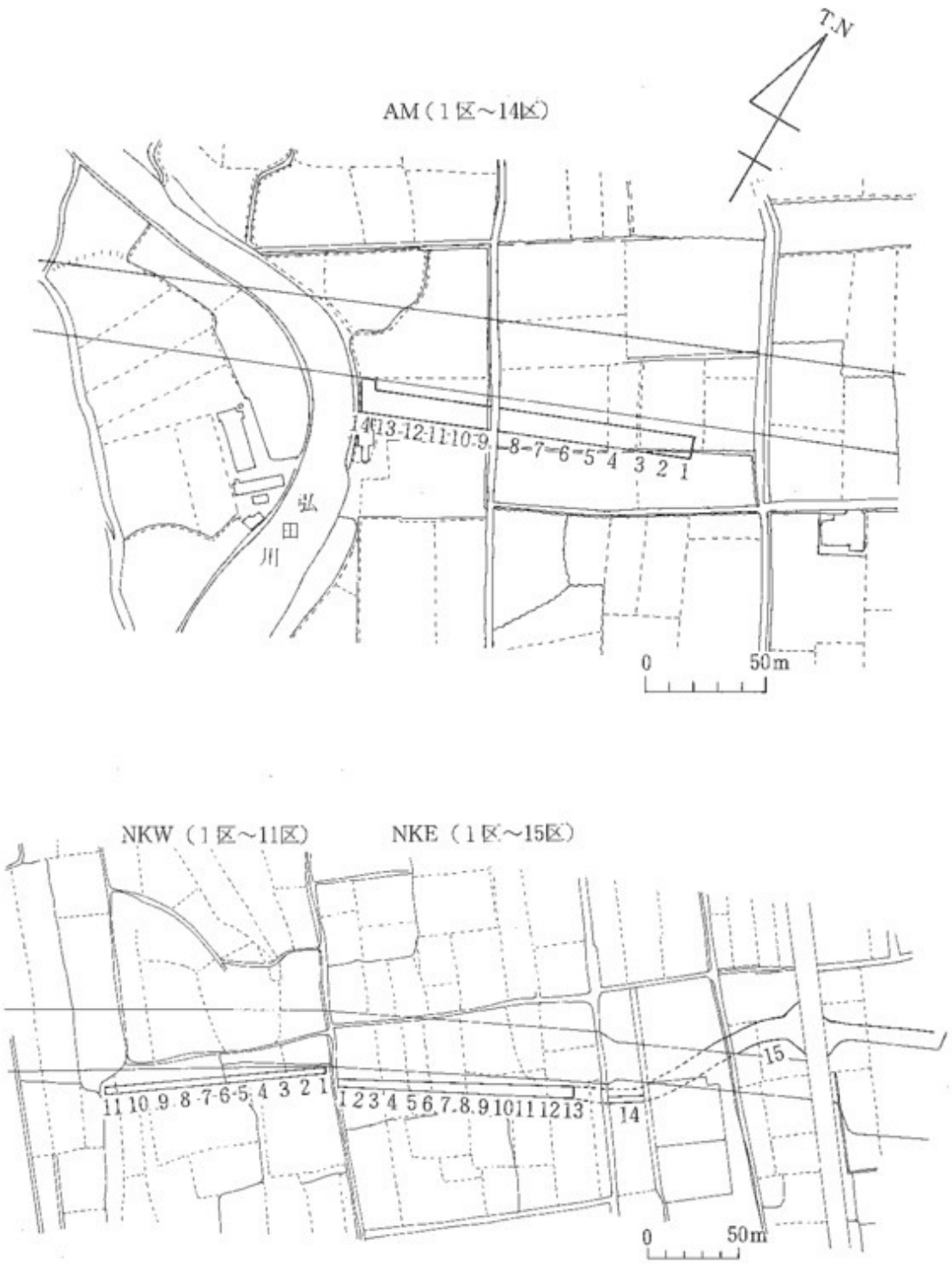
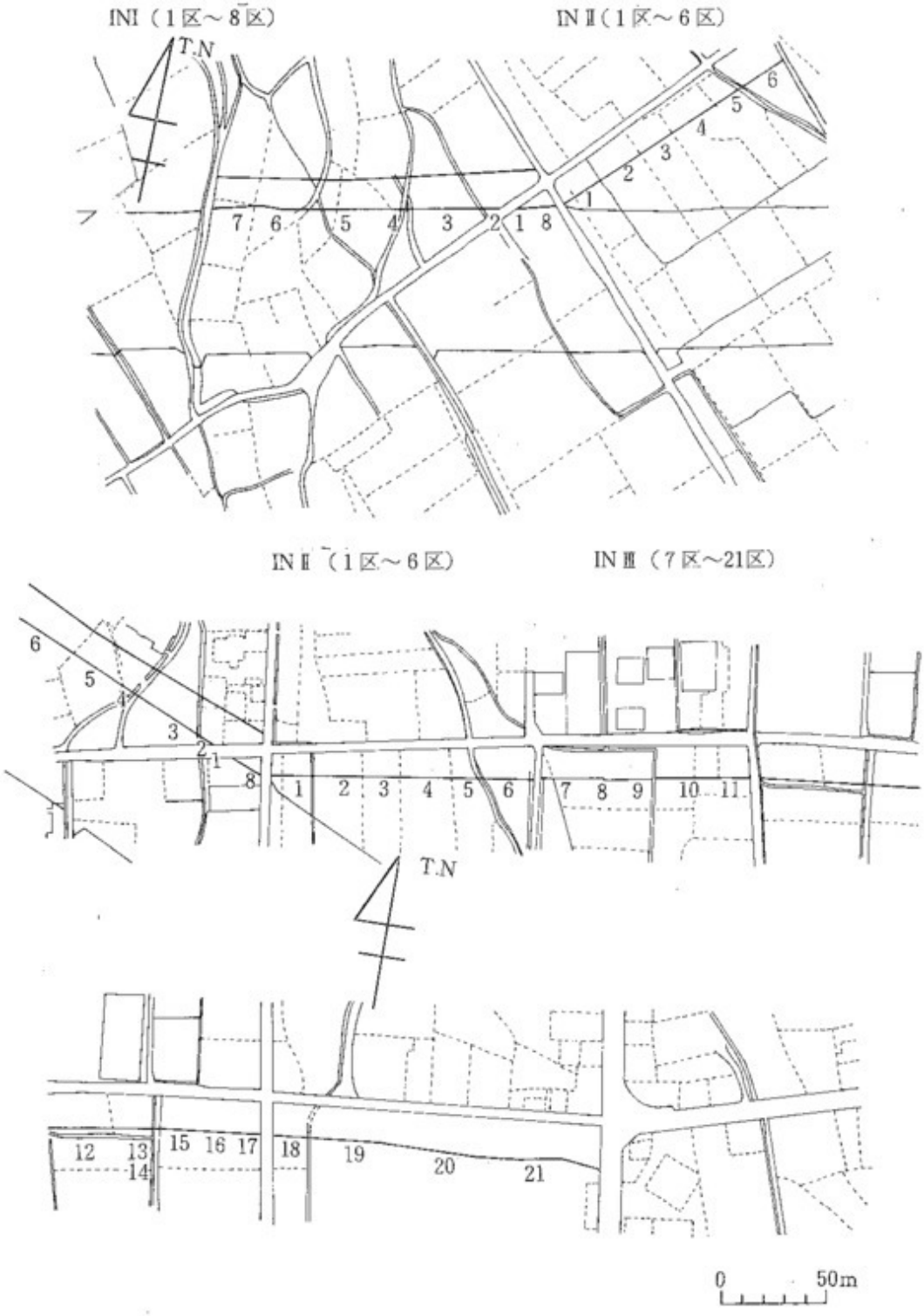


写真12　埋め戻し作業



第3図　県道文化財調査区割図　阿弥陀堂地区，中村西地区，中村東地区



第4図　県道文化財調査区割図　稲木地区

第5図　県道文化財調査区割図　永井地区

Ⅱ　阿弥陀堂地区

1.　調査の概要と調査小区の設定〔AM 1 ～14〕

善通寺市善通寺町有岡の大池に源を発し，多度津町白方沖に流入する弘田川右岸に位置する。弘田川は，旧多度郡の主水脈を為す全長５km余りの小河川であるが，北東から北西へ流路を変更する総本山善通寺あたりの中流以下はいわゆる曲流蛇行する河道を呈し，左右両岸に旧河道跡の河岸段丘地形を留めている。横断道に接する弘田川阿弥陀堂付近では，西側つまり左岸側に旧河道氾濫原の段丘を形成し，右岸は鋭く削り取られる急崖を呈している。左岸は小字荒中と称すが，これはその状況を留める地名とも考えられる。

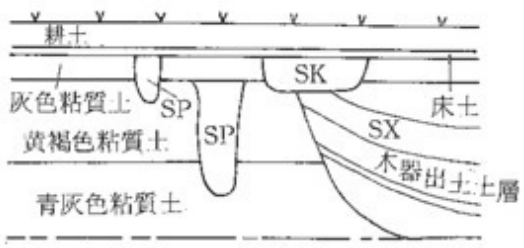
調査区は，市道を挟み東西140m1,210㎡の範囲である。調査対象はこの弘田川流域の右岸側東西140m程と設定されていたが，遺跡はなお東へ100m以上拡がるものと考えられる。また，本調査は県道部分に限定されたものであるが，四国横断道敷地部分に12,000㎡に及ぶ遺跡範囲が想定される。付近は南東に高く，北西に低い標高14～15.5mの平地で，現在は条里区画割を留める美田で，丸亀平野の二毛作地帯である。標高14mの等高線は，下流に大きく湾入するようにたどれるが，このあたりから一転して今度は右岸側に河岸段丘が形成されているためである。

調査は横断道本線の土工と並行して実施したが，土工に付帯する関連工事とも協調しながら実施する必要があり，結果的には４月～８月の長期間を要し，後半は他の調査区との並行調査となった。８月の調査は，弘田川沿岸の弘田町集団墓地移転後の残地調査である。調査区は，市道を挟み東85m，西52mの延長で，東から10m単位に１～８区，西へ向じく10m単位に９～14区を設定した。南北幅は県道敷地範囲であるが，必要に応じて最大23m，最小６mの幅で調査した。

2.　調査の概要

(1)　土層序

基本層序付近は，土壌学上灰褐色土と呼ばれる花崗岩類を基とする粘質土の風化土壌である。基本層序は，右に図示するとおりであるが，地山土層にあたる黄褐色粘質土層は地形の高い東南に高く（浅く），その上層の灰色粘質土層は弘田川沿岸に厚い。また，弘田川沿岸部では黄褐色粘質土と灰茶色砂礫土層が接する部分があり，弘田川の沖積する砂礫土の影響が顕著に見られる。



第６図　AM地区基本土層図

(2) 主要遺構　・掘立柱建物2棟（SB01，02）
・土坑4基（SK01～04）
・小ピット群2群（AM1～3区，AM13，14区）
・土器群2群（AM1区，AM10区）
・溝2条（SD01，02）
・旧自然河道（SX01）
・沼条凹地（SX02～04）

① SB01

調査区東辺AM1～AM2区で検出された柱穴群より復元される廂付建物で，出土遺物より中世の遺構と考えられる浅い凹みを持つ土器群と共存する。SB01は，P1・2・3・4，P5・6・7・8，P9・10・11・12から成る東西3間以上，南北2間で南，西，北辺にP13・14・15・16，P16・17・18，P18・19・20の廂を持つ。土器群01は，この建物に付随する厨房の如き生活空間の遺構であるらしく，須恵器系大型甕，土師器杯，皿，椀，白磁片等を伴う。P11・12・13・17に土器片が埋没し，P3・4・5・7・9・10・12・17に柱根跡及び根石が検出されている。先に廂部分としたP13・14・15・16とP18・19・20には根石は検出されていない。またP9・10・11・12列の南3.5mに検出された東西に並ぶ4柱穴は，SB01に平行する柱列で同建物と同時期の建物柱列であると考えられる。SB01の東西柱列の方位はN68°～68°45′Eであるのに対し，前記4柱列はN67°Eを測る。以上は調査範囲のデータ処理による復元であるが，SB01は東西2－3－3m，南北2－2mの掘立柱建物と考察される。

② SB02

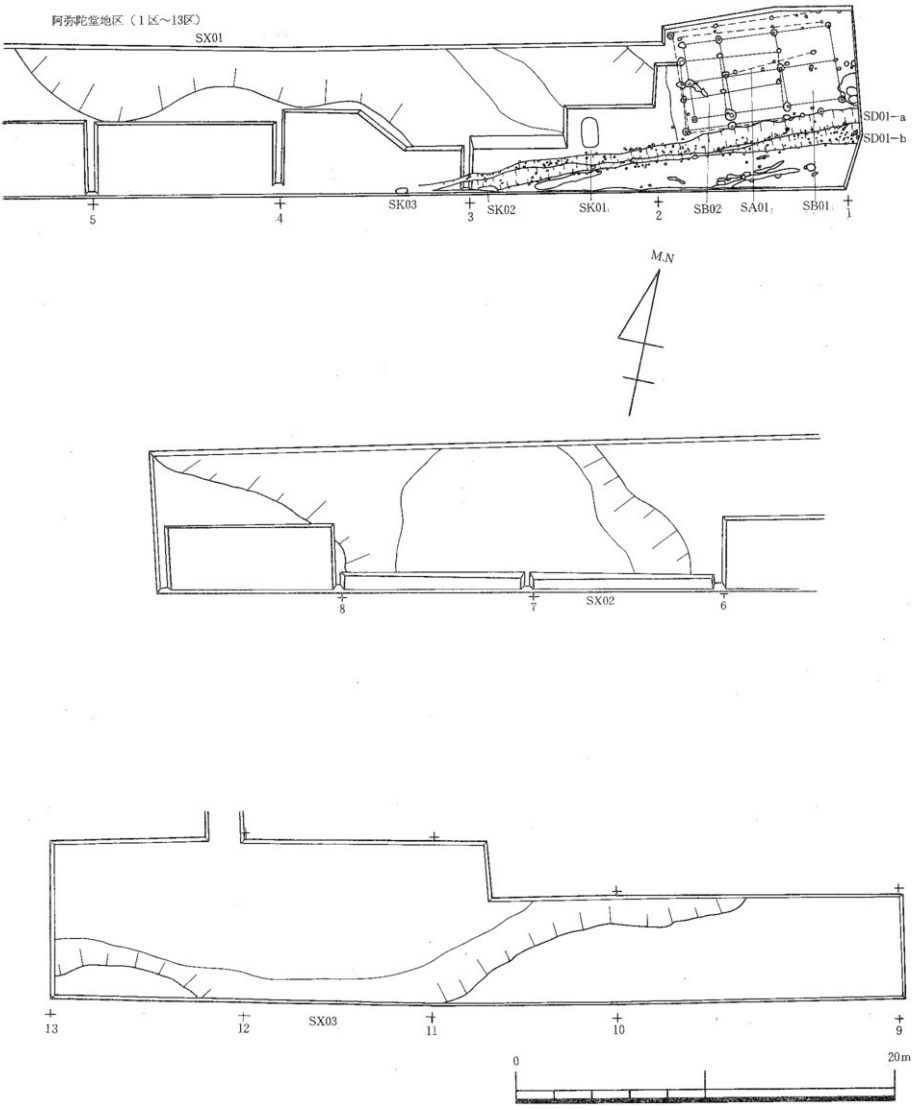
東西に並ぶP1・2・3，P4・5・6，P7・8・9，P10・11・12・13から復元される掘立柱建物であるが，小規模なむしろ棚列の一部ともみられるP11・12・13の方位がP10，1・4・7と直交しないことから疑問が持たれる。柱根基部の根石の有無と方位から1棟と推定したものである。埋土状況，柱穴の規模はSB01と基本的にはかわりないので，SB01時期に近い頃の掘立柱建物であると推定される。

③ SK01

SB01，SB02の西方4mに検出された隅丸長方形の土壙である。埋土は黄灰褐色シルト混じり粘質土1層で，遺物は確認されない。主軸方位はN20°Wを指し，長軸1.5m，短軸0.9mを測る。掘り上げの断面形は共にU字形で，その深さは10～13cmと浅いものである。性格は不明である。

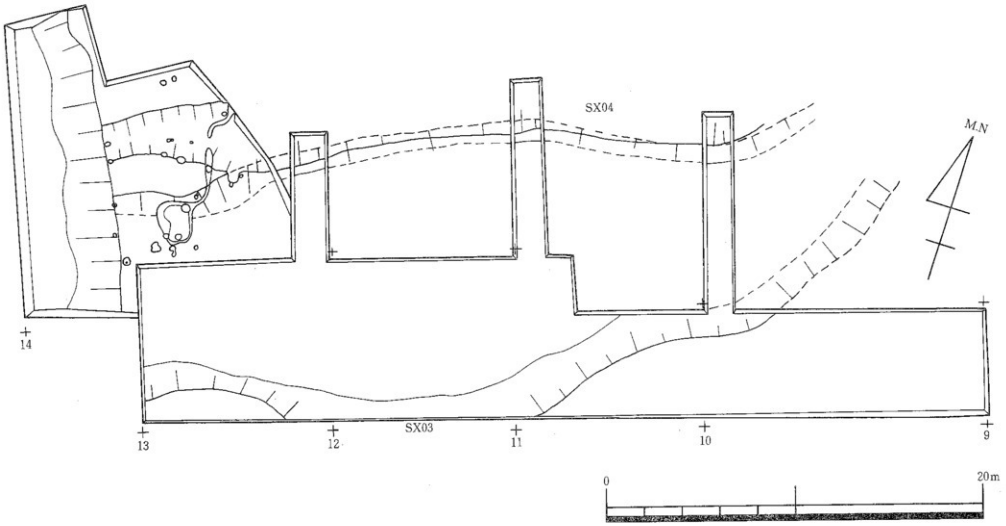
④ SK02

AM2区の西南辺に半分のみ検出された長さ40cm以上の土壙であるが，埋土はやはり黄灰

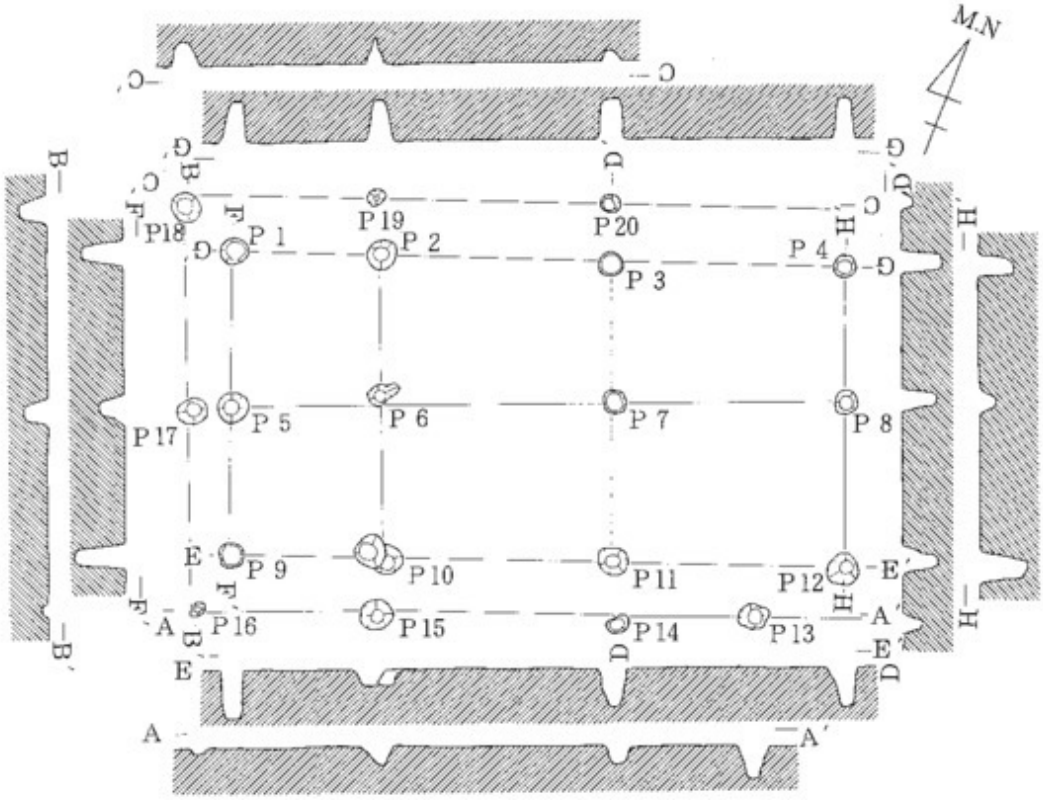


第7図　阿弥陀堂地区遺構配置図(1)

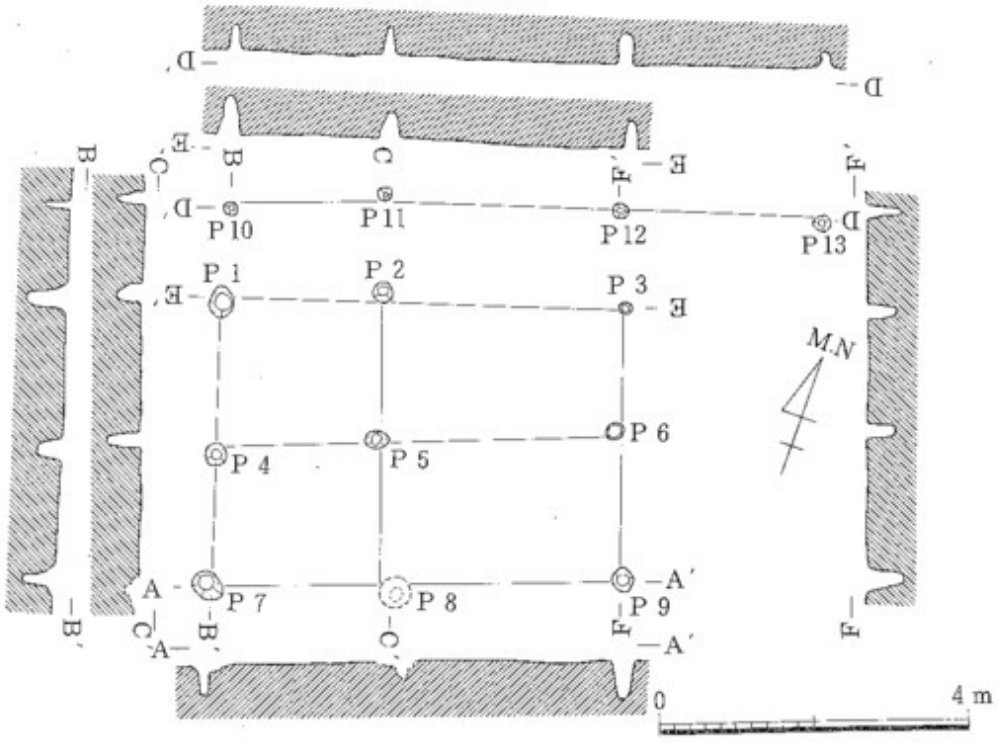
阿弥陀堂地区（９区～14区）



第８図　阿弥陀堂地区遺構配置図(2)



第9図　AM－1区　SB01平・断面図



第10図　AM－1区　SB02平・断面図
レベルはすべて14.40m

表1　AM1・2区　SB01・SB02・SA01ピット諸元表

遺構名		ピット番号	上径(cm)	下径(cm)	深さ(cm)	色調	柱根	遺物	石その他	方位
SB01	建物	P1	34	13	52	黄灰，Fe，Mn暗灰	—	—	—	N68°45′E
		P2	40	11	52	黒灰，黄灰，灰，黄灰ブロック	—	—	—	
		P3	31	11	52	灰黒	○	—	石（2）	
		P4	30	21	52	灰シルト，黄灰シルト	○	土錘足	石（6）	
		P5	38	16	34	黄灰	—	—	石（2）	N68°00′E
		P6	32	12	30	黄灰，灰（黒）	—	—	—	
		P7	32	14	45	黄灰シルト，灰黒粘土，黄灰ブロック，暗灰黄粘土	—	—	石（4）	
		P8	32	18	20	黄灰	—	—	—	
		P9	32	17	66	黄灰，灰黒，黒灰灰シルト	○	—	石（1）	N68°30′E
		P10	20	12	13	黄灰	—	—	石（1）	
		P11	36	16	45	茶灰，灰黄，灰，黒ブロック	—	土師小皿	—	
		P12	43	22	49	黄色灰シルト，灰黒シルト，灰黒ブロック，灰ブロック，黄褐ブロック	○	木片，土師小皿，カメ片	黒コゲ石	
	廂	P13	40×28	8	40	黄灰，黒灰，灰黒黄ブロック	—	土師	—	N68°00′E
		P14	32	7	22	灰，黄灰，白灰，黄褐色と灰のブロック	—	—	—	
		P15	40	7	22	黄灰シルト，黄灰	—	—	—	
		P16	13	8	5		—	—	—	N22°00′W
		P17	34	17	30	黄灰，灰色，黄灰（黒）	—	—	—	
		P18	40	16	32	灰黒，灰シルト，黄灰	○	—	—	
		P19	22	12	39	黒灰（黄混じり）黒灰，黄灰	—	—	—	N68°30′E
		P20	21	7	15	黄灰，Fe，Mn	—	—	—	
SB02	建物	P1	35	14	50	黄ブロック，灰黒ブロック，灰	—	—	—	N73°00′E
		P2	44	19	55	黄褐色粘質土（含灰），黒灰色黄色まじり，黄灰色	—	有	石（2）	
		P3	18	9	37	灰白，灰黒（シミ状）	—	—	—	
		P4	28	12	32		—	—	—	N69°00′E
		P5	20	8	40	黄灰，茶褐，黒黄灰混じり	—	—	—	
		P6	20	12	36	灰，黄，灰黒，Fe，灰色シルト	—	—	—	
		P7	36	8	36	黄灰，黒色	—	—	—	N70°00′E
		（P8）	40	16	26		—	—	—	
		P9	32	12	50	黒灰（炭混），黄灰，黄灰黒ブロック	—	土錘	—	
	廂	P10	16	6	31		—	—	—	N77°30′E
		P11	23	10	34	黄灰，灰黒ブロック	—	—	—	
		P12	18	5	46	灰色，Fe，Mn灰黒色	—	—	—	
		P13	17	10	20		—	有（？）	—	
SA01		P1	20	12	24		—	—	石（1）	N61°45′E
		P2	32	12	30	黄灰，灰（黒）	—	—	—	
		P3	20	10	28	黄灰，暗黒ブロック状	—	—	—	
		P4	14	10	24		—	—	—	

褐色シルト混じり粘質土であり，深さは５～10cmと更に浅く近世以降の所産と考えられる。遺物は出土しない。

⑤ SK03

AM３区の南辺に接して検出された土坑で，主軸方位はN60°Eを指す。埋土は黄灰褐色シルト混じり粘質土である。長軸114cm，短軸72cm，深さ20～28cmを測る。土坑底部の中央部には，10数個の河原石が散乱している。遺物は検出されない。東のSK01，半分調査されたSK02と共に比較的新しい近世の所産と考えられる。

⑥ SD01－ａ，SD01－ｂ

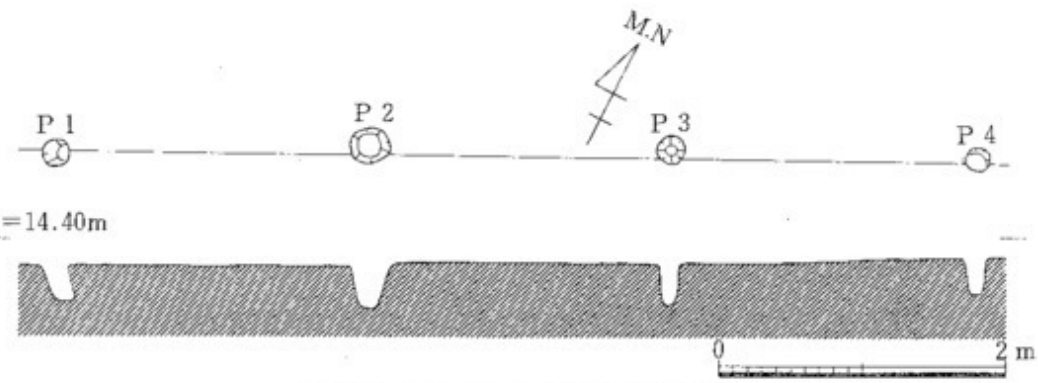
善通寺市弘田町字阿弥陀堂411－１，410－１の北辺に流れる用水路で，ａ・ｂはその新旧であろう。AM１～３区の南辺にN70°Eの方向に軸を定めた幅40cm，深さ数cmの浅いU字形断面の溝である。両者を加えた最大幅は東部にあり，75cmを西方では１本に収束するように検出された。その溝中には多数の杭が打ち込まれているが，南に高く北に低い水田の落差と用水路の確保を目的とした木杭であろう。全体としては直線的な配列であるが，個々の関係は不明で，杭穴の方向にも一定の規格は認められない。累次的に打ち込まれたものと思われる。現代の地割用水路に合致することから，その築造期もそれらを遡るものではないだろう。

⑦ 土器群01

AM１区の東辺に検出された土器群で，掘立柱建物群と同一遺構面より検出された。南辺はSD01に接し，西辺はSB01に直接する状態で，南北に細長い不定形土壙状の落ちが認められ，土師器，瓦質土器，陶磁器の土器片から成る土器群である。南北長2.3m，東西幅0.6mを測る範囲に土器片が集中するが，東への広まりは未確認である。土器の構成としては，須恵器または瓦質の大甕１個体，土師質大甕１個体の細片を中心に，土師器，土鍋，羽釜，三足土鍋，皿，小皿，椀，陶磁器，灰釉山茶碗，白磁の細片が集合するものである。

⑧ SA01

AM１区のSB01，SB02に重複して検出された柱列でその方位はN61°45′Eを測る。SK01，



第11図　AM－１区　SA01平・断面図

SK03に似た方向を示すが，中世掘立柱建物SB01，SB02とは無関係と思われる。P1－220cm－P2－215cm－P3－215cm－P4と柱間215～220cmの直線的な施行であり，その埋土は黄灰褐色と共通している。柱穴の上径は14～20cmと規格は一定していないが，深さは24～28cmに一定している。各柱穴内には遺物の出土は認められない。時期不明。

⑨ 旧自然河道 SX01

AM1～3区にかけて中近世遺構群の下層に検出された幅12～15m，深さ1m前後の落ち込みで，N60°～65°Wを指し，さらに調査区外の南北に広がるものである。横断道予備調査（香川県教育委員会実施）の試掘調査では，本調査区北50mの弘田町400－1，402にかけて幅60m，深さ1mで検出された落ち込みと対応する。本調査区でも北辺寄りでやや拡幅の傾向を示すが，横断道北側道部では4倍もの幅に広がっていることになる。中世遺構面（SB01等）以下の層序は第13図のとおりである。これを見ると，中世遺構面形成時以前にこの落ちは暗黄灰色粘質土層の水平面によって整地されており，その下層の黄灰色粘質土層とともに或る時代の生活面となっていることが判明する。遺物をあまり含まないことから，条里区画された水田面であると推定される。

SX01の最上層は，灰色シルト質土層（数cmレンズ状堆積）で，以下黒色有機質混じり粘質土層（数10cm前後のレンズ状堆積，無遺物），暗灰黒色粘質土層（15～20cmレンズ状堆積，垂直方向にサンドパイプが形成されている植物遺体＝植生の検出有），青灰色シルト質混じり粘質土層（青灰色還元が強いが肩部では黄褐色粘質土に変化する），砂礫土層と続く。

このSX01は，ここでは自然河川として扱っているが，この調査区における落ちの範囲，さらに横断道北側道の試掘調査部分においても，例えば砂利，礫，シルト質土層の顕著な堆積によって判明するような旧河道堆積物はあまり認められず，むしろ有機質粘質土，微細なシルト混じり粘質土，垂直分布を示す植生遺体等からすると，沖積地氾濫原に残された凹地部分であった可能性が高い。後述するSX02の落ち込みは丸亀平野の水系方向と逆の南に深く北に高いものであったため沼状凹地としているが，このSX01の場合も旧河道の沖積作用と関係した水系方向と合致する沼状凹地であったとも考えられる。

SX01では，弥生時代前期土器，木製鍬，棒状柄具，藁編物，カツラ編物，石斧，若干のサヌカイト剝片等が検出された。弥後の所産になる遺物が全く含まれぬことや，先述した条里区画に関係すると推定される整地以前は，この付近は集落から少し離れた原野または水田地帯であること等からすると，このSX01に含まれる土器，木器，植物製品は弥生時代前期の文化内容を伝える香川県でも重要な資料であると言えよう。また，香川県教育委員会による試掘調査（弘田町400番地）の際の木製高杯その他の木製品，木材片の出土と本調査内容を総合すると，SX01は上流部に細く，横断道北側道では数10mに拡大する広大な河道または沼状凹地であると推察される。このSX01は，周辺の地形の詳細な傾斜状況の検討からすると，さら

に北西方向に継続するものと判断され，今後，充分に検討，調査されるべき遺構であると考えられる。

⑩ 沼状凹地 SX02

SX01の西方25m，AM6・7・8区に検出された落ち込みで，調査区南辺に深く，北辺では縮小している。水系方向と逆方向に深みを持つこの凹地は，沼状を呈していたと推定される。

調査範囲で検出されたこの凹地は，東西20m弱，南北9m以上の不整円形を呈するが，北接する横断道部分での試掘部分でも10m前後の落ちの範囲が確認されているので，更に北方へも伸びるものと推察される。なお，この凹地の深さは85cm前後を測り，上層から水田床土と水田のための整地層とみられる灰茶褐色粘質土層，砂混じり暗灰茶褐色粘質土層，沼状堆積層とみられる暗灰茶褐色～灰黒色粘質土層，最下層の青灰色粘質土層と変化する層序である。この凹地には植物遺体はほとんどなく，少量の弥生土器片，縄文土器片，サヌカイト剝片が検出されただけで，凹地の年代幅を示す資料は少ない。以上の状況からすると，この凹地はSX01の自然河道（沼状凹地）とほぼ同時期に存し，条里制区画割の成立する古代，少なくとも中世には周囲の平地と区分不可能になっていたと推定される。縄文土器，弥生土器，紡錘車，サヌカイト剝片は最下層に近い部分に検出されたが，このことからすると縄文時代晩期，弥生時代前期頃までは沼状凹地の全容が地表に露呈していたと言いうる。

⑪ 沼状凹地 SX03

弘田町集団墓地の調査区AM10～14区にかけて調査区全域を占めるようなかたちで東西に細長く検出された凹地で，東に浅くAM13区で最も深い溜状を呈する。

地表から40cmは近現代の水田耕作土，床土，客土で，それ以下80cm程がSX03の埋土である。灰茶～暗茶褐色を呈す断面は，最も有機質の分解が進んだとみられる中層を目安に上層・中層・下層の3層に分類した。

このSX03の南限は発掘区内にほぼその旧状が検出されたが，北限は後述するSX04に切断され明確ではない。また，その西限は旧弘田川河道の侵食により削り取られ，その外延がどれ程であったかは不明である。現存検出された範囲で東西41m，南北幅14m前後，深さ0.8mの数値が得られる。

水田耕作に関係する土層を除去し，包含層Ⅰに至ると多量の弥生土器片とサヌカイト片が検出され，以下包含層Ⅱで最も多量に，更に包含層Ⅲでも少なからずそれらが検出された。また，包含層Ⅲでは最古形態の弥生土器と縄文土器細片が検出され，注意が引かれた。

弥生土器は整理箱15箱分程であるが，その詳細は口縁部，底部，胴部文様ごとに分類しているが，壺，甕，鉢の3種類から成る。それぞれの器形は細片のため復元不可能である。包含層Ⅰ，Ⅱ，Ⅲと堆積順に新から古形態に遡るため，このSX03は比較的長い時間をかけて埋

没していったものと考えられる。縄文土器は少量であるが，晩期の凸帯文を有する壺，鉢が認められる。Ⅱ層に少量，Ⅲ層に若干認められる程度で，弥生土器の新古に見合う状態でその量変化がみられる。このことからすると，SX03包含層の下層，つまり包含層Ⅲから包含層Ⅰへの土器，サヌカイトの埋没は，近くに予知される縄文時代晩期～弥生時代前期にかけての集落での土器形態の変化に見合うかたちで順次行われたものとみられる。

また，石器類も包含層各層より出土し，サヌカイト石核，剥片，サヌカイト製打製石斧（大・中・小3種），安山岩製打製石斧，結晶片岩製打製石斧，片岩製磨製石斧，火成岩製磨製石斧，サヌカイト製石包丁（中・小2種），不定形石器，打製石鏃から成る。整理箱5箱程出土している。

⑫ 凹地 SX04

AM14区北寄りに検出された深さ10～15cmの浅い凹地で，SX03の包含層を切るかたちでSX03の北辺に沿って検出された。AM13トレンチ，AM12トレンチでも同様SX03の北岸を切る状態で検出されたが，AM11トレンチの範囲では検出されなかった。SX04の埋土は，暗黄灰色粘質土層，AM13・AM12トレンチではやや青味のある同色粘質土層であった。遺物は全く含まれていないため，時期は確定できないが，中世土壙SK04を切るピット群によって切られている。

⑬ SK04

ピット群のほぼ中央に検出された浅い土坑で，付近が水田化された段階で，上部は削平されたものと考えられる。主軸はN20°E方向を指し，長軸225cm，短軸180cm，深さ10cmを測る。埋土は黄茶褐色を呈し，須恵器系土器（坏），土師器（坏，小皿，椀），土鍋支脚が検出された。時期は土器資材の比較検討からすると中世と考えられる。

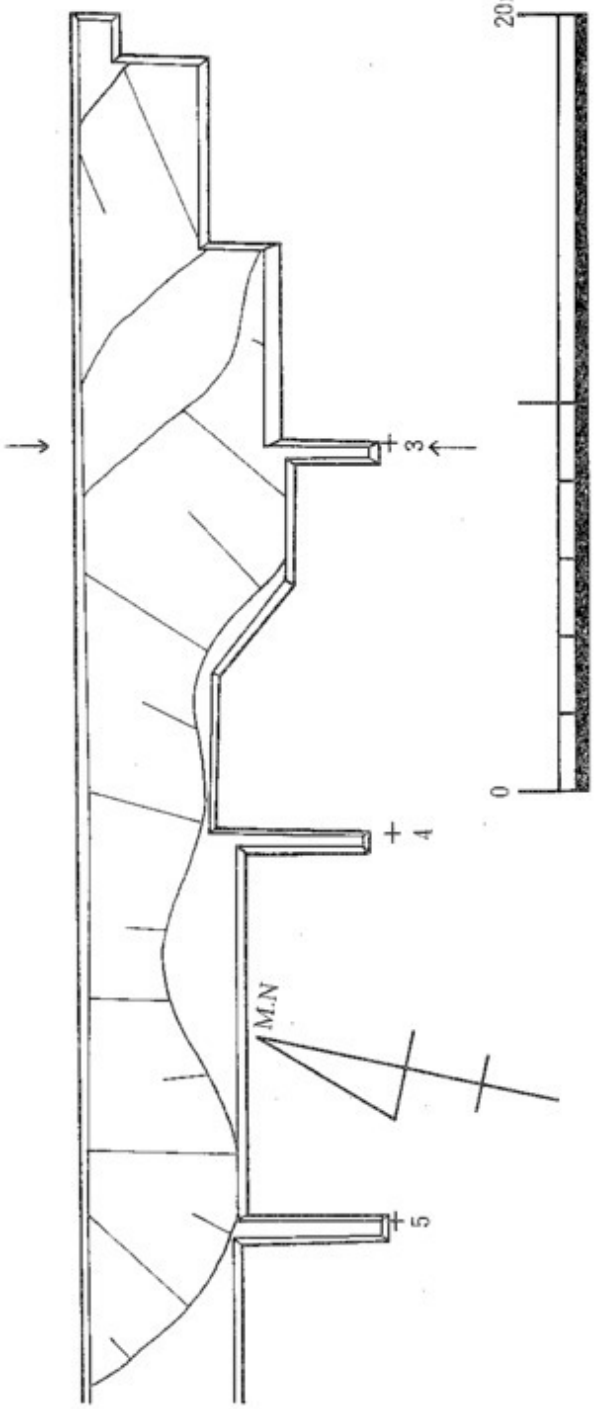
⑭ ピット群

上径11.5～33.5cm，深さ10～69cmまでのピット群がAM14区に検出されたが，一定の方向性や配列の再現は不可能であった。柱根・柱痕の有無，埋土の色調，根石の有無からすると南北6m，東西4m以上の建物が弘田川右岸沿いに存在していたものと推定される。遺物は含まれないが，SK04と同一遺構面からの掘り込みであるので同時代のものと考えてよいだろう。

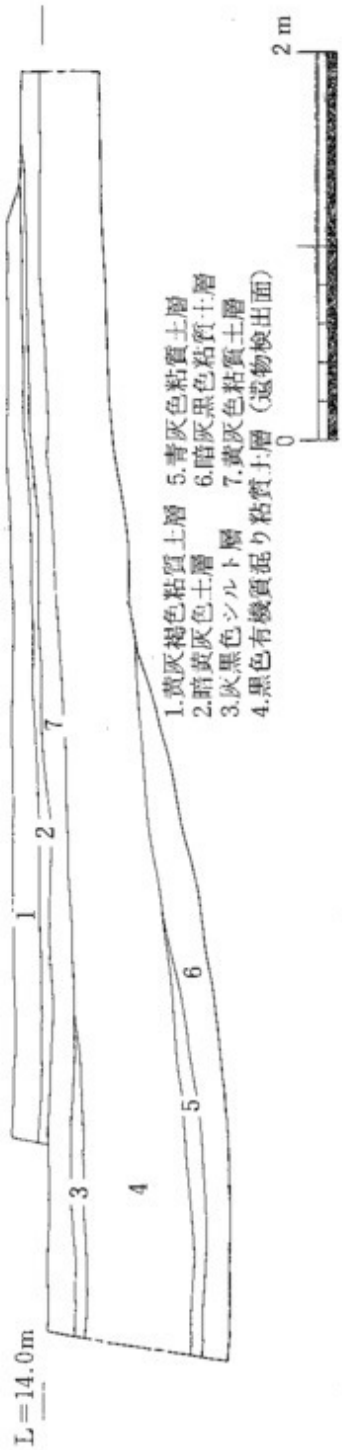
その他，阿弥陀堂墓地の立地する南北に細長い地割は，発掘当初から付近の水田レベルよりやや低く，上流方向に続くその部分は畑地に接続していることから河岸段丘の堆積土層であると推定された。墓地移転後，AM14区西半部分を掘り下げるとやはりその部分は大きく前後2回の弘田川侵食の痕を示していた。中世以降，大きな曲流蛇行の侵食があり，相当期間をかけた堆積があった後，更に砂礫土を堆積する以前の急激な侵食があったことが断面土層に観察される。最古の侵食の痕は，現弘田川河流と近接するので，弘田川河岸の阿弥陀堂

集団墓地成立期以前のそれほど古くない時期の堆積物であろう。

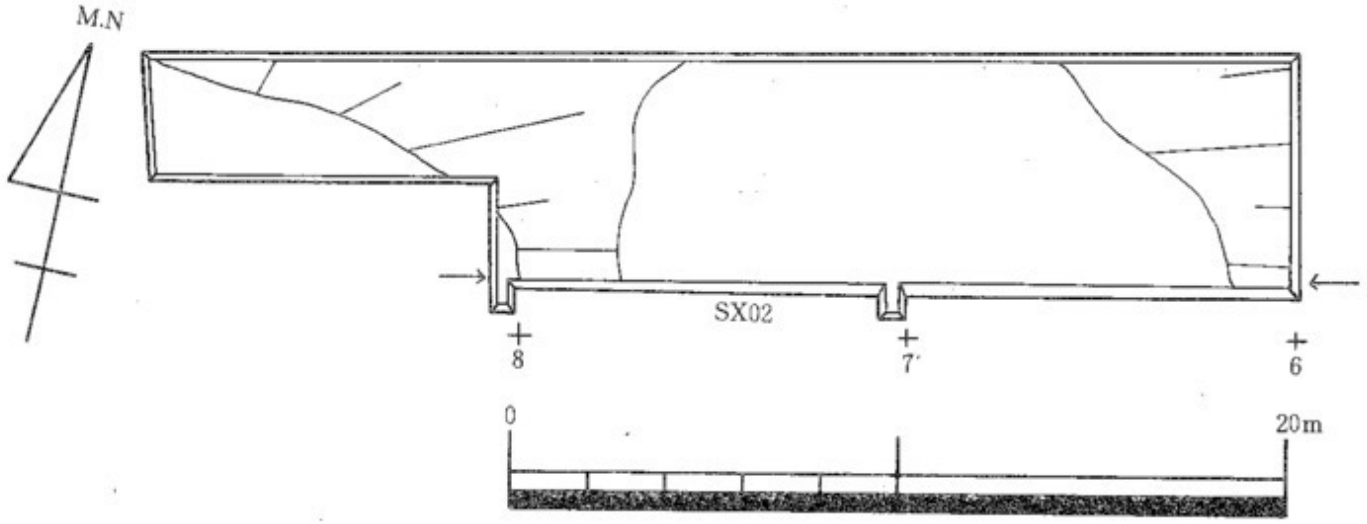
また，この旧河道堆積土層の表層には２条の溝が検出されたが，それは阿弥陀堂墓地成立直前までに存した畑地排水の溝と推察される。



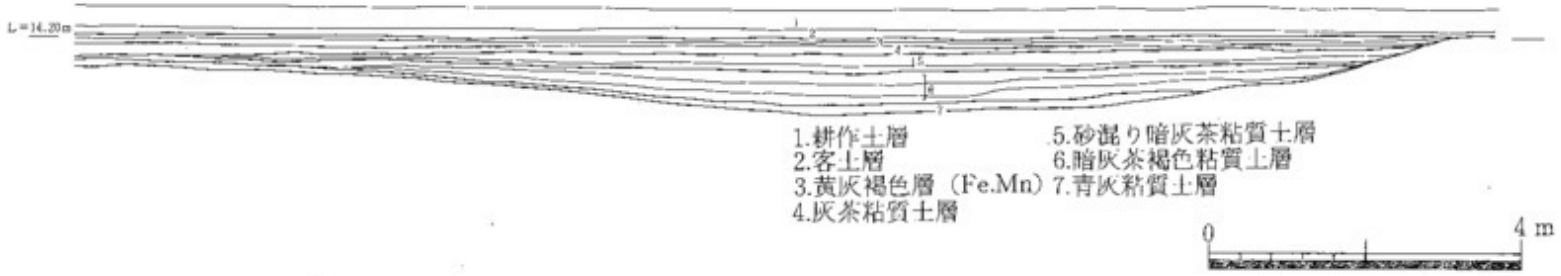
第12図　AM．SX01平面図



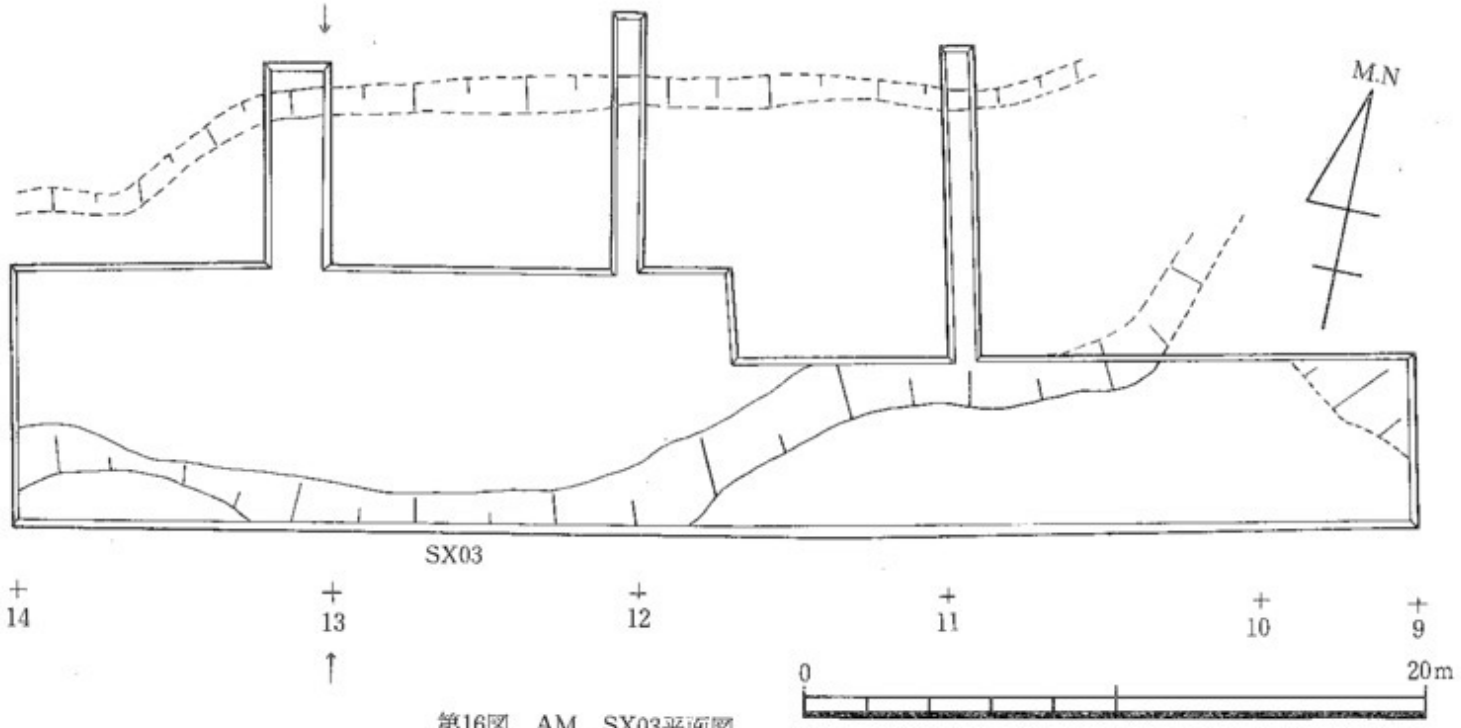
第13図　AM．SX01　南北トレンチ土層



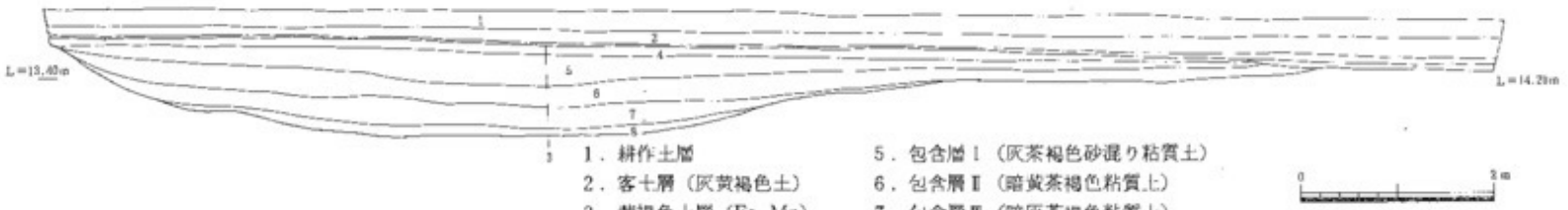
第14図　AM．SX02平面図



第15図　AM．SX02東西土層



第16図　AM．SX03平面図



1．耕作土層
2．客土層（灰黄褐色土）
3．黄褐色土層（Fe, Mn）
4．旧客土層（黄茶褐色土）
5．包含層Ⅰ（灰茶褐色砂混り粘質土）
6．包含層Ⅱ（暗黄茶褐色粘質土）
7．包含層Ⅲ（暗灰茶褐色粘質土）
8．黄灰色シルト層

第17図　AM．SX03南北土層

Ⅲ　中村西地区

1.　調査の概要と調査小区の設定

善通寺市仙遊町から伏流するエベス湧，桜川，バラギ湧水系の主水脈の右岸にあたる調査区で，南東方向に高く北西方向に続く地形を呈し，付近の標高は15～16mを示す。本調査区の西限を為す桜川以西は小字高熊と称し，中村西，同東調査区はともに小字本村に属する。横断道調査区は市道乾１号線を境に西側を吉原Ｂ遺跡，東側を中村遺跡としていたが，報告書の段階で乾遺跡，中村遺跡と改めた。県道調査では，近世以来使用されている乾部落（中村，乾部落）と，大字中村とを混同した名称を避け，中村町小字本村にあたる本調査区を市道乾１号線を境に中村西地区，中村東地区に区分した。しかし，旧大字中村は国立農事試験場敷地付近から西下所，東下所，大下所までの広範囲を占めるため，中村遺跡と呼称するには躊躇する。本来は，中村本村遺跡または本村遺跡と称するべきであると思われる。

横断道調査では吉原Ｂ地区（乾遺跡）で湧水地状遺構SX8501，同SX8502，近世用水路SD8501，同SD8502，自然河川SX8503と土坑SK8503，8504，8509，ピット群等が検出されている。黄灰色粘質土を基層とした所謂地山土層にSX8501（弥生時代），SX8502（中近世）の湧水を伴う溜状遺構が検出されたことから，県道敷地発掘調査の必要が説かれ，本調査に至った。

調査区は，東西約130m南北幅約４mの狭長なものであったが，それでも550㎡程を対象に全面発掘調査した。調査区東端中村町本村1658から西へ高熊311番地までに，10～20m単位に調査小区を設定し，５～７月を費やして調査した。また宅地移転後の補足調査部分1639は12月の１週間を充てて調査した。

2.　調査の概要

主要遺構　・不明遺構　　３基（SX01ａ，ｂ，02）
　　・土坑　　５基（SK01～05）
　　・小ピット群
　　・その他　土坑群
　　・水路・自然河道　３本（SX03，SD01～03）

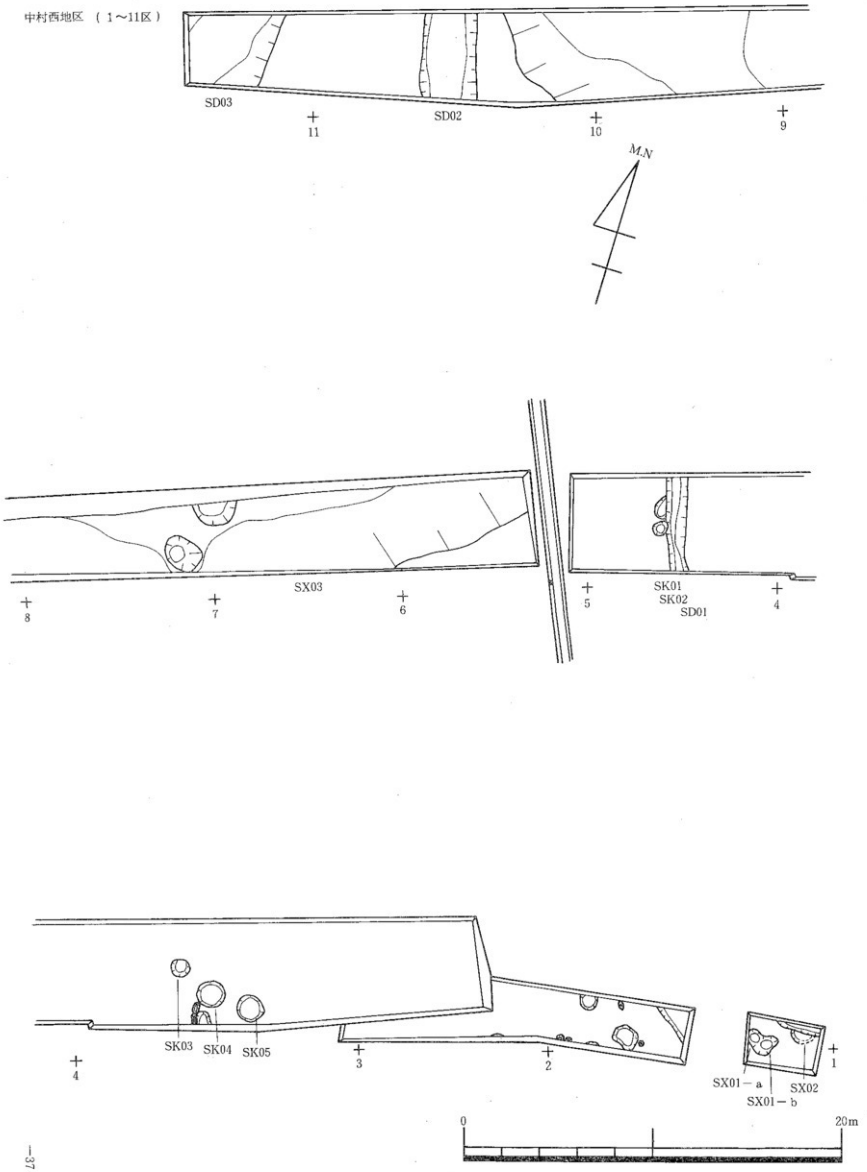
(1)　近世・近代の遺構

遺構の配置，出土遺物，伝承からみて，中村の庄屋亀野家の旧宅に付随する建物群であると考えられる。SX01，SX02，SK01～05，小ピット群が検出されている。尚，これ等の近世・近代遺構群は，横断道調査区（Ｄ－３区）でも検出されているが，明治期のものと推定されている。

①　SX01－ａ

東側のSX01－ｂとともに一連の埋甕のある溜で，素焼風呂釜と思われる容器を径0.9m深さ

中村西地区 （ 1～11区 ）



第18図　中村西地区遺構配置図

0.5m程の土坑に埋没している。瓦の投入もみられる。

② SX01－b

SX01－aより後に掘られた径0.8m,深さ0.55mの土坑に陶器甕を埋没した溜である。SX01－aとともに近代の住居に伴う施設であろう。SX01は埋没の際,内容器の破壊とともに,付近に施設した割石,屋根瓦を投入しているから,後世の人為的な埋め立てが行われたものとみられる。

③ SX02

SX01の北東1mに検出された浅い凹地で，SX01とともに住居に伴う何らかの施設であると思われる。東西1m，南北幅は不明，深さ0.1mを測る。

④ SK01

横断道調査ポイントD－4の西付近，中村町1656の水田下に発見された土坑である。上径0.72m，深さ0.45mの掘り方に，陶器，素焼甕，土鈴，土馬，土師質土器が埋没されていた。また，上径0.7m，深さ0.35mの無遺物の小土坑が，後に重合して掘られている。性格は不明であるが，土鈴，土馬の出土が興味深い。

⑤ SK02

SK01に南接する素掘りの円形土坑で上径0.8m，深さ0.35mを測る。

⑥ SK03

亀野家土塀の北西隅付近に，SK04，SK05，小ピット群とともに検出された土坑である。上径1m，深さ0.3mを測る逆円錐台形の掘り方が観察される。素焼土器，栗石が検出されたが，性格は不明である。

⑦ SK04

SK05とほぼ同形の土坑で，意図的に並設されたものと推定される。上径1.50m，深さ0.1mを測る。素焼土器片，河原石が埋没していたが，性格は不明である。

⑧ SK05

SK04の東1mに位置し，上径1.50m，深さ0.42mを測る。掘り方は垂直に掘り込まれている。遺物は素焼土器片と河原石を検出したのみである。SK03，SK04とともに水溜状の施設であると思われる。

⑨ 小ピット群

SK03～SK05に近接して浅いピット群が検出されたが，配置に規則性はなく，その性格は不明である。

(2) 水路・自然河道

① SX03

NKW5区～NKW8区にかけて検出された北へ緩く傾斜する落ち込みで，横断道調査区C－2区，C－3区に検出されたSX8501に連続する遺構である。SX8501は，下層に弥生時代前期

の土器，木器，石器を伴い，上層に弥生時代後期の土器片を検出したほぼ南北に方位を示す凹地で，自然河道または湧水地状遺構とされている。中村西調査区での調査は狭長なものであるが，NKW７区付近で最も浅い径３ｍ前後，深さ0.8ｍの溜を検出した。最下層は黒色粘質土層で，基本的にはSX8501の下層と同様の堆積土であったが，弥生土器，石器等の出土は認められない。NKW７区と同性格と思われる溜状の凹地は，Ｃ－４調査杭付近にも認められ，湧水の激しいＣ－２区の最深部では木製鍬，木製品４点をはじめ流木群と弥生土器片が出土していて，付近では最も深い凹地と判断されているが，これも同様の性格の最も規模の大きいものと推定される。SX8501とSD03の性格については，これが河道であるのか，自然の凹地に湧が認められる湧水地であるかが問題であるが，今回の調査範囲ではその解決を見ることができなかった。

丸亀平野は，阿讃山脈に源を発する土器川と全国有数の規模を誇る満濃池から発する金倉川の両流による沖積平野であるが，満濃町付近の中流から国道11号線にかけての中流域は，両水系にかかる複合扇状地の地形を呈する。特に，金倉川，弘田川に挟まれた，善通寺市吉田町，稲木町，中村町付近では，中流の伏流水が地形の高低に合わせて各所で湧水する多数の湧水点が散在する。これらは溜池灌漑による稲作水利を一般的とする讃岐平野でも，丸亀平野西部の農業水利の著しい特徴をなす出水掛による水利系統樹を形成している。中村西調査区（横断道の乾遺跡）は現代の「バラギの湧」に接する湧水点にあたる部分で，農業用水源として常に住民の関心の的であったと考えられる。検出されたSX8501は，南から北への不定形の流落状を呈する凹地で，その東南は高く北西は低平地の観を呈するが，滝線状に自然に配列された湧水点を人為的に連結した湧水溜状遺構であると考えられる。

② SD01

NKW４区で検出された上部幅0.8ｍ，深さ0.1ｍ程の浅い溝である。遺物は含まれない。現代の土地区画と平行する方位を示す。

③ SD02

幹線農業用水路としての桜川の旧河道右岸に検出された上幅３ｍ，深さ0.4ｍのＵ字形を呈する溝で，横断道調査区ではSX8503に合流するように検出されている。南に続く上流部分には，中村1647，1643の長地割に河岸段丘地形を残す水田が連続している。土器片少量が検出されたが，いずれも近世以降のものである。

④ SD03

SD02の西８ｍに検出された溝で，桜川用水路に接する状態で平行して流れている。上幅５ｍ以上，深さ0.5ｍを測る。SD03は横断道調査区で，SD02に近寄り，SX8503に包摂されるように検出されている。SD02（SX8502）とSD03，SX8503の三者の関係はＡ－４区での状態からするとほぼ平行して流れていたSD02，SD03はともにより低位に検出されたSX8503に流入するように見える。

Ⅳ　中村東地区

1. 調査の概要と調査小区の設定（NKE 1～15）

市道乾1号線東側，中村西地区に続く部分であり横断道中村遺跡に隣接する。中村町字本村に所在し，標高16.4～17.4mの沖積平野上に営まれており，南東から北西にかけて緩やかな下りの傾斜を示す。市道乾1号線より市道善通寺多度津線までを10～20m毎に1～13区に分割し，市道善通寺多度津線より県道善通寺多度津線までの部分のうち，横断道南隣接部を14区，北隣接部を15区とした。

調査区は東西約250m，1,000㎡であるが，横断道敷地内等をはぶく約800㎡を全面発掘の対象とした。

横断道中村遺跡では，上限を縄文時代，下限を弥生時代とするNR01，銅印と帯金具の出土した平安時代の溝，中世後半の掘立住建物等が検出されている。県道部分の調査もそれらとの関連を念頭において行った。

基本土層は横断道中村遺跡と同じく，耕作上下の床土を除去した面に遺構が形成されている。ただし，かなりの削平を受けているものと思われ，東部，西部では遺構面の土は検出されていない。さらに1層下に自然河川等が形成されている遺構面があり，ベースが地山である。

遺構の検出状況は中村遺跡とほぼ合致し，中央部でやや密なるも，東部，西部では希薄であった。しかし，横断道北隣接部の15区では県道善通寺多度津線すぐ東側の横断道永井遺跡で検出されたSR8501に続くと思われる自然河川が検出され，遺跡の広がりを示すものとして興味深い。以下，各遺構の状況を簡単に述べる。

(1)　主要遺構

- ○掘立柱建物1棟　(SB01)
- ○溝状遺構　7条　(SD01～07)
- ○土坑　3基　(SK01～03)
- ○不明遺構　9基　(SX01～09)
- ○自然河川　2本　(SR01,02)

① SB01

8区で検出された2間×2間以上の総柱の掘立柱建物である。柱間は1～1.2mで各ピットの直径は10～20cmである。横断道中村遺跡で検出されたSB10のすぐ南側に位置するが，同一のものとは考えにくい。しかし，主軸方位は真北より22°西偏しており，SB10と酷似することからみて，何らかの関連があるとみていいだろう。出土遺物が皆無なので時期は特定できないが，SB10は中世とされているので，ここでも当該時期の建物跡としておきたい。

② SD01

横断道中村遺跡のSD12に続くものと思われる。最大幅約１ｍ，深さは約20cmである。遺物の出土をほとんどみないが，埋土等からみて近世以降の溝と考えられる。

③ SD02,03

横断道中村遺跡のSD８，９，10あたりに続く溝と考えられる。SD02は幅50cm，深さは約７cmで，SD03は幅80cm，深さ12cmである。非常に浅く，中村遺跡の南側では検出されていない。時期は，出土遺物から中世後半ごろを考えられよう。

④ SD04

横断道中村遺跡のSD01に続く溝と思われる。中村遺跡では南側で２本に分流しているが，県道部分では再び１本の溝になっている。土師質土器片が少量出土しており，中世後半ごろのものと思われる。

⑤ SD05,06

14区で検出した現在の地割方向に走る溝であるが遺物の出土がまったくなく，性格は不明である。

⑥ SD07

15区で検出した，調査区にほぼ平行に走る溝である。長さ約10ｍ，最大幅約50cm，深さ３cm程度の非常に残存状況の悪い溝である。時期を特定するような遺物はなく，性格も不明である。西側の地割の段落ち部分では検出されず，埋土等から考えても新しい時期のものであろう。

⑦ SK01～03

中村東地区では，３基ほどの土坑が検出されている。３区，９区に１基ずつ検出しているが，遺物も少なく，平面プランも不整形で性格は不明である。その他，15区で１基検出している。SK03と称しているが，長さ2.7ｍ，幅約60cmの長方形を呈しており，深さ約40cmを測る。直径20cm大の円礫と少量の土器・瓦が出土している。遺物をみる限り，近世以降のものと考えられる。

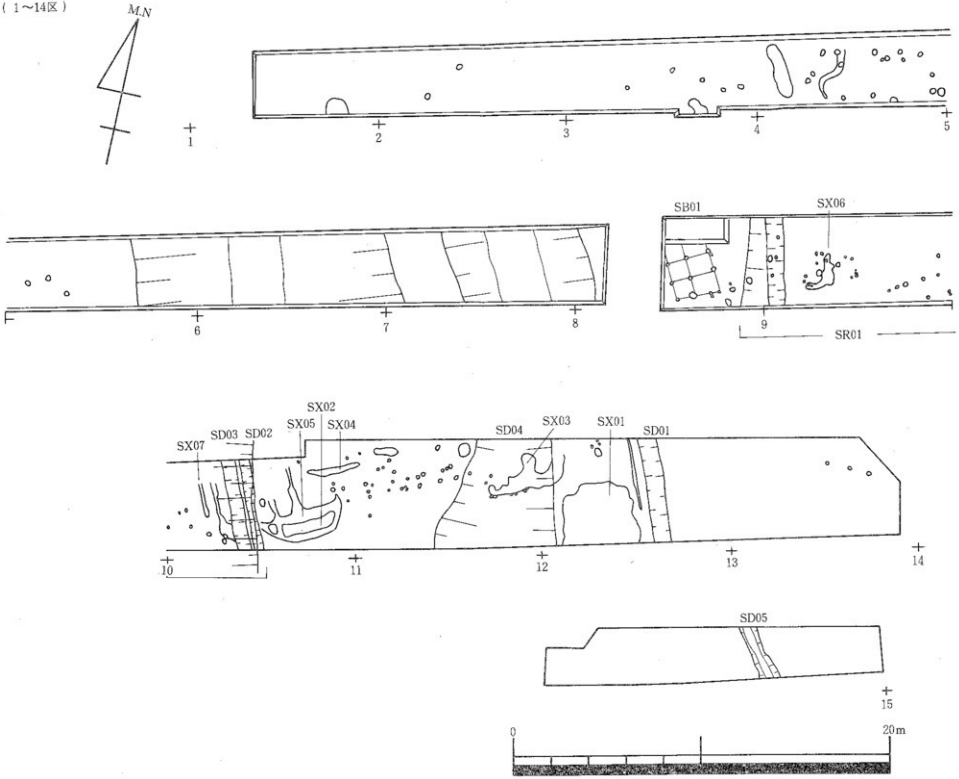
⑧ SX01～09

中村東地区では，浅い凹地状の不明遺構が９基検出されている。いずれも平面プランは不整形を呈し，単なる落ち込みであると思われる。遺物の出土をほとんどみず，わずかに２基から土師質土器の小片を出土したのみである。

⑨ ピット群

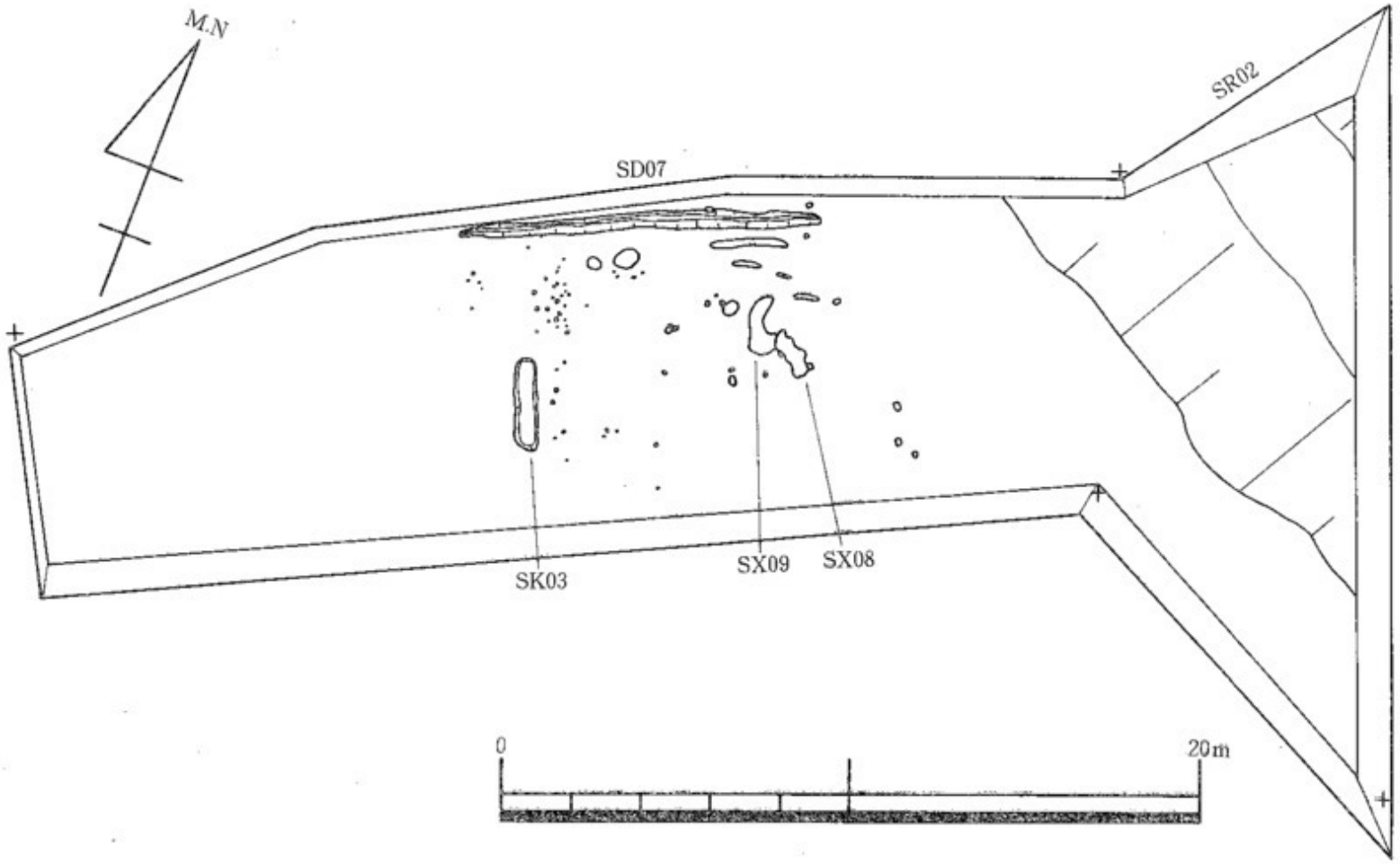
中村東地区では，２～５区までに28個ほどのピット群が検出された。ピットは直径10～30cmくらいまでのものが散見しており，その配列に規則性は見られず，また，出土遺物も時期を特定できるものはほとんどなく，その性格は不明である。なお，柱根痕の確認されたものはそのうちわずかに５個しかなかった。

また，８～11区にかけても約130個ほどのピット群が検出された。このうち８区では，一部配列に規則性が認められるピット群がある。あるいは２間×２間の掘立柱建物が建つ可能性も考えられる。



第19図　中村東地区遺構配置図(1)

中村東地区（15区）

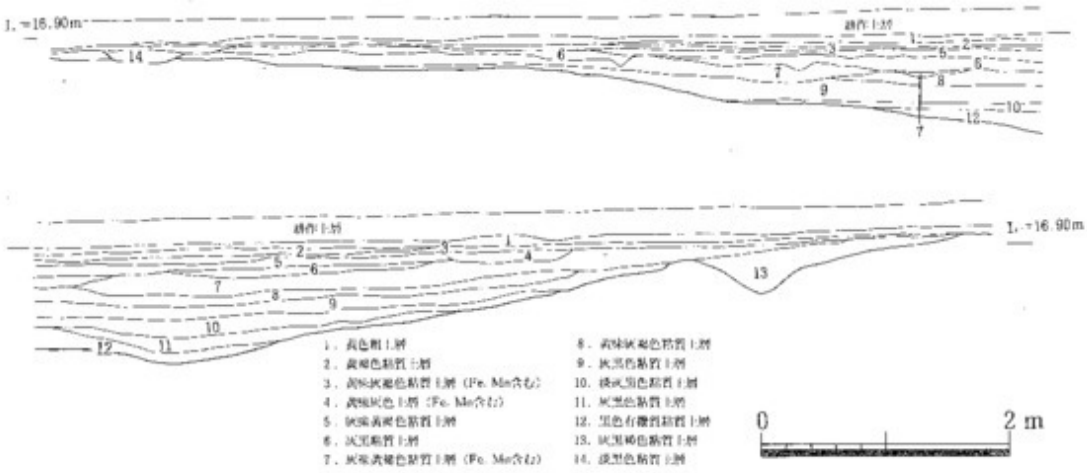


第20図　中村東地区遺構配置図(2)

また，11区には杭列とおぼしき20個ほどのピット群も検出されている。その他のピットについてはその性格は不明である。

⑩ SR01

9，10区で検出された自然河川である。最大幅約14m，深さ約70cmを測る。北へ行くほど深くなり，横断道中村遺跡のNR01に続くものと考えられる。中村遺跡では，地山の落ち込みを肩としているため，幅6～10mであるが，ここでは東西にオーバーフローしている土も埋土と考えているため幅が広くなっている。埋土は上からA層・黄灰褐色粘質土，B層・灰黒色粘質土，C層・淡灰黒色粘質土，D層・灰黒色粘土，E層・黒色粘質土に大別できるが，E層には多量の植物遺体が含まれていた。遺物は全体的に少なく，時期を特定するようなものはほとんどみられなかった。ただし，横断道中村遺跡では上層の土から弥生土器が出土しており，埋没時期を弥生時代に比定し，機能していた時期が縄文時代までさかのぼる可能性のあることが示唆されているので，ここでもそれにしたがっておきたい。



第21図　NKE－9・10区　SR01南壁東西土層

⑪ SR02

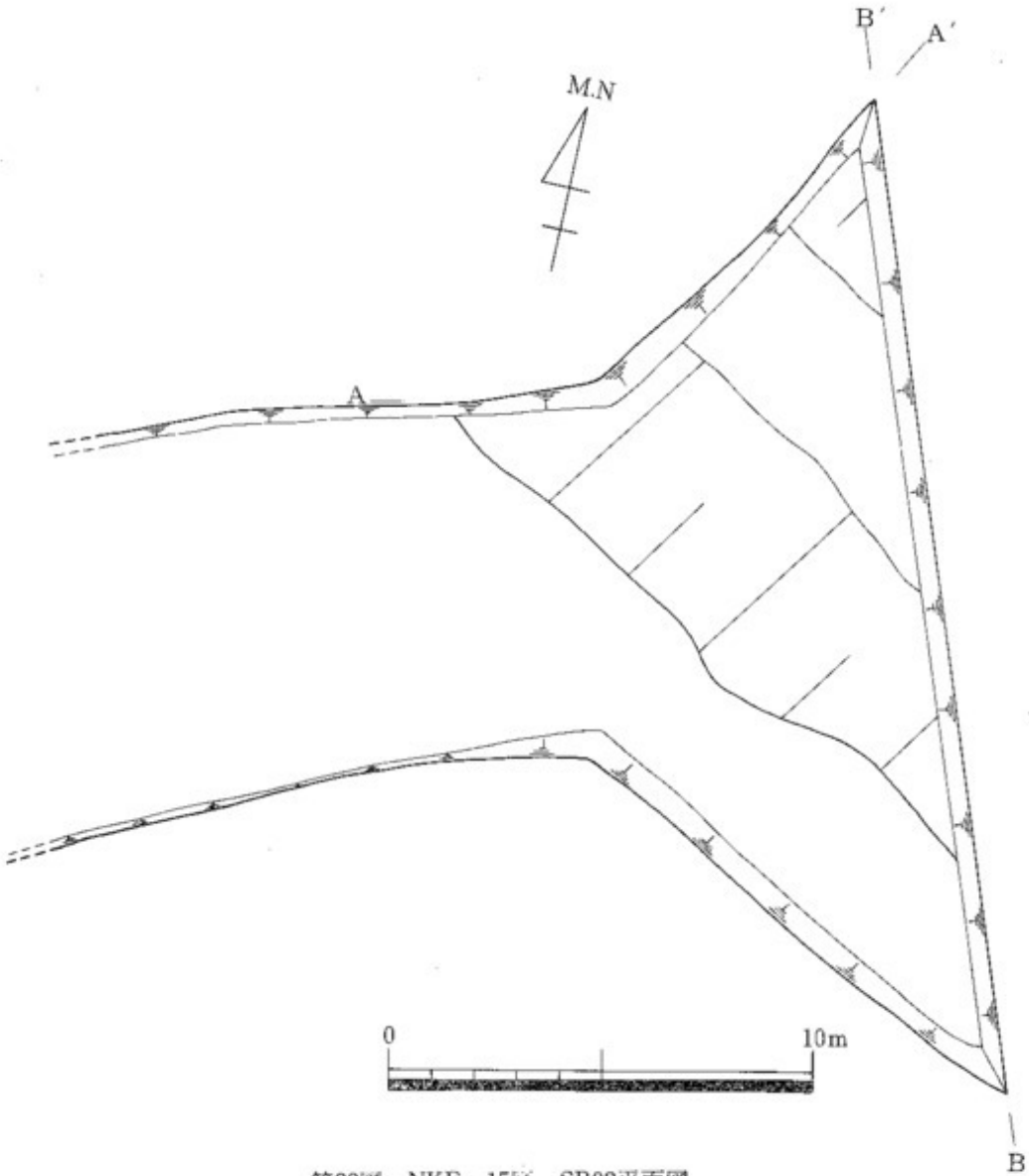
15区で検出された自然河川であるが，南側の肩しか検出しておらず，北側の肩は未検出である。検出した部分での最大幅は約3m，遺構面からの最大深度は約2mである。埋土は基本的に6層に分けられる。最上層には灰黒色粘質土が堆積しており，植物遺体を多く含んでいる。その下に暗灰色粘質土が堆積しており，ここには植物遺体は含まれない。さらに黄灰色砂質土が堆積しており，その下に青灰色砂質土が認められる。この青灰色砂質土は北壁では西側半分に，東側では南側半分にのみ見られる土でこの自然河川がかなり大きな流路であったことを示している。

さらにSR02にはその下に茶褐色粘質土，最下層に灰色砂礫層が堆積している。砂礫は丸みを帯びているが大きさがそろっていることなどから見て，流れは比較的ゆるやかであったと思われる。第23，24図の土層図からSR02の堆積状況を追えば以下のようになるであろう。まず，一番下の太線の

部分で流れていた自然河川にE，F層があいついで堆積する。次に氾濫によって河幅が大きく広がり南半分にD層が堆積する。さらに南側の肩付近にいくつかの土が埋まりながらC，B，A層と堆積していったものと思われる。

なお，SR02は横断道永井遺跡西端で検出された縄文時代後期～晩期にかけての遺物や杭列を伴う自然河川SR8501に方向，土層の堆積状況などが酷似することから同一の自然河川であると思われる。

SR02の出土遺物は，主として縄文時代後期，晩期の土器である。晩期の土器はA層～D層にかけて出土し，E層以下で後期の土器が出土している。第45図はSR02出土の縄文土器である。1，浅鉢

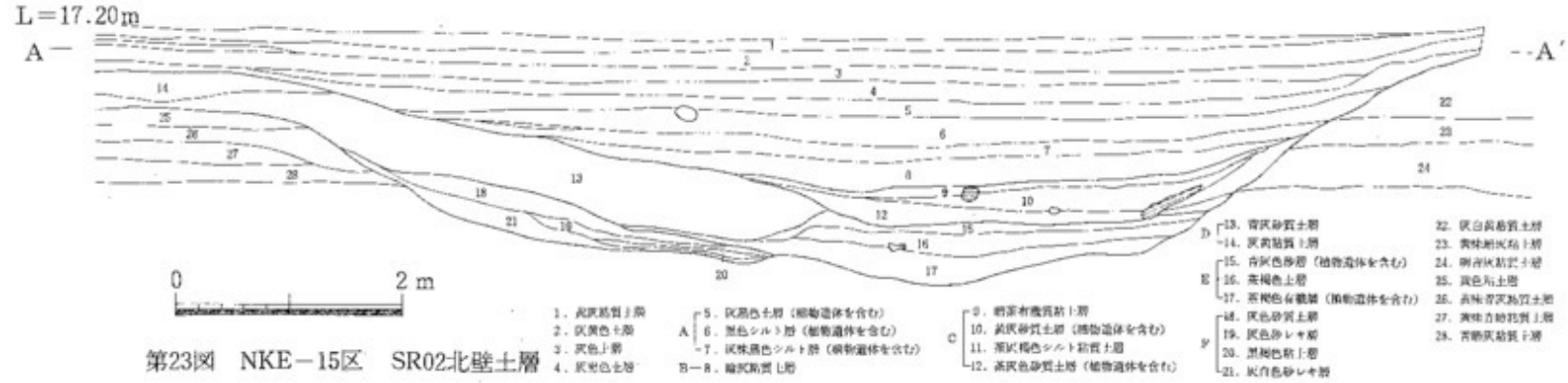


第22図　NKE－15区　SR02平面図

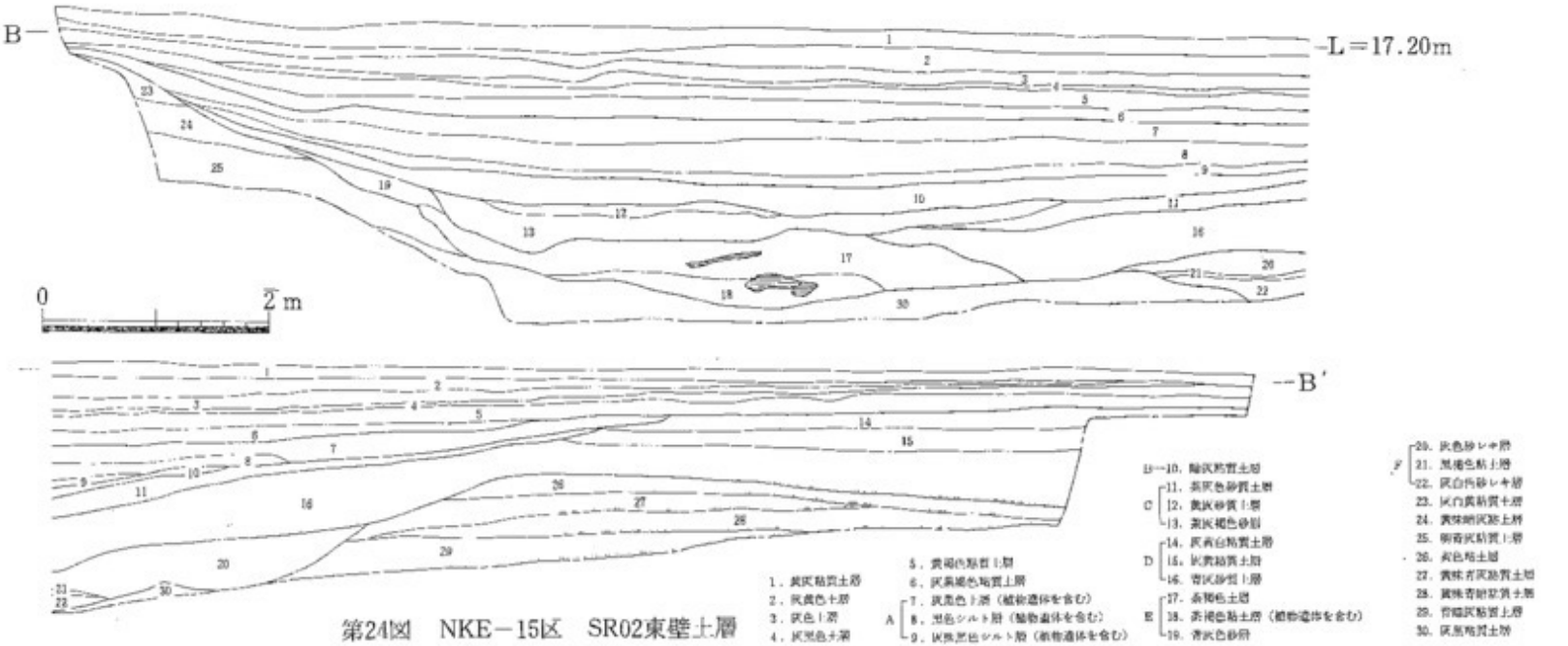
形土器と思われる破片である。口縁部は外反しながら立ち上がり，口唇部は外側につまみだしてまるく仕上げている。体部は，横走する沈線と斜行する沈線によって区画された刻み目文をもち，その刻み目文は交互に施されている。2，黒褐色を呈する体部片である。横走する凹線と斜行する凹線が認められ，三角状の文様を形作っている。下半には，細い平行沈線が縦走する。3，E層から出土した暗褐色を呈する土器片である。体部には，羽状縄文が認められる。4，E層から出土したものである。段をなし外反ぎみに立ち上がる。体部外面には羽状縄文，内面はみがきが認められる。5，内面は，横方向の2枚貝条痕を施し，その後みがいている。外面は粗い刻み目を入れる。6，直線的に立ち上がる口縁部である。端部はまるく仕上げられ，やや肥厚する口唇部を持つ。外面は横走する沈線を持つ。内外面ともミガキが見られる。7，黒褐色を呈する土器である。内湾する口縁部を持ち，口唇端部は内傾させる。8，縦走する櫛描沈線を施したのち，逆V字状の5条の沈線を施す。内面は横方向のミガキである。9，口縁部である。外反しながら肥厚する口唇部を持ち，その端部内面には縄文が見られ，その下方には1条の沈線が施されている。この土器は彦崎KⅡ式と考えられる。10，体部外面には縄文が見られる。11，黒灰褐色の磨滅の著しい土器である。波状口縁を呈し，外面には刺突文による同心円文がみられる。12，茶褐色の土器である。外面は，3～4条の凹線文を縦走させる。内面は，煮沸時のこげつきが見られる。13，細かい貝殻条痕が外面，内面ともに認められる。体部は直線的に外反する。14，浅鉢形土器と考えられる。口縁部は外反し，円孔がみられる。口唇部は肥厚し端部は面取り調整を施している。また，内面外面ともに条痕，ミガキが見られる。以上の土器は，縄文時代後期～晩期の範疇でとらえることができる。

表2．　NKE－8区　SB01　ピット諸元表

遺構名	ピット位置		上径(cm)	下径(cm)	深さ(cm)	色調	柱根	遺物	石その他	方位
SB01	西列	北	22	12	52	灰白	—	—	—	N22° 00' W
		中	11	10	4	灰白	—	—	—	
		南	22	13	3.9	黄灰	—	—	—	
	中列	北	19	15	6.7	黄灰	—	—	—	
		中	16	14	7.3	黄灰	—	—	—	
		南	42	35	18.7	黄灰	—	土師器	—	
	東列	北	18	15	3.2	黄灰	—	土師器	—	
		中	17	16	4.1	灰褐	—	土師器(2)	石	
		南	19	15	7.5	黄灰褐茶	—	—	—	



第23図　NKE－15区　SR02北壁土層



第24図　NKE－15区　SR02東壁土層

V　永井地区

1. 調査の概要と調査小区の設定（NG 1～19）

永井地区は，中村町島田，榎田及び隣接する下吉田町下所東に存在し，横断道永井遺跡の北側隣接地にあたる。当該地は標高18～20mを示す沖積平野に立地し丸亀平野の西部にあたる。付近は条里制の遺制を示す方形の土地区画が整然と広がる美田である。昭和59年度の横断道予備調査によって当該地に縄文時代の遺跡が確認され，横断道部分と県道部分の本調査に至った。県道部分は，県道善通寺多度津線より東へ約700mほどが調査対象地であり，調査面積は約3,100㎡である。調査小区については畦畔，用水路等によって10～20mの区画が取りづらかったので，現在の地割を基に1～19区までに設定した。

横断道永井遺跡では，杭列を伴う縄文時代後期～晩期にかけての自然河川（SR8501）や急激に蛇行しながら東西へ走っている自然河川（SR8507，8601，8604），さらに下層の編み物の出土した自然河川等を検出している。その他には中世～近世にかけての掘立住建物も検出されている。

県道部分においても遺構の検出状況は良く似ており，現地割方向にそって走る溝が何条も検出された。また，永井遺跡のSR8507に続くと思われる自然河川（SX03）も検出され，縄文後期の土器が出土している。各遺構の状況を以下に述べる。

(1) 主要遺構

○溝状遺構　39状　（SD01～39）
○土坑　　9基　（SK01～09）
○不明遺構　11基　（SX01～11）
○自然河川　1本　（SR01）

① SD01

1区で検出された幅約50cm，深さ5cmの溝である。出土遺物は少なく，陶器片や瓦片を含んでいることなどからみて，比較的新しい溝であると思われる。

② SD02

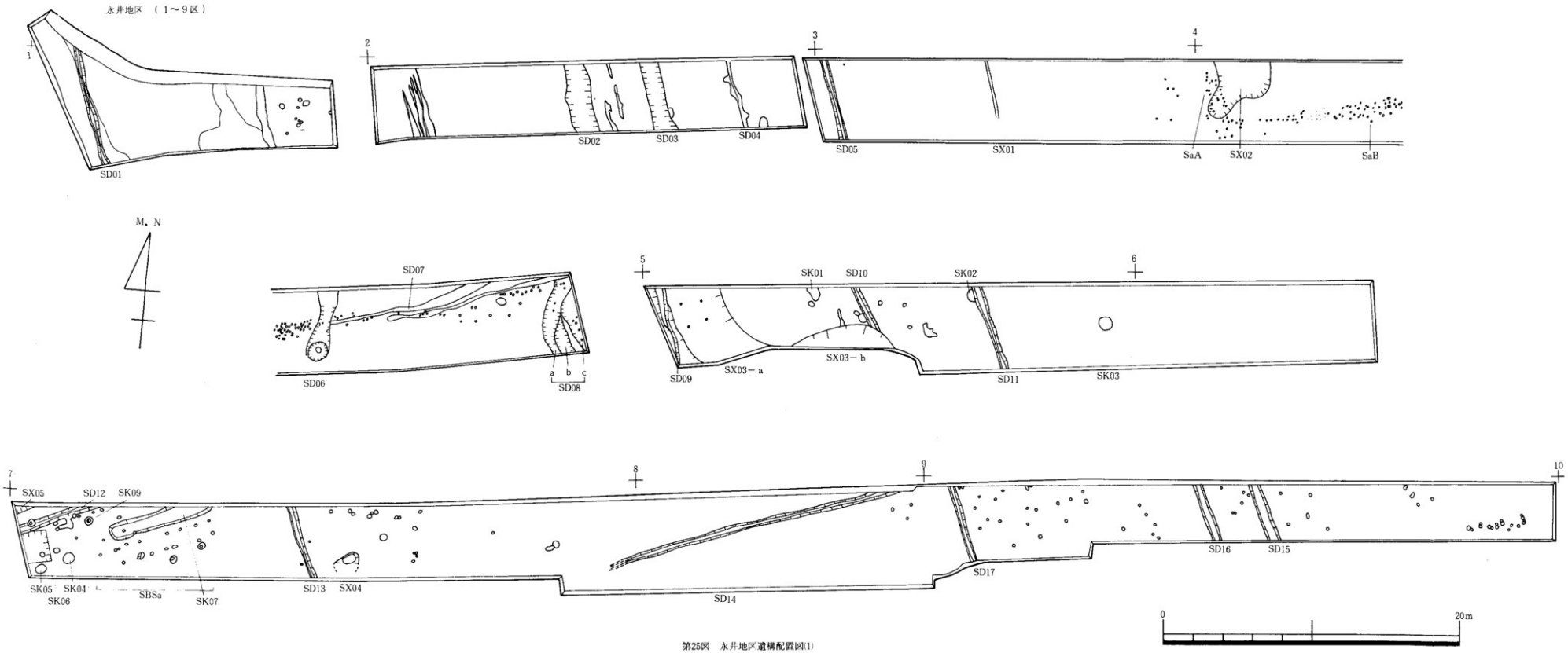
2区で検出された溝である。2段に落ちており，検出面での幅約2m，深さ約40cmである。出土遺物はほとんどなく，須恵器片が少量見られるのみで時期，性格等は不明である。

③ SD03

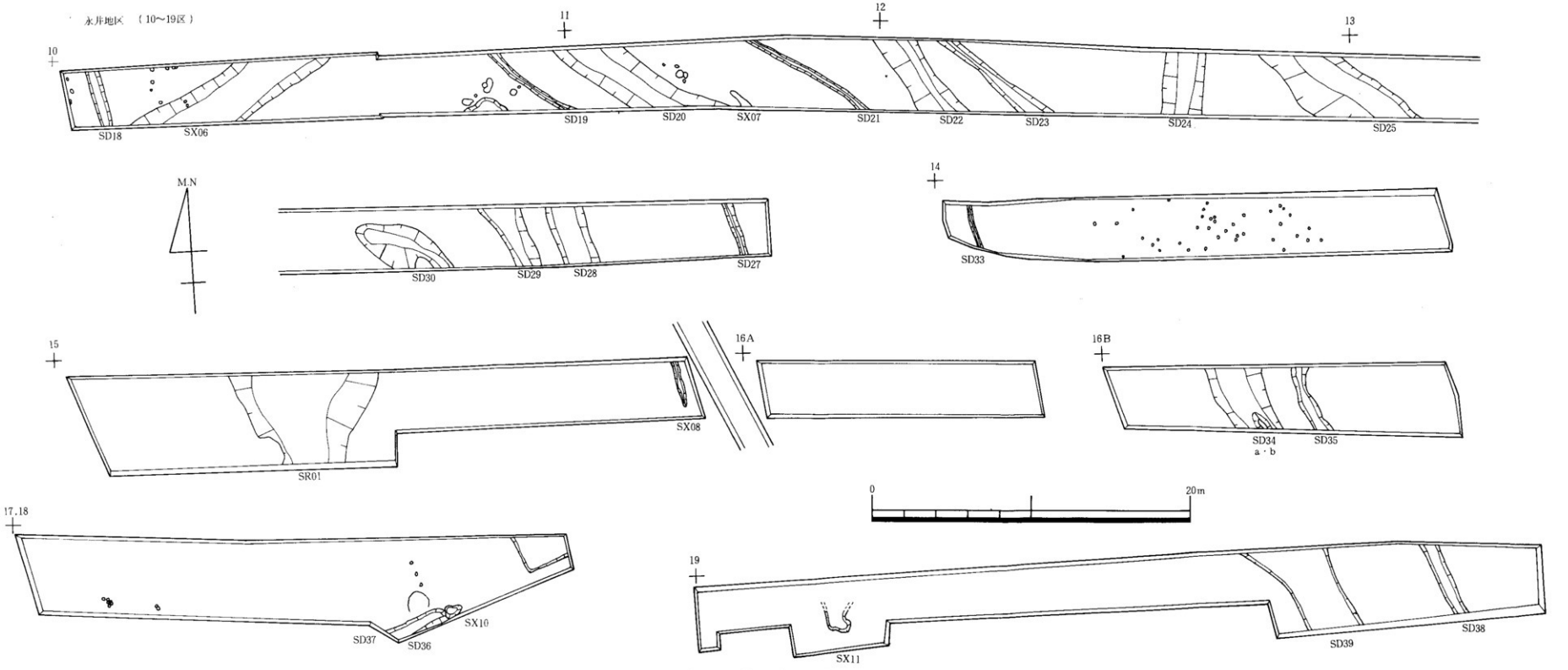
2区で検出された幅1.2m，深さ30cmの断面U字形の溝である。埋土は灰色を呈しており，整然とした堆積をしている。出土遺物はほとんどなく，時期，性格ともに不明である。

④ SD04

2区で検出された幅65cm，深さ10cmの溝である。平面プランもしっかりしておらず溝というよ



第25図　永井地区遺構配置図(1)

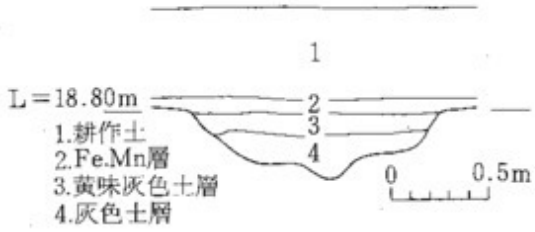


第26図　永井地区遺構配置図(2)

り，線状の浅い凹地状のようなものではないかとおもわれる。遺物もほとんど出土していない。

⑤ SD05

3区で検出された幅55cm，深さ11cmの小さな溝である。現在の地割りとほぼ平行に走っている。出土遺物はほとんど見られない。



第27図　NG－2区　SD03北壁東西土層

⑥ SD06

4区中央付近の溝でほぼ真北方向に走っている。幅は約1.4m，深さは約20cmで，遺物の出土量は少ない。土器片の他に，瓦片が見られ，そう古くないものと思われる。

⑦ SD07

4区で検出された溝である。幅40cmでほぼ東西に走る。出土遺物が少ないため，時期その他詳細は不明である。

⑧ SD08

4区東端で検出された幅2～3mの溝。ほぼ真北方向に走っており，南側では3つに分流している。深さは約15cmと浅いが，遺物量は多かった。埋土はかなり攪乱を受けているものと思われ，縄文土器，サヌカイト片，染付まで含まれていた。従ってこの溝の埋没時期は近世以降であると思われる。

第46図，1はSD08出土の縄文土器である。口縁部は，やや肥厚し内湾する。外面は，横走する3状の沈線とそれに従って3個の刺突文で区切りをつけ，縦走する沈線が見られる。内面は磨滅のため調整は不明である。

⑨ SD09

5区西端を南北に走る幅30cm，深さ4cmの小さな溝である。出土遺物はほとんどなく，時期その他詳細は不明である。

⑩ SD10

5区中央で検出された幅50cmの溝である。南端はSX03－bによって切られている。出土遺物は皆無であった。

⑪ SD11

5区で検出された幅70cmの溝であるが，埋土はほとんど残っておらず，出土遺物からも時期その他は特定できなかった。

⑫ SD12

7区の北東部を南西～北東へ横切る溝で幅約1m，深さ9cmである。出土遺物がまったく無く，時期その他詳細は不明である。

⑬ SD13

7区中央部をほぼ南北に走る幅80cm程の溝である。現地割方向と一致していること，出土遺物に瓦片が含まれていることなどからみて，そう古いものではないと考えられる。

⑭ SD14

8区で検出された幅45cmほどの溝。現地割にほぼ直行して走っている。埋土はほとんど残っておらず，西の方で消滅していた。この溝からも遺物は出土せず，そう古いものではないと思われる。

⑮ SD15～17

9区で検出された溝である。現地割方向とほぼ並行に走っており，幅45～70cm，深さ3～5cmと小さい。出土遺物は少なく時期を特定できるようなものは含まれていなかった。

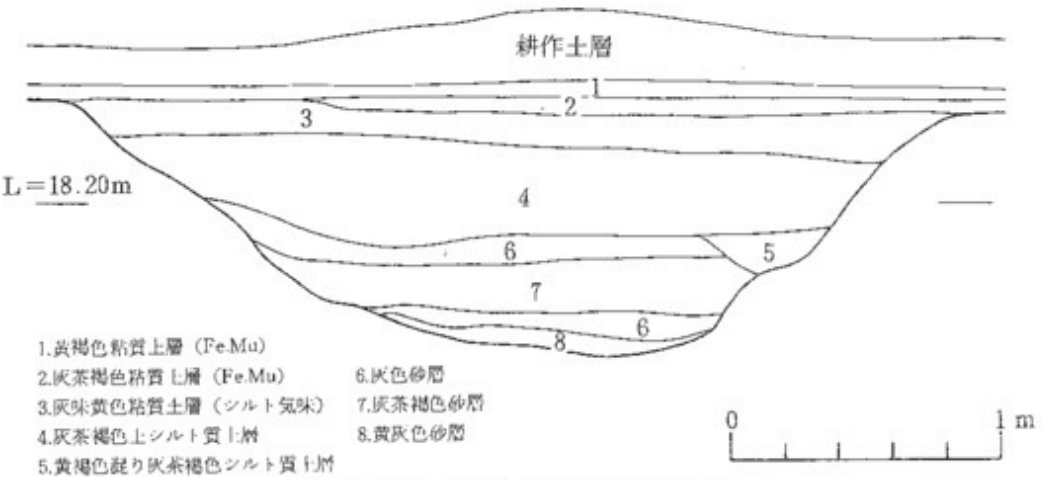
⑯ SD18

10区で検出された溝である。幅85cm，深さ12cmで現地割方向に走っている。時期を特定できる遺物の出土を見なかった。

⑰ SD19～23

10区から12区にかけて検出された溝群である。幅は60cmくらいのものから4.5mくらいのものまであり，深さは20～30cmである。真北より30°～50°西偏している。これらは全て横断道永井遺跡でも検出されている。遺物はさほど多くはなかったが，弥生土器と思われるものばかりであった。特に弥生時代前期のものと思われる底部が3，4点出土している。従ってこの一連の溝は弥生時代のものと考えて良いだろう。

⑱ SD24

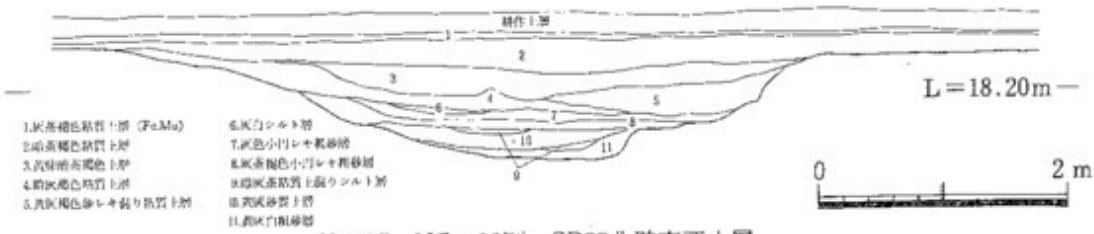


第28図　NG－12区　SD24北壁東西土層

12区で検出された，幅約5m，深さ70cmあまりの溝である。ほぼ南北方向へ走っており，横断道永井遺跡でも検出されている。出土遺物は皆無であるが横断道永井遺跡によれば，10～12区のSD

19～23の溝群に切られているとのことなので，縄文時代の可能性が考えられる。

⑲ SD25



第29図　NG－12区　SD25北壁東西土層

12，13区で検出した幅約５m，深さ70cmの溝である。南北へ続くものと思われたが，横断道の調査ですぐ南側で大きく東へ振れ，13区SD30の南側に合流することが確認された。出土遺物は豊富で土器の他，サヌカイト片も多量に含まれていた。出土遺物は破片が多いが，６世紀代の須恵器を含んでおり，それより下る遺物がないことなどからみて，SD25は古墳時代後期ごろに埋没したものと考えられる。

⑳ SD27

13区東端で検出された幅約１m，深さ13cmの溝である。ほぼ南北方向に走っているが，出土遺物がまったくないので詳細は不明である。

㉑ SD28,29

13区で検出された２条の溝である。幅２～３m，深さ30cmほどでほぼ真北方向に走っている横断道永井遺跡においても検出されている。出土遺物は破片ばかりではあるがかなり出土している。時期の特定できるようなものは少なかったが，６世紀代の須恵器を数点含んでおり古墳時代後期ごろに埋没したものと考えたい。

㉒ SD33

14区西端で検出された幅60cm，深さ８cmの溝である。現地割と並行して走っているが，遺物がまったく出土していないため時期など詳細は不明である。

㉓ SD34

16区東半分で検出された幅3.5m，深さ30cmの溝でる。現地割方向と並行して走っており，横断道永井遺跡でも検出されている。南側に一カ所落ち込みが見られる。出土遺物は少なく，須恵器片，土師器片が出土しているが時期の特定はできなかった。

㉔ SD35

SD34のすぐ東側を同じ方向へ流れる溝で幅１m，深さ約30cmである。横断道永井遺跡の調査でも，南側へ続くことが確認されている。出土遺物はなく，時期その他詳細は不明である。

㉕ SD36,37

17，18区で検出された２条の溝である。SD37はSD36に切られている。SD36は一部分しか検出し

ておらず，時期その他詳細は不明である。

㉖ SD38,39

19区で検出された，現地割方向にそって走る２条の溝である。SD38は幅１ｍ，深さ３cm，SD39は幅4.4m，深さ９cm。いずれも遺物はまったく出土しておらず詳細は不明である。

㉗ SK01～03

５区で検出された土坑でいずれも直径約１ｍ，深さ30cm程度である。出土遺物は土器片，サヌカイト片が主であるが，時期その他詳細は不明である。

㉘ SK04～06

７区西端部で検出された土坑。埋土等からみてかなり新しいものであると思われる。遺物の出土をほとんど見なかった。

㉙ SK07

７区西側で検出された幅約１ｍ，長さ２ｍ以上の土坑である。深さ10cmと浅く，出土遺物もほとんど無く詳細は不明である。

㉚ SX01

３区で検出した，近現代用水路と思われる暗渠排水である。

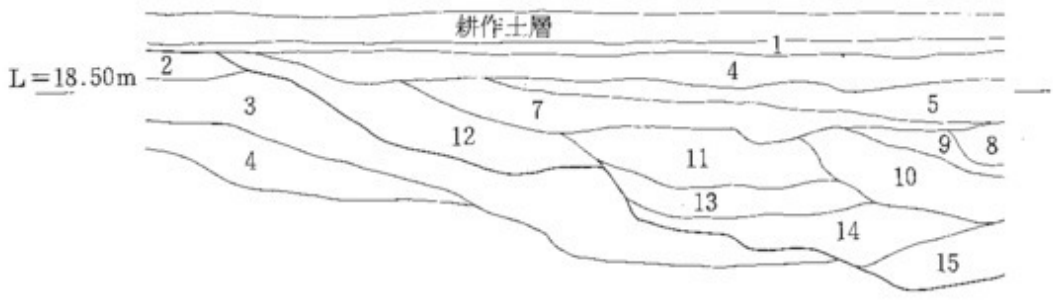
㉛ SX02

４区で検出した不整形の不明遺構。深さ約10cmで瓦片，土師器片などが出土しているが，時期は不明である。一種の廃棄坑とも考えられる。

㉜ SX03

５区西半分で検出された不明遺構。検出当初は別のものと思っていたが，SX03－ｂがSX03－ａ下層と同じ埋土なので１つのものであると考えた。おそらく自然河川か凹地の肩部分でないかと思われる。遺物は，小さな破片ばかりだが，量は多かった。サヌカイト片がかなり出土している。土器はほとんど縄文土器であり，上層からわずかに弥生土器らしいものが出土している。この遺構は少なくとも，弥生時代には埋没していたものと思われる。

SX03は横断道永井遺跡で検出された一連の自然河川（SR8507，8604，8601）に続くものと思われ



第30図　NG－15A区　SR01北壁東西土層

る。永井遺跡ではSR8601の下位に自然河川が存在することを確認しており，縄文時代後期の土器とともに，編み物，木製椀など貴重なものが出土している。

第46図，2～8はSX03出土の縄文土器である。2，SX03－a上層出土の無文土器である。3，浅鉢の体部である。屈曲して外反し，口縁部はやや肥厚しながら立ち上がる。磨滅が著しく調整は不明であるが，内面にミガキを施しているのかもしれない。4，やや厚みのある土器である。口縁部は肥厚し，やや屈曲する。5，橙褐色を呈する。上げ底の土器である。調整は磨滅が著しく不明であった。7，1㎜前後の砂粒を多量に含む胎土の粗い土器である。外面には，全体に貝殻条痕が認められる。8，浅鉢の体部である。胎土は粗く，残りは良くない。調整は不明であった。口縁部は，外反するものと思われる。8，外面は体部から口唇部にまで貝殻条痕が認められる。内面は，体部に条痕を施し，くびれ部を押さえている。のちロ縁部から体部にかけてナデ調整を施している。

㉝ SX04

7区中央付近で検出された落ち込みで直径3ｍ前後，深さ37㎝を測る。遺物はまったく出土しておらず，詳細は不明である。

㉞ SX06

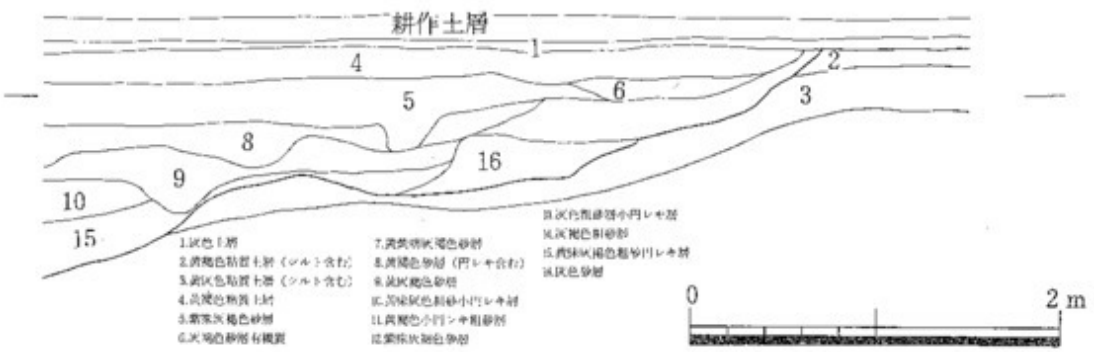
10区で検出された幅3.3m，深さ18mの遺構。横断道永井遺跡から続いてきており，おそらく溝状遺構であろうと思われる。時期を特定できるような遺物は出土していないが，石鏃が1点出土している。

㉟ SX08

15区で検出された幅90㎝，深さ10㎝，長さ約5㎝の溝状を呈する不明遺構である。遺物がまったく出土しておらず，時期その他詳細は不明である。

㊱ SR01

15区で検出された自然河川である。ほぼ南北に走っているが北側で大きくふくらんでいる。川幅は，南側で約5ｍ，北側で約9ｍ，深さは約1.3mである。SR01は横断道永井遺跡で縄文時代後期の土器を大量に出土したSR8606に続くものと思われる。



Ⅵ　稲木地区

1. 調査の概要と調査小区の設定（INⅠ1～8, INⅡ, Ⅲ1～21）

稲木地区は，市道下吉田本村下所東線より現県道西白方善通寺線沿いに国道319号線のとりつき部分までの約600mである。計画当初は試掘調査が必要とされていたので6,665㎡が対象面積であったが，試掘調査の結果，調査不要の部分があり，全面発掘対象面積は3,449㎡となった。調査小区の設定にあたっては，市道下吉田本村下所東線から現県道西白方善通寺線に至るまでをⅠ区とし，10～20m単位で1～7区に分けた。またⅠ区の南側を8区とした。さらに国道319号線とりつき部分までをⅡ，Ⅲ区とし，それぞれ1～6区，7～21区に細分し，調査小区とした。

当該地は，旧金倉川の氾濫原であったと思われ，地割りが南東から北西にむかって乱れている部分が見られる。標高は23～24mを測る。

横断道稲木遺跡は，遺構の性格が異なるためA・B・C地区と称して調査を行っているが，そのうちA地区では遺構は希薄であり，隣接するINⅠ区でも似たような状況である。B地区では，8世紀代の掘立柱建物跡，9～10世紀代の掘立柱建物跡や溝が検出されている。C地区では，弥生時代後期ごろと思われる集石墓，壺棺墓，土坑墓のほか，竪穴住居跡も検出されている。県道Ⅱ，Ⅲ区は横断道からはずれるが距離的に近接しているので当初は，同じような状況が予想された。しかし，調査の結果，横断道部分とは，遺跡の内容が大きく異なることが確認された。特にⅢ区19～21区（JR土讃線踏切以東）においては遺構，遺物ともにほとんど検出されておらず，遺跡は北側へ広がらないことを示唆している。また，Ⅱ区では弥生時代終末期ごろのものと思われる墳墓が検出されており，横断道稲木遺跡C地区との関連が注目される。

(1)　主要遺構

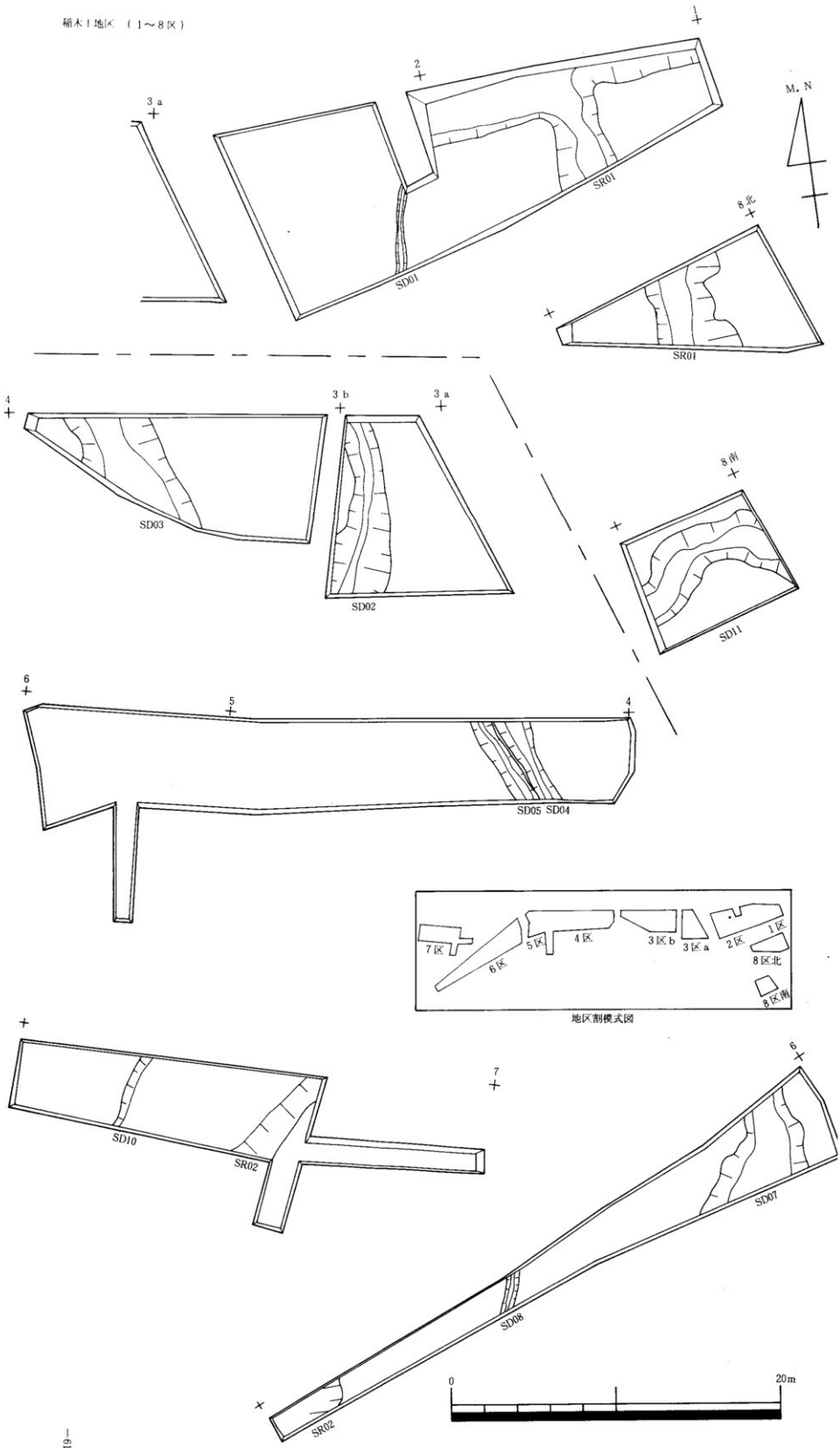
- ○溝状遺構　18条　　(SD01～05, 07, 08, 10～20, 22～24)
- ○自然河川　3本　　(SR01, 02, 04)
- ○不明遺構　7基　　(SX02～04, 06～09, 12, 13)
- ○竪穴住居跡 8棟　　(SH01～08)
- ○墳墓　　2基　　(ST01, 02)

① SD01

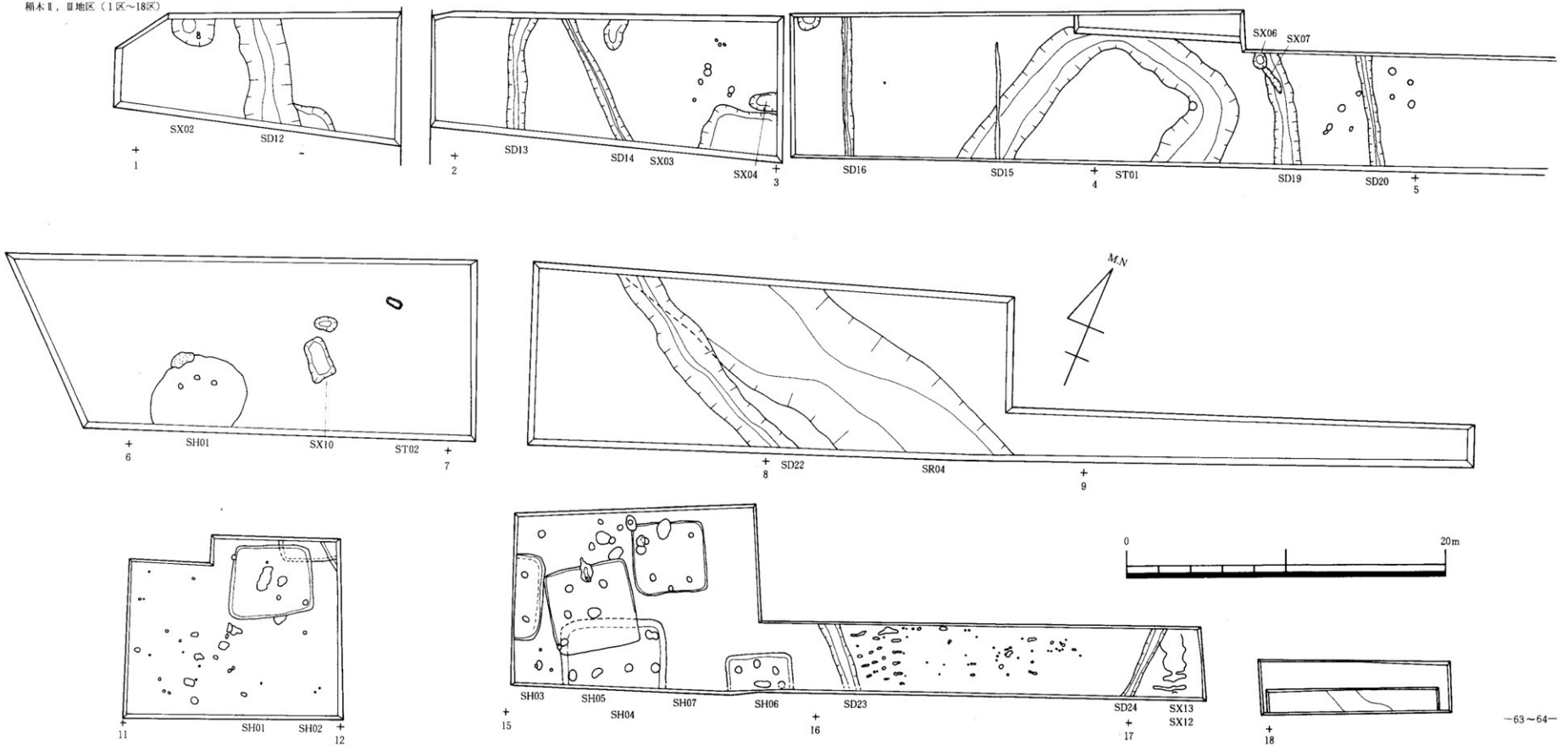
Ⅰ－2区で検出された溝で，長さ4.7m，最大幅60cm，深さ10cmを測る。埋土は暗黄灰色粘質土の単純層で遺物の出土がまったくなく，現地割と平行して走っており，比較的新しいものと思われる。

② SD02

Ⅰ－3区で検出された溝で延長8.8mを測る。ほぼ真北方向にむかって流れており，最大幅3.4m，深さ約30cmである。出土遺物は須恵器片，陶器片が小量あるのみで時期，性格は不明である。



第31図　稲木Ⅰ地区遺構配置図



第32図　稲木Ⅱ・Ⅲ地区遺構配置図

③ SD03

Ⅰ－3区で検出された溝で長さ6.8mを測る。ほぼ真北方向にむかって流れており，最大幅4.7m，深さ約80cmを測る。また，西肩に近いところで2段に落ちている。出土遺物は少なく，時期は不明だが，須恵器片，土師器片が小量出土している。

④ SD04, 05

Ⅰ－4区で検出された溝で，重なり合っている。SD04は幅約1.6m，深さ約20cm，SD05は幅約1.2m，深さ約40cmを測り，SD04のあとにSD05が掘り込まれている。出土遺物はほとんどないが，現地割と同方向に走っており，さほど古くないものであると考えられる。

⑤ SD07

Ⅰ－6区東端で検出された溝状遺構である。長さ約6mを検出したが，北へいくほど幅が狭くなっており，南側の幅は約7m，北側では約2.5mである。深さはわずか8cmであり溝というよりも浅い凹地状のようなものかもしれない。遺物量はまあまあであるが，ほとんどが小片である。出土遺物を見るかぎり，埋没年代として10世紀前半ごろが考えられよう。

⑥ SD08

Ⅰ－6区中央付近で検出された長さ2m余りの溝で最大幅65cm，深さ約20cmを測る。真北より約20°東偏し，北流する。出土遺物は少なく，性格は不明であるが，11世紀を下る遺物が見られないので下限はその頃に求められるであろう。

⑦ SD10

Ⅰ－7区で検出された幅2.5m，深さ15cmの溝である。北流しているが，北へいくほど幅が狭くなっている。出土遺物は須恵器の壺の底部1点のみであるが，高台の外側がほぼ直線的におりてきており，10世紀前半ごろの時期が考えられよう。

⑧ SD11

Ⅰ－8区南側で検出された幅2.5m，深さ40cm程の溝状遺構である。若干蛇行しながら東西方向に走っている。埋土は4層に分層でき，きれいなレンズ状に堆積しているので徐々に堆積していったものと考えられる。出土遺物は皆無に近く，わずかに調整の認められるサヌカイトが4点ほど出土しているにすぎない。したがって時期の決定は困難であるが，方向が他の溝と全然違うことなどからみて，古いものと考えられなくもない。

⑨ SD12

Ⅱ－1区で検出された幅3m，深さ約47cmの溝である。真北より約30°西偏しており，埋土はレンズ状の堆積をなす。出土遺物はごくわずかで，時期はわからないが，土師器片，須恵器片が出土している。

⑩ SD13

Ⅱ－2区で検出された幅約1m，深さ約30cmの溝である。埋土は上・中・下層の3層に分けるこ

とができ，それぞれから小量の遺物が出土している。須恵器片，土師器片がほとんどで時期を明確にすることはできないが，8世紀を下ることはないと思われる。

⑪ SD14

Ⅱ－2区で検出された幅60cm，深さ約20cmの溝。方位は真北より約50°西偏し，埋土は2層に分けられる。出土遺物はすべて小片で詳しい時期はおさえられないが，おそらく中世以前の溝であろう。

⑫ SD15

Ⅱ－3区で検出された幅45cmのごく浅い溝である。長さは約5.7mで調査区中央付近で終息する。出土遺物は皆無に近く，時期，性格ともに不明である。

⑬ SD16

Ⅱ－3区で検出された幅35cm，深さ10cmの溝である。出土遺物は少なく，時期は不明だが近世以降の溝と推測される。

⑭ SD18, 19

Ⅱ－4区で検出された幅9m余り，深さ約10cmの浅い凹地状の遺構である。当初，浅い溝状の遺構が2条検出されていたので別の溝と考えていたが，おそらく1つにまとめられるものであろう。出土遺物は少なく，土師器片，須恵器片がほとんどで上位包含層出土の遺物とほとんど時期差が見られず，この遺構自体，包含層の落ち込みのようなものであるかもしれない。

⑮ SD20

Ⅱ－4区で検出された幅80cmの溝である。包含層上面から切り込んでいるが埋土はほとんど残っておらず，かなり新しいものと思われる。遺物はまったく出土していない。

⑯ SD22

SR01のすぐ西を流れる溝で，北半分はSR01を切っている。幅2m，深さ約1mの断面U字形の溝である。

埋土は大きく分けて2層に分けられる。上層は黄色の礫混じり砂質土で，土師器，須恵器片が出土している。須恵器は6世紀後半ごろのものと思われる坏蓋の口縁端部が出土している。

このことからみてSD01は6世紀後半以降に埋没したものと思われる。ただ，SR01の上層からも6世紀後半ごろの遺物が出土しているので，SD01はSR01が埋没して間もなく掘り込まれたものであると思われる。

また，SD01, SR01が埋没してからのち，氾濫があったと思われ，上層及びその上に堆積していた土が9区の方まであり，包含層を形成している。この包含層のなかからも，6世紀後半の須恵器片の他，多量の土師器片が出土している。

⑰ SD23

Ⅲ－16区で検出された幅約1m，深さ35cmの溝である。南東～北西方向に流れており，小量の土

器片が出土しているが，時期，性格ともに不明である。

⑱ SD24

Ⅲ－16，17区で検出された幅80cm，深さ30cmの溝である。ほぼ真北方向にむかって流れており，小量の土器片が出土しているが，時期，性格ともに不明である。

⑲ SR01

Ⅰ－1区および8区北半で検出された自然河川である。方位は真北より15°西偏し，現地割にほぼ平行で北流する。8区北半では5m，1区では7mほど検出しており，幅約3m，深さ約70cmを測る。ただし，1区中央付近で大きく東西に振っており，調査区北側で別の自然河川に合流する可能性がある。埋土は4層に大別でき，砂質土もしくは砂礫層である。出土遺物もほとんどなく，時期，性格は不明である。

⑳ SR02

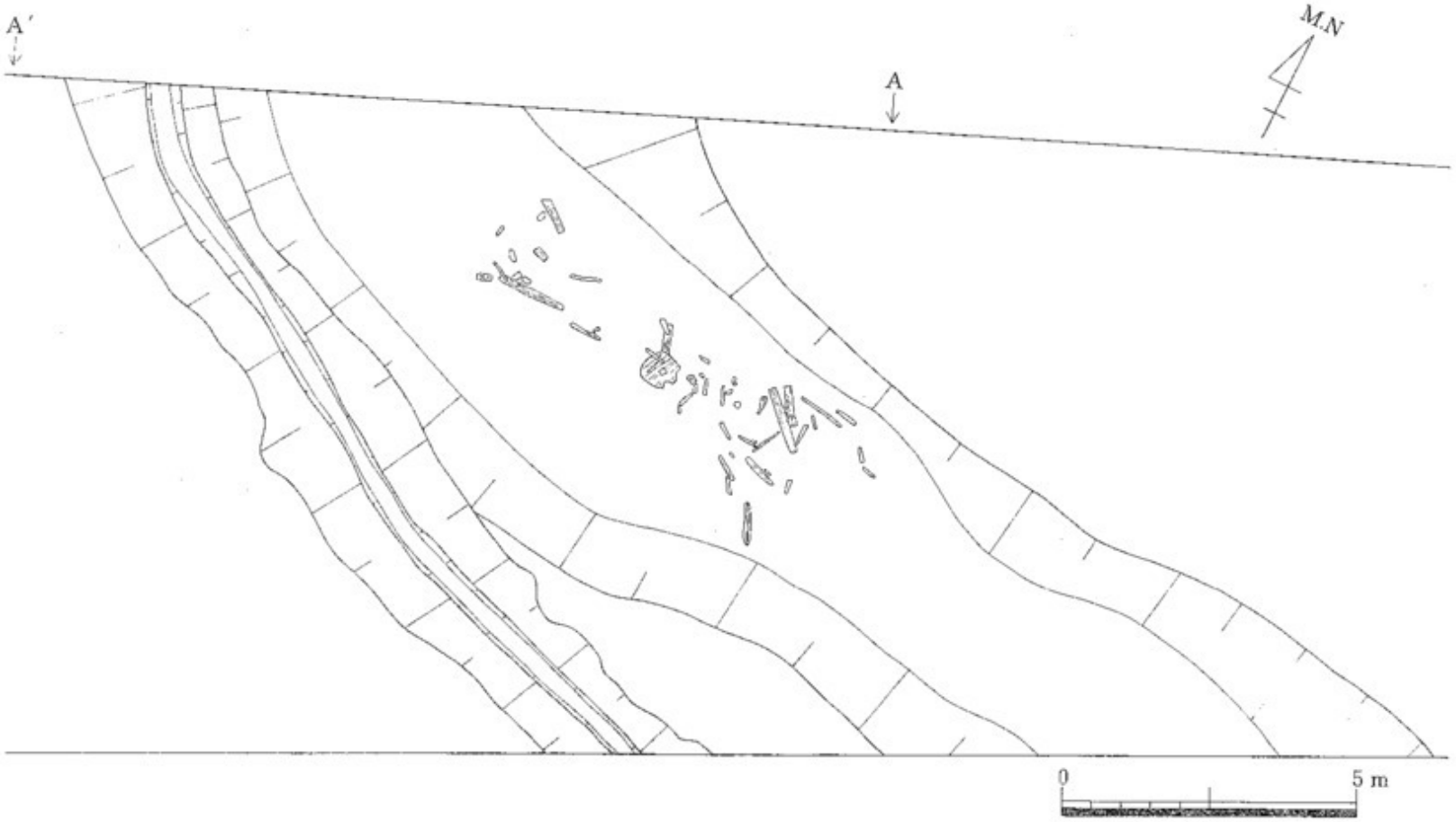
Ⅰ－6区西端および7区東端で検出した自然河川である。6区と7区が南北に離れているため幅は不明である。深さ約80cmを測り，基本的に1層・黒色粘質土，2層・灰黒色シルト，3層・青灰色シルトに大別できる。出土遺物は少なく時期不明の土器片がほとんどである。縄文土器片もあるが，須恵器片もあり，時期は明確にできない。周囲の地形から考えて旧金倉川に関連するものと思われる。

㉑ SR04

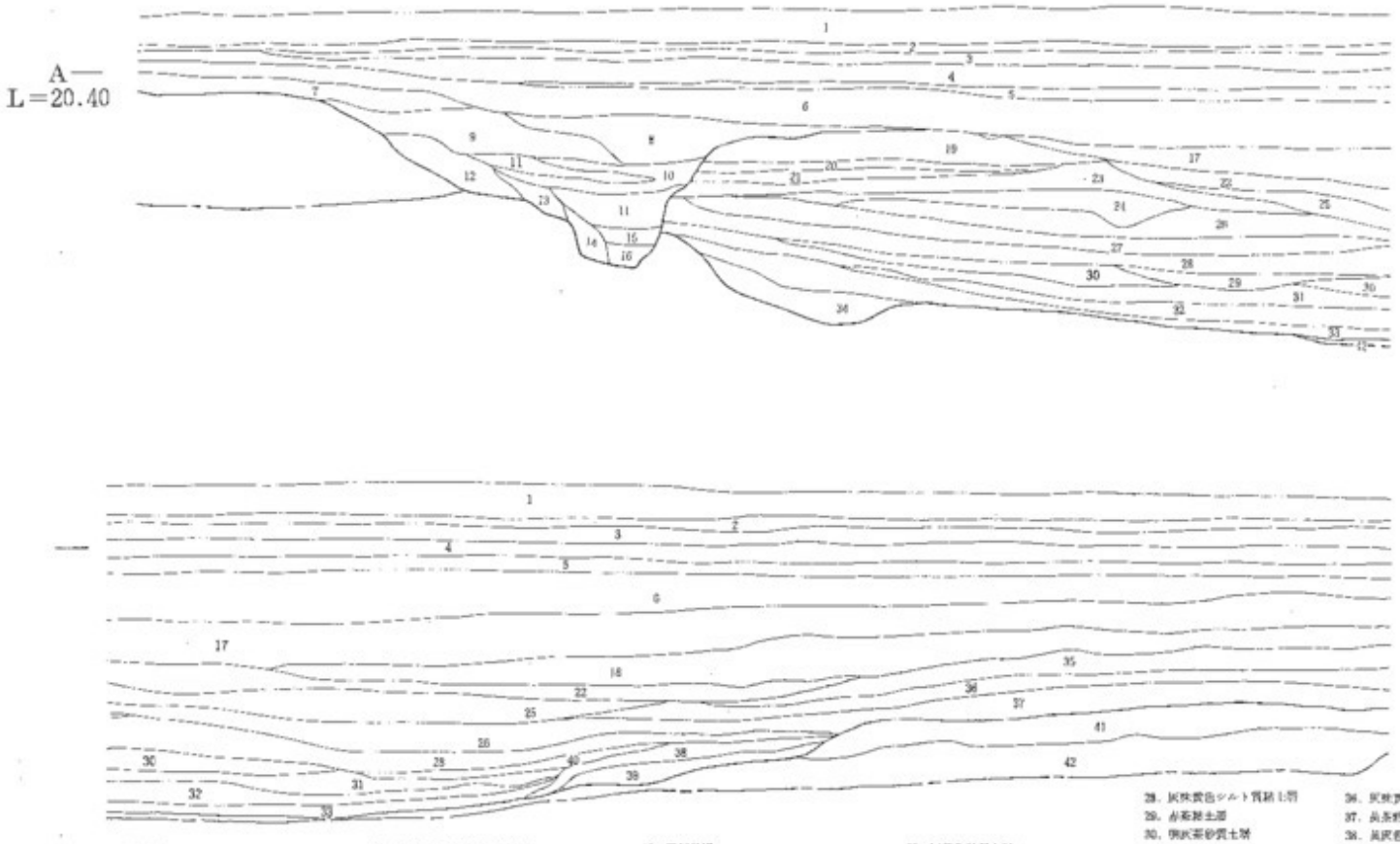
Ⅲ－7，8区で検出された自然河川である。北部はSD022に切られているが，幅7.5m，深さ約70cmを測る。基本的には3層に大別できる。すなわち，上からシルト質粘土層，砂質土層，シルト質粘質土層である。ただし，上位に包含層があり，これを上層とし，以下を中層，下層，最下層とする。

中層のシルト質粘土層は，灰色を帯びており，須恵器や土師器片を多く含んでいる。須恵器を見ると，立ち上がりが高く，6世紀初頭と思われる低脚の高坏や，6世紀後半ごろの坏等がまとまって出土している。この層は6世紀代を通じ徐々に堆積していったものと思われる。下層の砂質土層は灰色，もしくは茶褐色を呈しており土器片の他に木器を含んでいる。最下層のシルト質粘質土層は灰黒色を呈し，やはり木器を含んでいる。出土遺物を見るかぎり，下層と明確な時期差は認められず，比較的長い時間をかけて堆積していったものと思われる。

出土遺物は下層と同じく壺，甕，高坏が同じくらいの割合で出土している。時期は弥生時代後期後半から終末期にかけてのものであろうと思われる。すなわち，甕でいうならば，口縁部がくの字状に屈曲し，細い卵形を呈するものと口縁部がくの字状に屈曲し，端部が外反するものが一括して出土している。また，高坏も脚部から端部にかけて屈曲せず，なめらかな曲線を描くものと，明確な段を有し，屈曲するものとが一括して出土している。坏部にも下半が内湾し，端部まで外反するものと，下半・上半ともに直線的になるものがある。おそらく弥生時代後期後半から終末期（庄内



第33図　IN Ⅲ－7・8・9区　SR04平面図



1．耕作土層
2．赤茶褐色床土土層
3．灰褐色粘質土層
4．灰褐色粘質土層
5．灰黄色系粘土層（赤色少し混る）
6．暗茶褐色粘質土層
7．黄褐色砂シャ混り粘質土層
8．黄茶灰レキ混り砂質土層
9．黄灰砂レキ土層
10．灰黒系土層
11．灰色砂層
12．黄茶褐砂レキ層
13．暗茶砂砂レキ層
14．灰茶砂混り暗茶褐砂レキ層
15．灰黒砂層
16．灰黒砂層（灰ブロック粘土含む）
17．黄褐色粘質土層
18．黄茶褐色粘質土層
19．茶褐色シャ混り粘質土層
20．黄茶砂粘質土層
21．暗灰黒粘質土層
22．灰黄色砂質土層
23．灰灰黒砂層
24．灰褐黄茶褐色粘土レキ混り土層
25．灰黒色粘質土層
26．灰灰茶砂質粘土シルト層
27．黄味灰色シルト質粘土層
28．灰褐黄色シルト質粘土層
29．灰灰黄色シルト質粘土層
30．赤茶粘土層
31．明灰茶砂質土層
32．明灰シルト層
33．灰黒シルト粘質土層
34．灰黒灰黒砂質土層
35．灰色砂質土層
36．灰灰黄褐色土粘質土層
37．黄茶粘質土層
38．灰灰色シルト混り粘質土
39．暗灰灰色シルト混り粘質土
40．黄味灰黄砂シルト層
41．灰褐茶色粘質土層
42．レキ層（地山）

0　2 m

第34図　IN Ⅲ－7・8・9区　SR04土層図

式併行期）にかけてのものであると思われる。

SR04の中，下層からは土器片の他に多量の自然木及び木製品が出土している。代表的なものとして，棒状の柄，四角い穴をあけた板状木製品，横槌，ねずみ返しなどがあげられる。特に横槌，ねずみ返しなどは当時の人々の生活水準を具顕させるものとして注目される。

第51図及び52図はSR04出土の遺物である。第51図８，端部を上外方へ，ほぼ真っすぐにつまみ上げ口縁端部を拡張している。９，薄手の甕である。内面は上半部からヘラ削りを施している。口縁端部はナデ調整を施し，最大径は中央部よりやや上方にあり肩部はなだらかに成形されている。10，やや外反ぎみの口縁の立ち上がりをもつ甕である。粗いハケの後，細いハケで調整している。口縁部から肩部にかけてナデを施している。下半部及び口縁部には，煮沸時とおもわれる煤が付着している。11，口径約10cmの小型の鉢である。若干丸みを帯びた平底である。外面は，指頭痕による成形ののち，雑なハケ目を施している。歪みのある雑な土器である。

第52図１は土師器の高坏である。乳赤褐色の胎土の良好な土器である。２，なだらかに外反する高坏の脚部である。三方向に円孔がみられる。３，高坏の脚部である。四方向に円孔がみられる。後から内面に粘土を埋め込んでいる。４，体部内外面をハケ目の後，横ナデ調整を施し，内面はヘラミガキがみられる。脚部端部は極端に厚みを増している。端部は大部分が欠損し不明瞭であった。５，坏部の下半がやや直線的に立ち上がり屈曲する高坏である。上半部は外反しながら広がる。６，直線的に広がる坏部を持つ高坏である。口縁端部にはナデ調整が見られ，脚部は中央が膨らんでいる。他の高坏とは様相を異にする。７～11，須恵器坏身である。大型で外方に広がる受け部，内傾する端部を持つもの（11）や立ち上がりが短く，小ぶりのもの（７）など若干の時期差はあるものの概ね６世紀中葉から後葉に比定できるものである。12，体部から天井部の境には凹線が巡り，扁平なつまみを付している。内面には丁寧な仕上げナデが見られる。13，完形の有蓋高坏である。焼成は極めて堅緻である。口縁部は高い立ち上がりをもち体部の２分の１以上にヘラ削りを施している。脚部はゆるやかに外湾し，端部には沈線がめぐる。14，口縁部３分の１を残す甕である。外面はタタキを施した後，一部をナデ消している。口縁端部は浅い凹線状のものがめぐっているが，全周をめぐっているものではない。

㉒ SX02

Ⅱ－2区で検出された遺構で，北半分は調査区外へ逃げるため調査していないが，おそらく，直径2.6mほどの円形の凹地であろうと思われる。深さは11cmと浅く，遺物もまったく出土していないので詳細は不明である。

㉓ SX03

Ⅱ－2区で検出された遺構である。北半分は未調査だが，推定で長径約2m，短径1m，深さ約30cmの長楕円形と考えられる。出土遺物は小片ばかりで，時期，性格ともに不明である。

㉔ SX04

Ⅱ－2区東端に西半分のみ検出された遺構で，推定で長径約2m，短径1m，深さ約20cmの長楕円形と考えられる。素焼土器片1点が出土したのみで，詳細は不明である。

㉕ SX06, 07

SD08内で検出された不明遺構である。SX06は直径70cmくらいの不整円形を呈し，SX07は幅25cm，長さ約2mの溝状を呈す。どちらも出土遺物をまったく見ず，おそらくはSD08内の落ちの1つであると考えられる。

㉖ SX08

Ⅱ－4区北西隅で検出された方形の不明遺構である。検出した部分のみで1辺約2mを測る。ごく浅く，単なる落ち込み状のものであろうと思われる。土師器片，須恵器片が小量出土しているが，詳細は不明である。

㉗ SX09

SX07のすぐ南側にある直径70cmほどの不整形を呈す不明遺構である。遺物の出土はまったくなく，詳細は不明である。

㉘ SX12, 13

Ⅲ－17区で検出された不明遺構で，どちらも不整形で明確なプランを持たない。出土遺物は少なく，時期，性格ともに不明である。

㉙ ピット群

Ⅱ－2区では直径20～50cmほどのピットが10個検出された。2～3個が近接して検出されているがその配列に規則性は認められなかった。遺物はまったく出土していない。

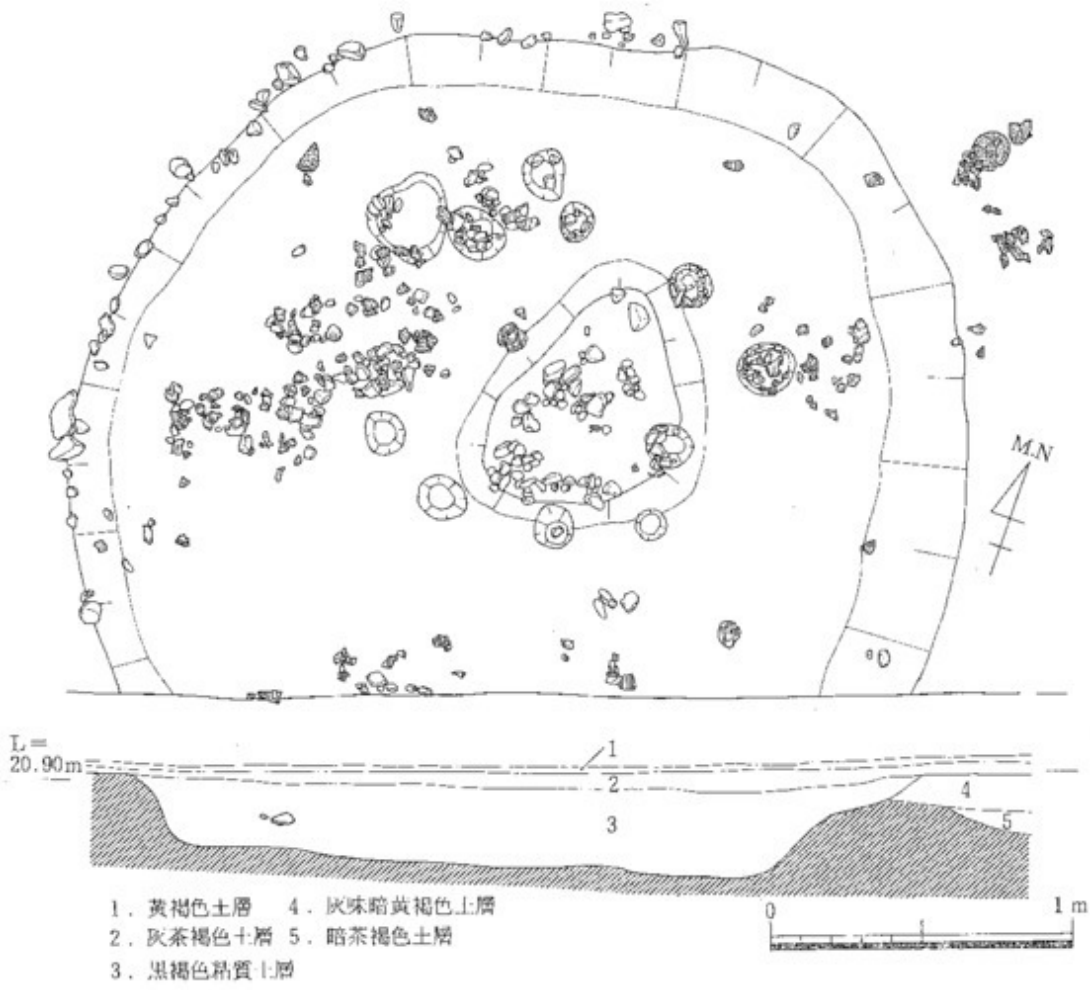
Ⅲ－11区においてもピットが42個ほど検出されているが，大きさ，配列に規則性がまったく認められず，遺物もまったく出土していない。

㉚ SH01

Ⅱ－6区で検出された遺構である。南側は調査区外へ延びるため，未調査であるがおそらくは不整円形を呈するものと思われる。直径約6mで深さ平均50cmを測る。埋土は1層で黒褐色砂質土層，ベースは灰色粘質土を含む砂礫層である。中央やや北東寄りに1.5×2mほどの，ベースの土が

不整形に盛り上がっている部分が見られる。ベース上にピットが計11個検出されている。平面プランおよびピット等の検出状況を考えあわせると，この遺構は竪穴住居跡であると考えられる。また，ベース上から遺物がコンテナ4箱分ほど出土している。復元を試みたが完形になるものはなかった。図示したのは甕の上半部，壺の口縁部，高坏の坏部，鉢である。出土遺物を見るかぎり，いわゆる庄内式併行期と考えられる。

第53図1，SH01の南半分から出土した口縁部を充足した二重口縁状の壺である。口縁端部は平坦な面をもち，器台に転用された可能性も考えられる。2，口縁部にまでタタキを施した甕で，内面は上半部からヘラ削りを行っている。弥生時代後期末葉から終末期にかけてのものであろう。3，ヘラ削りの後で指頭圧痕を施す高坏である。椀の可能性も考えられる。4，明確な屈曲をもち，外面



第35図　IN Ⅱ－6区　SH01平・断面図

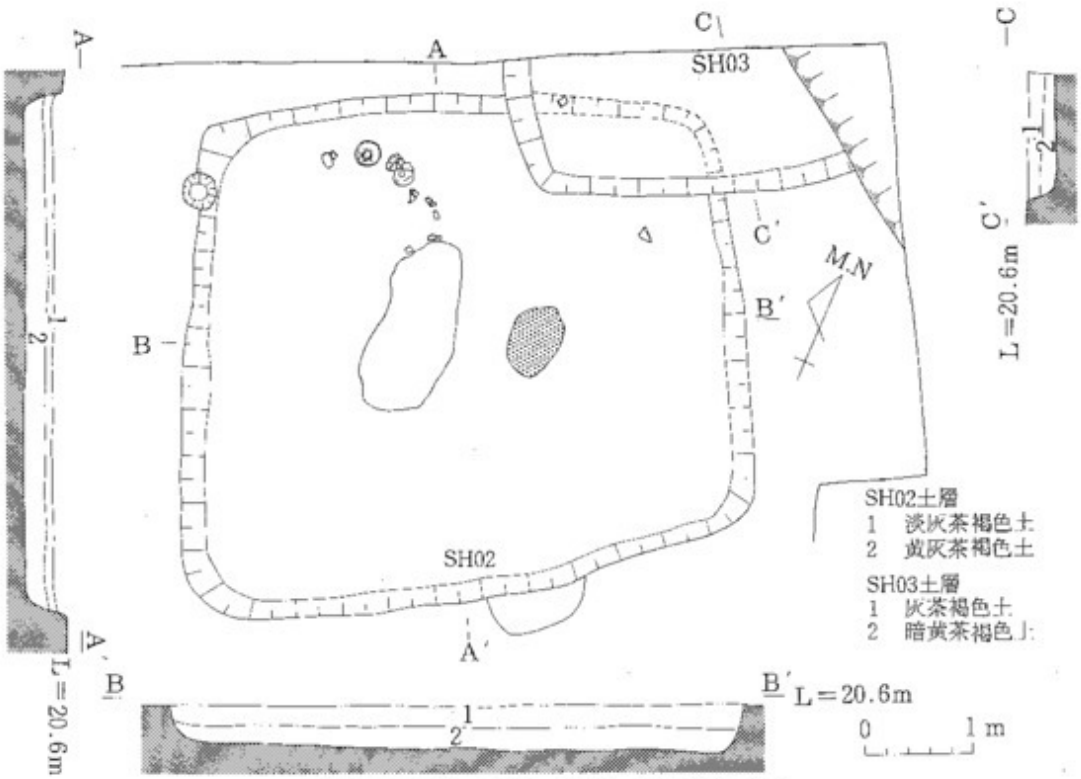
には指頭痕が見られる。内面は縦方向のナデの後，横方向のヘラ削りを行っている。5，口縁部はなだらかに外反し明瞭な稜をもつ高坏であるが，やや古い様相を呈している。6，厚みのある平底の鉢である。7，SH01上層の包含層出土のミニチュアの甕である。

㉛ SH02

Ⅲ－11区で検出された東西5.25m，南北4.8mを測る不整隅丸方形の竪穴住居跡である。床面までの深さ35cmを測り，南西隅をSH03によって切られている。中央部やや東寄りに70×40cmほど地山が焼けた部分が検出されたが，浅い凹みで炉跡とは考えにくい。床面では柱穴とおぼしきピットは検出されず，また壁溝も検出されなかった。床面直上では，壺の口縁部（第53図1）をはじめ，甕の口縁部など土器片が小量検出された。甕の口縁部（第53図2）はタタキを施したのち，端部をくの字状に折り曲げ頸部以下を刷毛目で調整する。いわゆる播磨糸の甕であると思われ，庄内式併行期の所産とみなしうる。

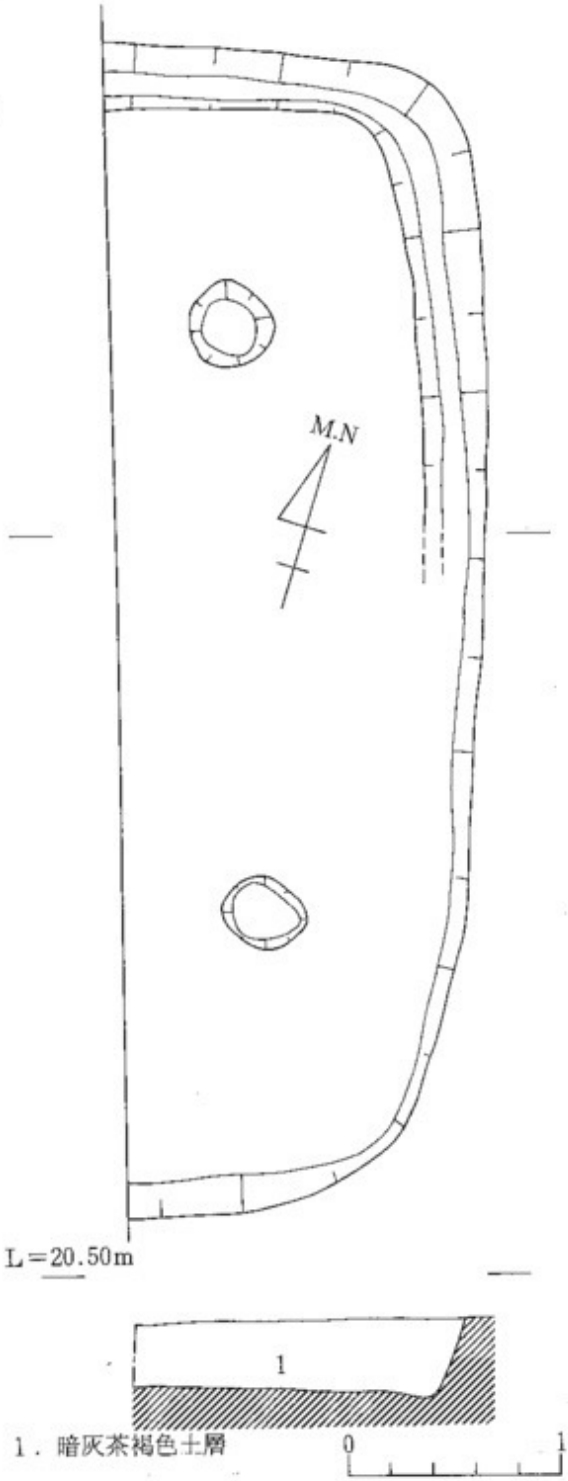
㉜ SH03

SH02の南西隅で検出したが，大部分は調査区外なので，東西3.5m，南北1.5mほどしか調査していない。おそらく，1辺3.5m前後の隅丸方形を呈するものと思われる。SH02の埋土と区別がつきにくく，SH02を掘り下げてみて始めて平面プランが検出されたほどである。床面までの深さは約20cmを測るが，柱穴，壁溝ともに検出されなかった。遺物は小量出土したが，SH02とほとんど時期差



第36図 IN Ⅲ－11区 SH02・03平・断面図

は見られなかった。おそらく，ごく近い時期に相次いで建てられたものであろう。



第37図　IN Ⅲ－15区　SH04平・断面図

㉝　SH04

Ⅲ－15区で検出された隅丸方形の竪穴住居跡である。南北5.5m，西は調査区外なので東西1.7mほどしか検出していない。深さ約40cmを測り北東隅で3mばかり壁溝を検出した。主軸方位は推定で真北より20°西偏しており，東辺沿いに2個の直径40cmほどの柱穴を確認した。出土遺物は少なく時期を決定づけるものはないが，埋土下層の須恵器片（第53図4）を見るかぎり，口縁端部が丸みを帯びて外反する6世紀後半ごろのものと考えられる。

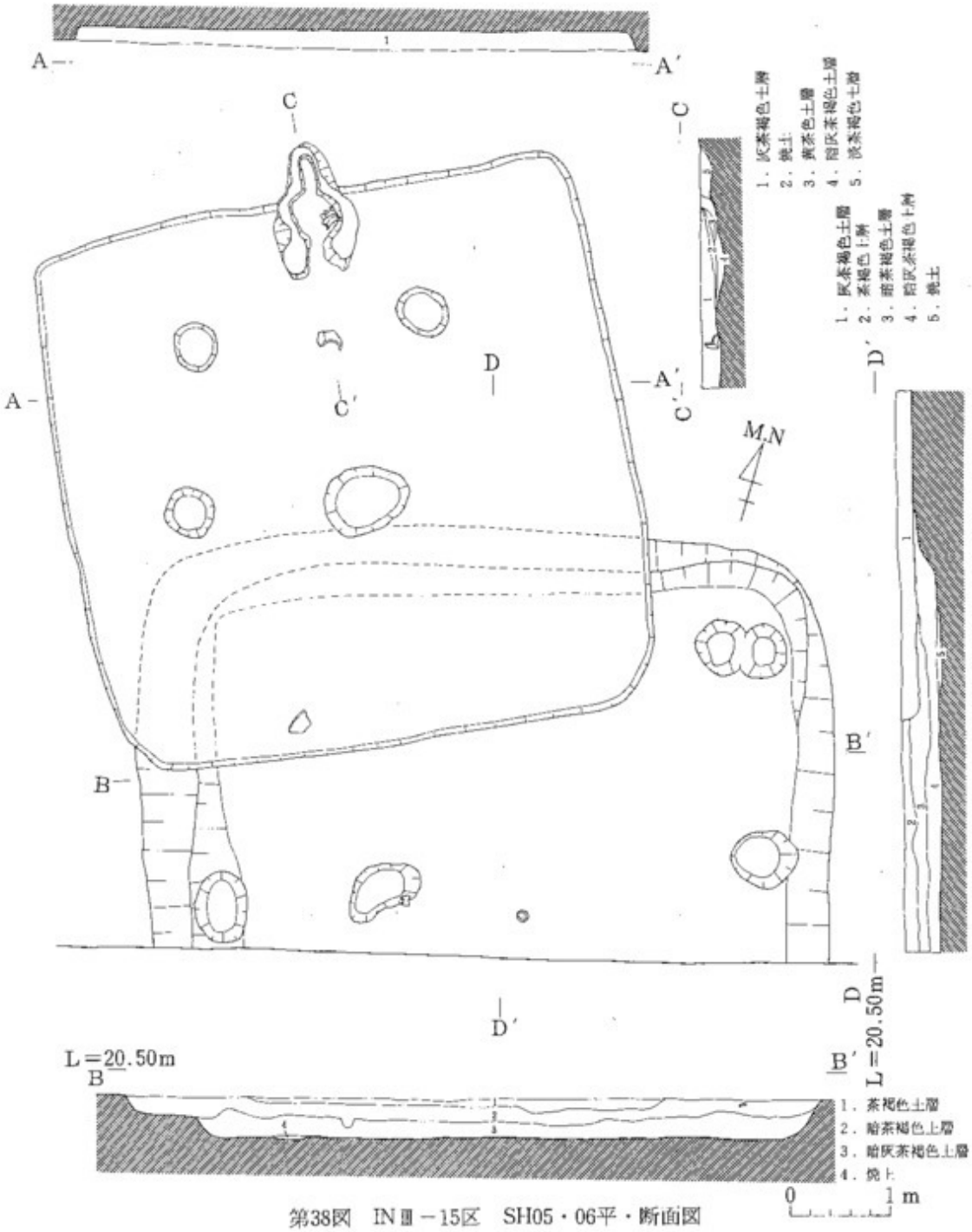
㉞　SH05

SH04の南東部で検出された竪穴住居跡である。南半分は調査区外で北辺の大部分をSH06によって切られているため，正確な規模は測りがたいが，おそらく1辺6.5m前後で隅丸方形を呈していたものと思われる。主軸方位は真北より17°西偏しており，床面でピット5つを検出した。埋土は概ね4層に分けられる。ただし西側の部分で不自然な落ちが見られ2段に掘り込まれたものと考える。出土遺物は土師器が多く須恵器は少ない。床面直上の須恵器坏身（第53図6）を見ると底部外面全体にヘラ削りを施し，内面は丁寧なナデ調整できれいに仕上げている。口縁端部はほぼ真っすぐに立ち上がり，やや厚い。上層出土の須恵器坏身（第53図5）は口縁端部がうすく，やや内傾気味に立ち上がり，床面直上の遺物と比べて2段階ほどの時期差が見られる。この竪穴住居跡は6世紀初頭～前半

にかけて機能していたものと思われる。

㊱ SH06

SH05のすぐ北側にあり，SH05を切っている。1辺5.5mの隅丸方形で主軸方位は真北より28°西偏しており，北辺中央にカマドを有する。床面までの深さ20cmを測り，主柱穴は4つ検出された。

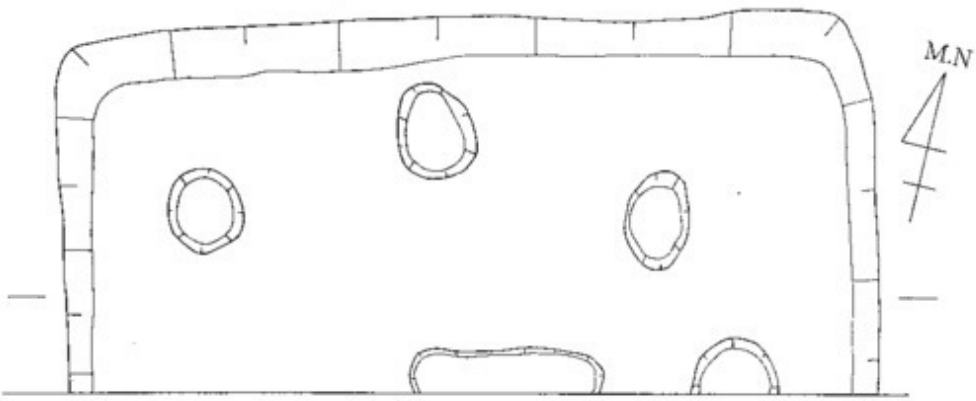


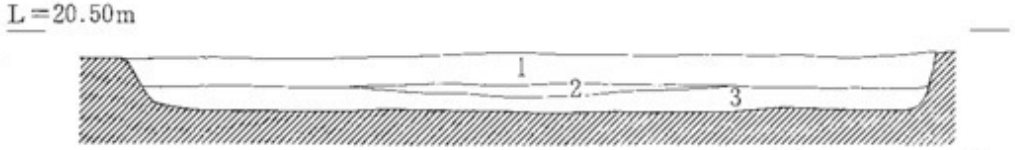
第38図　IN Ⅲ－15区　SH05・06平・断面図

南東隅の主柱穴は位置がずれており，主柱穴とすべきかどうか迷ったが，ここでは一応，主柱穴と考えておきたい。埋土は黄褐色砂質土層の単純層であり，出土遺物は土師器がほとんどで，須恵器は少ない。カマド内の遺物（第53図7），土師器の甕は外傾しながら立ち上がり内湾しておさまる。端部は上方に面をもち，浅い凹線を持つ。内面は指頭痕によって丁寧に仕上げられている。（第53図8）須恵器の底部である。底はヘラ切りを施している。外面はヘラ削りの後ナデ調整が見られる。これらは，6世紀代の所産と考えられる。

㊱ SH07

Ⅲ－15区南東部隅で検出された竪穴住居跡である。北半分のみを検出したが，推定で1辺4.5m前後の隅丸方形と考えられる。深さは，約30cm，主軸方向は北から20°西偏する。埋土は2層に別れる。壁溝は無くピットを5個検出した。その内3個は上位から切りこまれているため，この住居跡に伴うものではないと考えられる。出土遺物は少なく，時期を明確にできないがおそらく6世紀後半ごろのものと考えられる。





1．暗灰黒茶褐色土層 2．暗黄灰褐色土層 3．黄灰色シルト質土層　0　1m

第39図　INⅢ－15区　SH07平・断面図

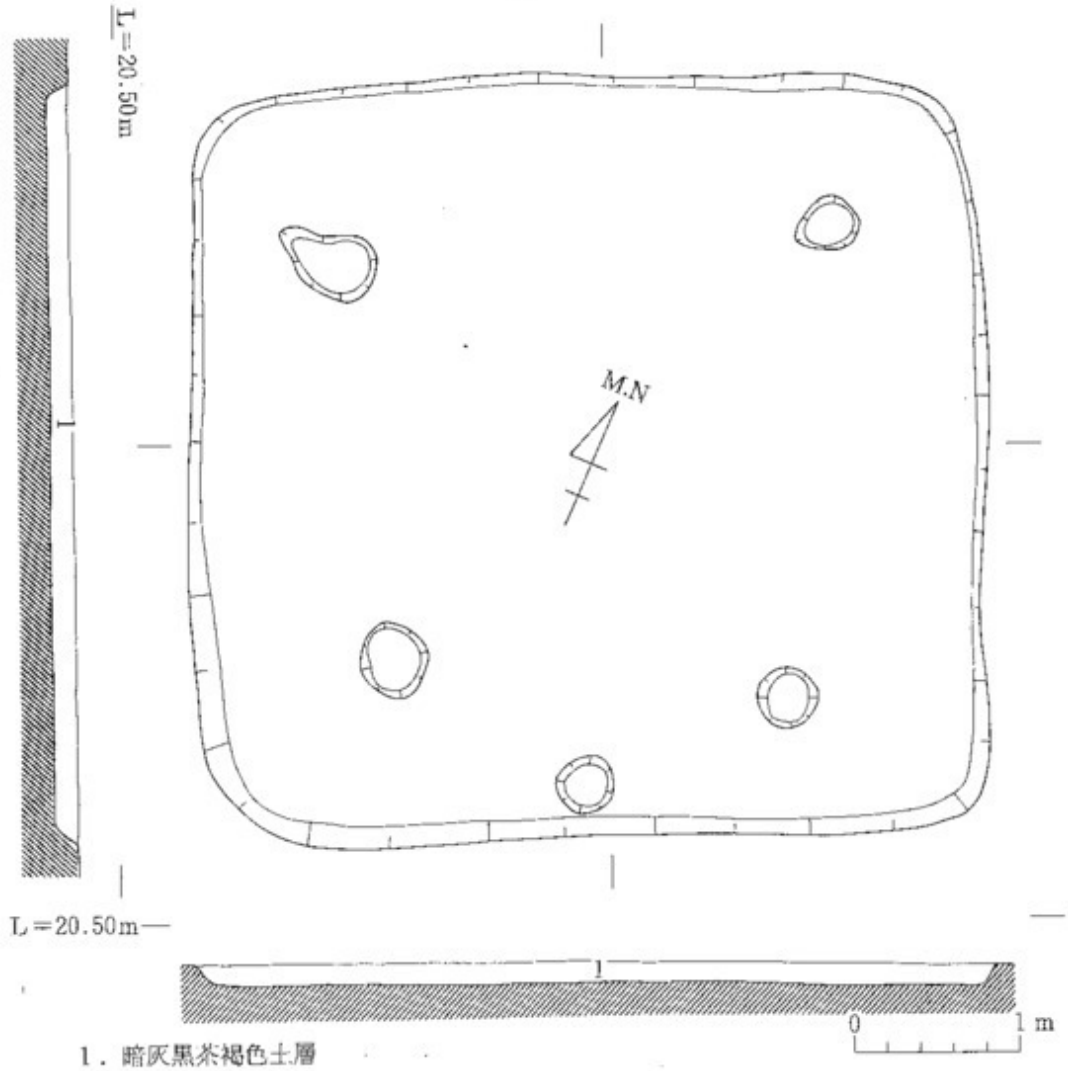
㊲ SH08

SH06のすぐ東側にあり，東西4.7m，南北4.4mを測る隅丸方形の竪穴住居跡である。床面までの深さは約10cmと浅く，埋土は黄褐色砂質土1層であった。主軸方位は西に22°西偏し，床面からピット5個を検出した。おそらく主柱穴は南側1つをはぶいた4穴であると思われる。カマド，壁溝ともに検出されなかった。出土遺物は，他の住居跡と同じで大半が土師器で須恵器は少ない。須恵器の坏身片（第53図9）を見ると，立ち上がりが比較的高く内傾しており，端部には外傾する段

を有する。受け部は短く外方へ伸びており，端部は丸い。6世紀初頭ごろのものと思われる。

〈竪穴住居跡について〉

Ⅲ－15区では計5棟の竪穴住居跡が検出された。主軸方位，出土遺物，位置関係等から判断すると，SH05とSH08，SH04とSH07，SH06という3群に分けられる。SH04とSH05の出土遺物はほとんど同じ時期であるが，平面プランの位置関係から別群であると考えた。横断道稲木遺跡では，A，B，C地区のいずれからも，6世紀前半ごろの顕著な遺構は検出していないので，15区検出の5棟の竪穴住居を含む集落はあまり南へは伸びずに，北方に伸びる可能性があるとおもわれ，今後注意を要するであろう。



1．暗灰黒茶褐色土層

第40図　IN Ⅲ－15区　SH08平・断面図

㊳ ST01

Ⅱ－3，4区にまたがって検出された周溝を持つ遺構である。南側は調査区外へ延びるため不明である。周溝は方形に巡っており，多量の土器片と礫を包含していた。おそらくは墳墓であろうと思われるが，削平を受けているため主体部は確認できなかった。盛り土があったかどうかも不明である。ただ，北東隅部分に二次的埋葬であろうと思われる壺棺（口縁部は欠損している。最大径45cm）が検出されている。

周溝に囲まれた部分は7m×6mの長方形を呈し，主軸方位は北から東に12°ふれている。周溝は西側部分で長さ10m，幅2.8m，深さ50cm，北側部分で長さ8m，幅2.6m，深さ50cm，東側部分で長さ4m，幅3.4m，深さ50cmであった。周溝内には多量の礫および土器片があり，礫はほとんどが河原石で周溝全体に見られる。大きさは約20cm大のものが多いが東側の一部には10cm大のものが集中している。礫は，転落しているものもあるが大部分は現位置を保っているように見受けられる。特に北側と西側は，溝の内側に集中しており貼っていたのではないかとも考えられる。また，周溝が屈曲する部分（北東隅および北西隅）では礫が少なく，最も浅い。周溝の最も深い部分との比高差は約30cmあり，少なくとも二隅は若干の立形を有していたと考えられる。

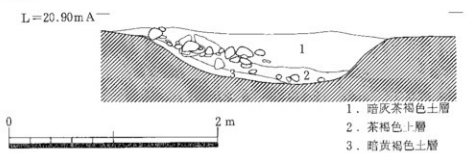
南側の状況を把握するため，西側の周溝を南へ拡張したところ調査区の南の部分で大きくくびれ，さらに南へ続くことがわかった。

出土遺物はほとんど小片であり，図化に耐えうるまでに復元できたのは約20点にすぎない。甕，壺が多く，鉢，高坏は少ない。甕は，口縁部がくの字状を呈し形状は丸みを帯びた卵形で，底部は径3cmほどの丸底に近い平底，外面調整はタタキの後粗いハケ目を施し，内面はヘラ削りを行っているものがほとんどで，時期的にいわゆる庄内式併行期といわれるものである。つまり，この遺構は弥生時代終末期のものとおもわれる。

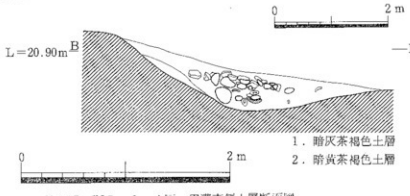
第47，48図はST01周溝内出土遺物である。

第47図1，ほぼ直立する頸部をもち，口縁部は屈曲し外側に延びる。内外面ともハケ目が見られるが，頸部上半及び口縁部はナデ調整を施している。2，1の土器よりもやや外側へ延び，肥厚せず端部はなだらかにおさまる。茶白色を呈し焼成は不良である。3，薄手の小型丸底壺である。内面はヘラ削りとハケ目調整がわずかに見えるが，磨滅が著しく不明瞭であった。最大径はほぼ中央にあり，扁平な球状を呈する。4，胎土の粗い直口壺である。やや外傾気味に立ち上がる口縁をもち，体部はほぼ球形を呈すると思われる。5，約2分の1を残す小型丸底壺である。外面は，指ナデを施したのち粗いハケ目を施している。口縁部は，外方気味に膨らみをもって立ち上がる。6，坩の底部である。7，外面は口縁部にまで，タタキが施されている。内面は，頸部下にヘラケズリを行っている。体部は長胴形を呈するものと考えられる。胎土は良好で茶褐色である。8，甕の体部である。やや尖り気味の丸底を有する。外面は，底部にタタキが見られる。後粗いハケ目が体部をおおう。庄内式併行期と考えられる甕である。9，粗くしっかりしたタタキを施し，後ハケ目及

第41図　IN Ⅱ－3・4区　ST01平面図



第42図　IN Ⅱ－3・4区　周溝西側土層断面図



第43図　IN Ⅱ－3・4区　周溝東側土層断面図

びナデ調整を行っている。口唇部の外面に端面をもち，横ナデを施している。底部は平底で，ハケ目が見られる。

第48図1，甕の破片である。口縁端部内面は，横ナデを施している。内面はヘラ状の工具による痕跡が見られた。外面のタタキは粗い。2，口縁部を外反させ，端部はナデ調整を行う。体部には全面にタタキが施されていたものと考えられる。3～5は鉢である。3は端部がスムーズに立ち上がり，丸底である。4，内湾した口縁部とややへこみ気味の底部をもつ。5，平底を呈する鉢である。内外ともに剝落が著しく，調整は不明瞭であった。6，高坏脚部である。脚部内面は指ナデの後横方向のヘラ削りを施している。穿孔は3ヵ所に見られる。7，器台である。口縁部は，刻み目文を持ちやや屈曲して広がる。裾部はなだらかにおさまる。8，片口の鉢である。扁球状の体部に，短く外傾する口縁を持つ。内面の調整は不明であった。9，小型の台付坩である。内面は，横方向のハケ目調整を行っている。外面は砂流のあとが見られるが，磨滅のため調整は不明である。

㊴ ST02

30～33cmのきわめて小型の竪穴式石室である。主軸方位はほぼ東西で，わずかながら東短側壁が広がる傾向がうかがえる。東短側壁のみ1枚の安山岩の板石を使用しており，そのことからも東頭位の埋葬状況が考えられる。それ以外は全て直径20～30cmの河原石を積み上げて構築している。また掘り方と石組みの間には小さな円礫による裏込めも行っている。規模が小さいので成人埋葬の可能性は薄く，小児埋葬用であったと思われる。出土遺物が少ないため時期は不明であるが，遺構面の状況等から考えて，ここではST01とほぼ同時期であると考えておきたい。

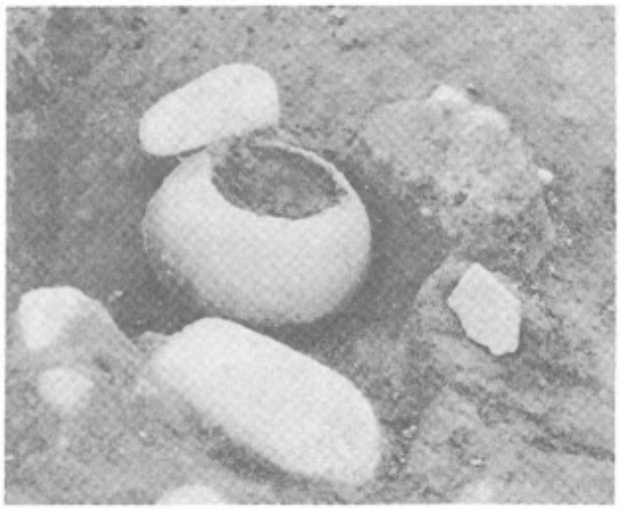
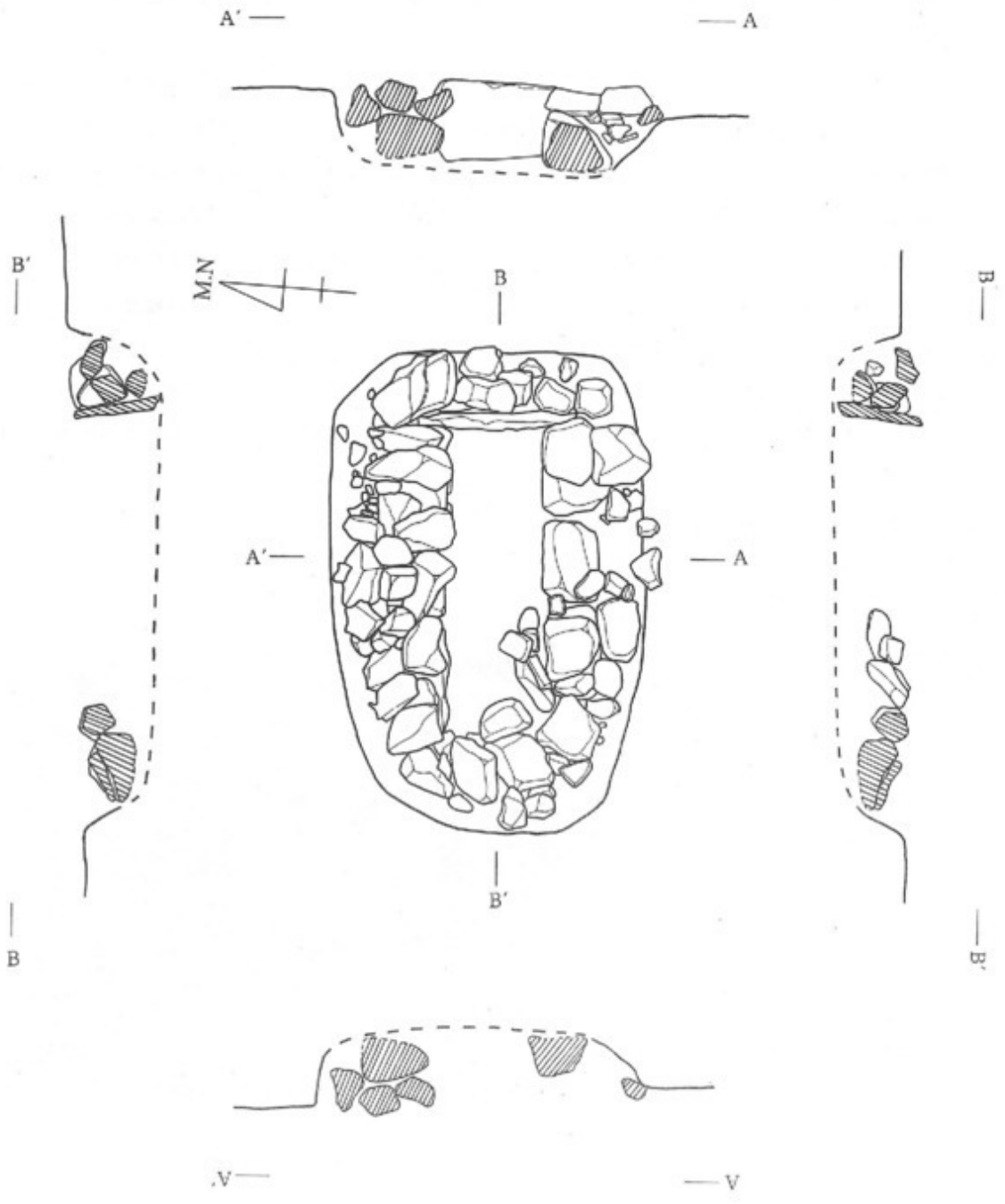


写真13　ST01土器出土状況



レベルはすべて　L＝20.5m　である

第44図　INⅡ－6区　ST02平面図

ま と め

本調査は，県道改良工事に伴う調査ということもあり，横断道沿いに長狭なトレンチを開けたに等しい状況である。しかも工事と並行して調査を行ったため未買収地を残しながら調査を進め，買収後にまた調査を行うという変則的な調査であった。また，横断道土盛部分からの雨水の侵入でトレンチ内が水浸しになったこともたびたびあった。

このような状況であったので決して満足すべき調査ではなかったが，各地区それぞれに成果があったように思われる。以下，それを述べてまとめとかえたい。

阿弥陀堂地区

弘田川の東岸に位置する。弘田川西岸は旧河川の氾濫原とおもわれる。東岸についても古代においては似たような状況を示しており遺構は検出されないが，中世後半ごろになると，掘立柱建物が営まれ，集落域として利用された形跡があり，阿弥陀堂地区でも中世後半の掘立柱建物跡が検出されている。

なお，阿弥陀堂地区は横断道では発掘を行っていないので，新たに阿弥陀堂遺跡と称することにする。

中村西地区

横断道乾遺跡隣接地で，連続する遺構を検出している。特に弥生時代前期の完形の壺を出土したSX8501に続くと思われるSX03などは弥生時代の丸亀平野の状況を考えるうえでは重要であろう。その他に顕著な遺構・遺物は認められず，それを立証する手がかりも得られなかった。今後の周辺の調査成果を待ちたい。

なお，中村西地区は横断道調査に従い，乾遺跡と称することにする。

中村東地区

平安時代の銅印や帯金具の出土した溝等を検出した横断道中村遺跡の南隣接地であり，遺構の状況はよく似ている。乾遺跡SX8501と関連するであろうNR01に続くSR01などは注目される。また，15区検出のSR02は永井遺跡SR8501に続き，縄文時代の丸亀平野を考える際の貴重な資料といえるだろう。

永井地区

検出された遺構がほとんど溝状遺構であり，しかも調査区内で完結しないものが大多数であるの

で，はっきりとした遺跡の内容は押さえられない。が，横断道永井遺跡で検出された縄文時代後期の自然河川の延長を検出したことは，香川県の縄文時代を考える格好の材料となるであろう。また，永井遺跡で編み物の出土した自然河川は県道部分にも延長するがトレンチの幅が狭く，危険なため，深く掘り下げなかったが，周辺に同様の自然河川が何本も流れていたことが確認されたことは丸亀平野の旧地形の復元におおいに役立つであろう。

なお，永井地区も横断道調査にならい，永井遺跡と称することとしたい。

稲木・高架地区

この部分は大きくⅠ・Ⅱ・Ⅲ地区に分けて調査を行った。Ⅰ区は，横断道稲木遺跡A地区隣接地で横断道同様，遺構の密度はやや希薄であった。Ⅱ区では，削平により，主体部を削られた墳墓（ST01）や小型の石積みの墳墓（ST02）などが検出されている。ST01は，方形にめぐる周溝をもち，周溝内からは多量の礫と土器片が出土している。出土土器を見るかぎり，庄内式併行期のものと思われる。また，西溝の拡張部分では周溝がくびれ，南へ延びる可能性があり，単純な方形墳墓でないことをうかがわせる。考えられる可能性としては2通りあると思われる。1つは方形周溝墓であり，今1つはマウンドを削られた古墳である。しかし，周溝内の礫，出土土器の年代観，方形周溝墓や古墳といった新しい墓制がいったいいつごろ讃岐へ波及したものか，といった追求すべき問題が散積しているのでここでは2つの可能性のあることを言及しておくにとどめたい。また，横断道稲木遺跡C地区で弥生時代後期後半ごろと思われる集石墓，土坑墓，壺棺墓が検出されていることは注目される。今後，類例の増加を待って慎重な意義付けを行う必要があるが，多種多様な墓制がこの地区に混在していることをどう評価するかが大きな課題であろう。また，Ⅲ区においては，弥生時代から古墳時代にかけての自然河川や6世紀代の竪穴住居跡が検出されている。自然河川からは土器と共に多量の木器片が出土しており，周辺に生活遺構のあったことが推測される。

なお，稲木・高架地区は横断道調査にならい稲木遺跡と総称することにし，Ⅰ区はA地区に含め，Ⅱ・Ⅲ区は遺構の性格が横断道調査結果と異なるため，それぞれD地区，E地区と称することとする。

表３　中村東地区SR02出土遺物観察表

図面番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部	体部	底部	胎土	焼成	色調	備考
45図－1	SR02	浅鉢	1/9	内面 不明 外面 ヘラミガキ	内面 不明 外面 縄文，沈線	——	やや密	普通	橙茶褐色	
2	〃		——	——	内面 ケズリ，ミガキ 外面 ヘラミガキ，沈線	——	やや密 雲母含む	やや良	黒褐色	
3	〃		——	——	内面 ナデ？ 外面 羽状縄文	——	やや密	普通	暗褐色	
4	〃		——	——	内面 ナデ？ 外面 羽状縄文	——	密	やや良	暗褐色	
5	〃		——	——	内面 条痕 外面 沈線文	——	やや密	普通	暗褐色	
6	〃		口縁部	内面 ナデ 外面 磨消縄文	——	——	やや密	普通	黒褐色	
7	〃		——	——	ヘラミガキ	——	密	普通	内面 暗褐色 外面 黒色	
8	〃		——	——	内面 条痕 外面 沈線文	——	やや密	普通	内面 黒褐色 外面 茶褐色	
9	〃		口縁部	内面 ナデ：端部に縄文 外面 条痕	——	——	やや粗	普通	内面 黒褐色 外面 灰黄色	
10	〃		——	——	内面 ナデ 外面 縄文	——	やや粗	普通	黒褐色	
11	〃		口縁部	磨滅のため不明 外面 刺突文	——	——	粗	不良	黒灰褐色	
12	〃		底部付近	——	内面 ナデ 外面 条痕	——	粗	普通	内面 黒色 外面 黄褐色	
13	〃		底部	——	——	条痕	やや粗	普通	内面 黒褐色 外面 灰黄褐色	
14			——	条痕	——	——	やや密	やや良	内面 黒色 外面 暗黄褐色	焼成後穿孔

表４　ＮＧ地区　出土遺物観察表

図面番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部	体部	底部	胎土	焼成	色調	備考
46図－1	SD08		口縁部	磨滅のため不明 外面 沈線文	——	——	粗	不良	暗灰褐色	
2	SX03		——	——	磨滅のため不明	——	やや粗	不良	内面 黒褐色 外面 灰褐色	
3	〃		——	——	磨滅のため不明	——	粗	不良	黒褐色	
4	〃		——	——	磨滅のため不明	——	やや粗	不良	内面 黒褐色 外面 暗黄褐色	
5	〃		底部	——	——	磨滅のため不明	普通	不良	内面 黒灰色 外面 橙褐色	
6	〃		——	——	内面 不明 外面 条痕	——	粗	不良	暗褐色	
7	〃		——	——	磨滅のため不明	——	粗	不良	内面 黒褐色 外面 暗紫灰褐色	
8	〃		1/10	内面 押圧のちナデ 外面 条痕	内面 条痕のちナデ 外面 条痕	——	粗	やや不良	黒色	

表5　稲木・高架地区　出土遺物観察表

遺物番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部（頸部）	体部	底部（脚部）	胎土	焼成	色調	備考
47図－1	IN Ⅱ地区 ST01 北溝	壺	口縁～肩部 1/2	内面 ハケ目のちヨコナデ 外面 ヨコナデ 頸部ハケ目	内 ハケ目 外 ハケ目のちミガキ	——	やや密	良	暗褐色	
2	〃 西溝	〃	口縁～頸部 1/2	内面 不明 外面 ヨコナデ 頸部ハケのちナデ	——	——	やや密	不良	茶白色	
3	〃 北溝	小型丸底壺	体部	——	内面 ハケ目・ヘラケズリ 外面 ナデ	内面 指頭圧痕 外面 ナデ	やや密	やや不良	赤褐色	外面黒斑あり
4	〃 東溝	〃	口縁～体部 1/3	不明	内面 押圧か？ 外面 ハケ目のちナデ？	——	やや密	普通	茶白褐色	
5	〃	〃	1/2	内面 不明 外面 ハケ目のちナデ	内面 押圧・ナデ 外面 ナデ	内面 押圧 外面 ハケ目	やや密	普通	灰茶褐色	
6	〃 西溝	壺	約1/3	——	内面 ハケ目 外面 ハケ目，ナデ	内面 押圧 外面 ハケ目のちナデ	やや密	普通	茶白褐色	
7	〃 東溝	甕	1/5	内面 ナデ 外面 叩きのちナデ	内面 押圧，ヘラケズリのちナデ 外面 叩き	——	やや密	やや良	茶褐色	外面黒斑あり
8	〃 東溝	〃	口縁部欠損	——	内面 ハケ目のちヘラケズリ 外面 叩きのちハケ目		やや密	普通	褐褐色	外面黒斑あり
9	〃 東溝	〃	1/4	ヨコナデ	内面 押圧のちヨコナデ ナデのちヘラケズリ 外面 叩きのちハケのちナデ	内面 押圧 外面 ハケのちナデ	普通	普通	内面 暗灰褐色 外面 黒褐色	外面黒斑あり
48図－1	〃 北溝	〃	口縁～肩部 1/8	内面 ハケ目のちヨコナデ 外面 ヨコナデ	内面 押圧・ナデのちヘラケズリ 外面 叩きのちハケ目	——	やや密	良	黄灰褐色	
2	〃 北溝	〃	口縁～口部 1/3	内面 ハケ目のちヨコナデ 外面 ヨコナデ	内面 ヘラケズリ 外面 叩きのちハケ目	——	やや密 金雲母含む	普通	暗黄褐色	
3	〃 東溝	鉢	1/3	ナデ	内面 ハケ目 外面 ナデ・押圧	押圧	密	不良	茶褐色	外面黒斑あり
4	〃 北溝	〃	ほぼ完形	磨滅のため 不明	内面 ハケ目 外面 不明	内面 ハケ目 外面 不明	やや粗	普通	茶褐色	外面黒斑あり
5	〃 北溝	〃	底部1/3	——	内面 不明 外面 ハケ目	ハケ目	やや密	不良	内面 灰褐色 外面 茶白色	壺か？

遺物番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部（頸部）	体部	底部（脚部）	胎土	焼成	色調	備考
6	〃 東溝	高坏	脚部	——	——	内面 ユビナデのちヘラケズリ 外面 ハケ目・ヨコナデ	普通	やや不良	淡橙褐色	穿孔 3ヶ所
7	〃 西溝	器台	完形	内面 ハケ目，ナデ 外面 ナデ，刻み目	内面 押圧のちナデ 外面 ハケ目のちナデ	内面 押圧のちナデ 外面 ナデ	普通	普通	茶白色	
8	〃	片口鉢	1/2	ナデ	内面 ナデ？ 外面 叩きのち下半ハケ目	——	普通	普通	茶白褐色	外面黒斑あり
9	〃 東溝	台付坩	体部	——	内面 ナデ，ハケ目 外面 ナデ，下半部はヘラケズリ？	——	密	不良	内面 茶褐色 外面 灰褐色	
49図	〃	壺	2/3	——	内面 ハケ目 外面 叩きのちハケ目	内面 押圧 外面 ヘラケズリ	やや密	良	内面 橙灰褐色 外面 黄褐色	外面黒斑あり 壺棺
50図－1	〃	坏蓋	1/12	回転ナデ	回転ナデ	——	密	普通	灰白色	
2	〃	高坏	2/3	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	やや密	普通	灰白色	
51図－1	INⅡ地区 SH01	壺	口縁部～肩部	ヨコナデ	内面 ユビナデ 外面 ハケ目	——	やや粗	やや不良	暗黄褐色	
2	〃	甕	2/3	内面 ハケ目 外面 叩きのちナデ	内面 ヘラケズリ 外面 叩きのちハケ目	——	やや密	不良	茶褐色	
3	〃	高坏	坏部1/2	ナデ	内面 押圧 外面 ヘラケズリのちナデ，押圧	——	普通	普通	茶褐色	
4	〃	〃	脚部	——	——	内面 板ナデ，ヨコナデ 外面 ハケ目，ヨコナデ	やや密	良	白黄褐色	
5	〃	〃	坏部	ハケ目のちナデ	内面 ハケ目のちヘラミガキ 外面 ヘラケズリ	——	密	良	茶褐色	
6	〃	鉢	ほぼ完形	ナデ	内面 ハケ目のちナデ 外面 ナデ	ナデ	やや密	普通	内面 赤褐色 外面 赤灰褐色	外面黒斑あり
7	INⅡ地区 包含層	ミニチュア甕	ほぼ完形	ナデ	内面 ユビナデ 外面 叩きのちヘラミガキ		やや密	普通	茶褐色	

遺物番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部（頸部）	体部	底部（脚部）	胎土	焼成	色調	備考
51図－8	ＩＮＩ地区 SR04 下層	壺	口縁部 1/4	ヨコナデ 外面 貝殻文，竹管文および刻み目が入る	――	――	やや密	普通	茶褐色	
9	〃 東西トレンチ	甕	1/2	ヨコナデ	内面 ナデのちヘラケズリ 外面 ハケ目		やや密 金雲母含む	普通	茶褐色	2次焼成
10	SR04	〃	1/2	内面 ハケ目 外面 ヨコナデ	内面 押圧のちヘラケズリ 外面 粗いハケ目のち密なハケ目	――	普通	普通	茶褐色	2次焼成
11	〃 最下層	鉢	ほぼ完形	ハケ目	内面 ハケ目 外面 押圧のちハケ目	内面 押圧 外面 ハケ目のちナデ	やや粗	やや不良	内面 灰褐色 外面 暗灰褐色～黄褐色	内面黒斑あり
52図－1	〃 中層	高杯	杯部	磨滅のため 不明	磨滅のため 不明	――	やや粗	やや不良	明褐褐色	
2	〃 下層	〃	脚部	――	――	磨滅のため 不明	やや密	やや不良	明褐褐色	穿孔 3ヶ所
3	SR04	〃	脚部	――	――	磨滅のため不明 脚内接合部に粘土補充	普通	普通	灰黄褐色	穿孔 4ヶ所
4	〃 最下層	〃	ほぼ完形	内面 ハケ目，ヘラミガキ 外面 ハケ目	内面 ハケ目，ヘラミガキ，ヨコナデ 外面 ハケ目	内面 しぼり目，ハケ目のちヨコナデ 外面 ハケ目のちヨコナデ	やや密	やや不良	暗茶褐色	
5	〃 中層	〃	ほぼ完形	ヨコナデ	ヨコナデ	内面 ヨコナデ 外面 ハケ目	やや密	良	灰褐色	
6	〃 最下層	〃	ほぼ完形	ヨコナデ	磨滅のため 不明	内面 しぼり目，ナデ 外面 ナデ	やや密	普通	暗黄灰褐色	
7	〃 中層	杯身	1/5	回転ナデ	回転ナデ	――	密	普通	青灰色	
8	〃	〃	2/3	回転ナデ	回転ナデ	内面 仕上げナデ 外面 ヘラケズリ	密	普通	暗青灰色	
9	〃	〃	1/5	回転ナデ	回転ナデ	内面 回転ナデ 外面 ヘラケズリ	やや密	普通	暗青灰色	
10	〃	〃	1/4	回転ナデ	回転ナデ	内面 仕上げナデ 外面 ヘラケズリ	やや密	普通	内面 暗灰色 外面 淡灰色	
11	〃	〃	1/16	回転ナデ	回転ナデ	内面 仕上げナデ 外面 ヘラケズリ	やや密	普通	青灰色	

遺物番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部（頸部）	体部	底部（脚部）	胎土	焼成	色調	備考
12	〃	高杯蓋	1/6	回転ナデ	回転ナデ	天井部内面仕上げナデ，外面ヘラケズリつまみ部回転ナデ	やや密	普通	内面 灰色 外面 暗灰色	
13	〃	高杯	完形	回転ナデ	内面 回転ナデ 外面 回転ナデ，ヘラケズリ	回転ナデ	密	良	灰白色	
14	〃	甕	口縁部 2/3	回転ナデ	内面 押圧 外面 格子叩き	——	やや密	良	淡青灰色	
53図－1	IN II 地区 SH02	壺	口縁部～頸部	内面 ハケ目のち ヨコナデ 外面 ハケ目のち ヨコナデ 頸部外面ハケ目	——	——	やや密	普通	内面 赤褐色 外面 橙灰褐色	外面黒斑あり
2	〃	甕	口縁部～肩部 1/2	内面 ハケ目 外面 叩きのち ヨコナデ	内面 ハケ目のち ヘラケズリ 外面 叩きのち ハケ目	——	やや密	普通	茶褐色	
3	〃	〃	頸部～底部	——	内面 ハケ目のち ヘラケズリ？ 外面 叩きのち ハケ目		やや粗	やや不良	白黄褐色	外面黒斑あり
4	SH04	杯蓋	1/9	回転ナデ	回転ナデ	——	密	普通	灰白色	
5	SH05	〃身	1/4	回転ナデ	回転ナデ	外面 ヘラケズリ	密	普通	内面 青灰色 外面 暗灰色	
6	〃	〃身	ほぼ完形	回転ナデ	回転ナデ	内面 回転ナデ 外面 ヘラケズリ	密	良	内面 暗青灰色 外面 暗灰色	
7	SH06	甕	口縁～肩部	内面 不明 外面 ナデ	内面 押圧 外面 ハケ目のちナデ	——	密	普通	茶褐色	
8	〃	底部	底部1/4	——	——	内面 回転ナデ 外面 ヘラ削りのちナデ，ヘラギリ	密	普通	内面 青灰白色 外面 灰白色	
9	SH08	杯身	1/8	回転ナデ	回転ナデ	外面 ヘラケズリ	密	普通	青灰白色	
54図－1	IN II 地区 包含層	小壺 丸底壺	口縁欠損	——	内面 指頭圧痕 外面 押圧のちナデ	ナデ	やや密	やや良	白黄褐色	
2	〃	長頸壺	定形	ハケ目のち ヨコナデ	内面 指頭圧痕 外面 ハケ目		密 金雲母含む	良好	淡茶褐色	口縁部および体部に黒斑あり
3	〃	壺	口縁～肩部	ハケ目	——	——	粗	不良	明橙褐色	

遺物番号	出土位置	器種	遺存度	口縁部（頸部）	体部	底部（脚部）	胎土	焼成	色調	備考
4	〃	甕	ほぼ完形	内面 ハケ目のち 内外面 ヨコナデ	内面 ハケ目のち ヘラケズリ 外面 ハケ目		普通	普通	茶褐色	
5	〃	甕	ほぼ完形	内面 ハケ目のち 内外面 ヨコナデ	内面 ハケ目のち ヘラケズリ 外面 叩きのち ハケ目	叩き	密	良	黄褐色	底部黒斑あり
6	〃	甕	口縁～体部1/3	ヨコナデ	内面 ハケ目後押圧のちヘラケズリ 外面 ハケ目	——	やや密 金雲母含む	普通	内面 赤褐色 外面 暗赤褐色	
SS図－1	〃	鉢	1/2	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	やや密	普通	赤褐色	底部黒斑あり
2	〃	〃	底部欠損		内面 ハケ目 外面 叩きのちナデのちヘラケズリ	——	やや密	不良	茶褐色	内外面底部付近黒斑あり
3	〃	〃	ほぼ完形	ヨコナデ	内面 ハケ目 外面 押圧・ナデのちヘラケズリ	ヘラケズリ	やや密	普通	内面 灰黄褐色 外面 橙褐色	外面黒斑あり
4	〃	〃	完形	ナデ	内面 ハケ目 外面 ナデ	ヘラケズリ	やや密	普通	白茶褐色	外面黒斑あり
5	〃	〃	ほぼ完形	ナデ	内面 ハケ目 外面 叩きのちナデのちヘラケズリ	ヘラケズリ	やや密	普通	茶褐色	外面黒斑あり
6	〃	〃	ほぼ完形	ナデ	内面 ハケ目のちナデ 外面 ナデ後ヘラケズリ	ヘラケズリ	やや密 金雲母含む	普通	暗黄褐色	外面黒斑あり
7	〃	〃	2/3	磨滅のため不明	磨滅のため不明	内面 指ナデ 外面 ナデか？	やや粗	普通	淡紅橙褐色	
8	〃	高坏	脚部	——	——	内面 押圧，ハケ目 外面 ハケ目，ヨコナデ	やや粗	やや不良	黄褐色	貫通しない穿孔2個1対3ヶ所
9	〃	坏身	1/10	回転ナデ	回転ナデ	内面 仕上げナデ 外面 ヘラケズリ	密	普通	灰白色	
10	〃	蓋	1/4	回転ナデ	回転ナデ	内面 回転ナデ 外面 ヘラケズリ	密	普通	暗紫白灰色	
11	〃	高坏	坏部1/4	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	密	普通	灰白色	

表6　阿弥陀堂地区遺構一覧表

遺構名	区画名	遺物	備考 (cm)
SB01	AM 1	木片 土師（小皿），土鍋足，カメ片	中世掘立柱建物 N－68′－E　3間2間 廂つき
SB02	〃	須恵，炭，埦	中世掘立柱建物 N－72°56′－E　2間2間 廂つき
SA 1	〃	石	時期不明柵列 N－61°45′－E　3間
SD01－a	AM 1～3	土師，須恵，石器，磁器	近現代用水路 上径　(90)　深さ (11)
SD01－b	〃	備前，須恵，石器，磁器	近現代用水路 上径　(90)　深さ (18)
SK01	AM 2		時期不明土坑　上径　(160)
SK02	AM 3		〃　径　(100上)
SK03	〃		〃
SK04	AM14		中世土掘
SX01	AM 2．3	木片，弥生，縄文，須恵，磁器，炭，鍬，ワラ及びカツラ製品，石ゾク，キリ，整形石器，片岩，石角，フレイク，チップ	弥生時代土器包含，自然河川又は沼状凹地　上径（1100）
SX02	AM 6．7	石器，骨，弥生，紡垂車	弥生時代，沼状凹地 上径（1600）
SX03	AM10～13	弥生，須恵，石器，青ガラス，石ゾク，石錘，黒曜石，チャート石包丁，不整形土器，サヌカイト，石くわ，片岩，アンザン岩，石核，フレイク，チップ	〃 上径（1550）
SX04	AM14		時期不明凹地　上径　(420)

表7　中村西地区遺構一覧表

遺構名	区画名	遺物	備考 (cm)
SX01－a	NKW 1	土師，瓦，陶器	近代土坑 上径　(93)　深さ (53)
SX01－b	〃	〃	〃 上径　(71)　深さ (55)
SX02	〃	土師，瓦	〃 上径　(110)　深さ (12)
SX03 （吉原B SX8501）	NKW 5～9	土師，石ゾク	弥生時代土器包含，湧水溜状遺構 上径（4100）　深さ (88)
SK01	NKW 4	土器	近代土坑　上径　(100)
SK02	〃		〃　上径　(85)
SK03	NKW 3	土器，自然石	〃　上径　(100)
SK04	〃	〃	〃　上径　(150)
SK05	〃	〃	〃　径　(140上)
SD01	NKW 4		近代用水路を併行する 上径　(120)
SD02	NKW 9・10	土器，自然石	近世近代用水路 上径　(300)　深さ (35)
SD03	NKW11	土器	同上を併行するもの 上径　(500～)　深さ (44)

表8　中村東地区　遺構一覧表

遺構名	区画名	遺物	備考（cm）
SK02	NKE 3		
SB01	NKE 8		N－22°－W　2間～2間
SD05	NKE 8．9		SR01の一部 上径（60）
SX06	NKE 9		上径（60）　深さ（21）
SK01	〃		上径（48．96）　深さ（5）
SR01 （NR01）	NKE 9．10	土師，須恵，石，木片	上径（1520）
SX02	NKE10		上径（40）　深さ（17）
SX04	〃	土師，種子	上径（40）　深さ（7）
SX05	〃		上径（52）　深さ（18）
SX07	〃		上径（22）
SD02	〃		上径（52）　深さ（6）
SD03	〃		上径（100）　深さ（8）
SX03	NKE11		上径（60）　深さ（5）
SD04	NKE11.12	土師，須恵，石，木片	上径（640）　深さ（4）
SX01	NKE12		上径(360.300～)　深さ(50)
SD01	〃		上径（180）
SD05	NKE14		上径（180）　深さ（11）
SD06	〃		上径（200～）　深さ（57）
SR01	NKE15	土師，須恵，陶器，木片，木製品，石器，炭，種子，骨	上径（760～）　深さ（137）
SK03	〃		上径（48．268）
SD07	〃		上径（48）　深さ（3）
SX08	〃		上径（40．180）　深さ（14）
SX09	〃		上径（40．160）　深さ（2）

表9　永井地区　遺構一覧表

遺構名	区画名	遺物	備考（cm）
SD01	NG 1	土師，須恵，石器片，瓦	上径　(40)　深さ（5）
SD02	NG 2	須恵，石器片	上径　(190)　深さ (36)
SD03	〃	須恵，石器片	上径　(120)　深さ (34)
SD04	〃	須恵，石	上径　(65)　深さ (10)
SD05	NG 3	土器	上径　(55)　深さ (11)
SX01	〃		あんきょ 上径　(20)　深さ (18)
SX02	NG 4	土師,須恵,石器片，瓦，木片	上径　(350)　深さ (11)
SD06	〃	土師，瓦，石，骨	上径　(140)　深さ (23)
SD07	〃	土師，須恵，石	上径　(40)
SD08－a	〃	土師，石器片，土器	上径　(110)　深さ (13)
SD08－b	〃	石片，石器	上径　(90)　深さ（8）
SD08－c	〃	木片（杭）	上径　(90～)　深さ（8）
SD09	NG 5	a 土師，石器 b 土器，石器	a，bあり 上径　(30)　深さ（4）
SD10	〃		上径　(50)
SD11	〃	土師，　サヌカイト片	上径　(70)　深さ（1）
SX03－a	〃	上器,石器,石ゾク,木片,石皿	上層，下層あり 上径　(490)　深さ（8）
SX03－b	〃	石器片	上径　(125～)　深さ (13)
SK01	〃	土器，石器，炭塊	上径(118．72)　深さ (35)
SK02	〃	土器，石器片	上径　(100)　深さ (35)
SK03	〃	〃　石皿	上径　(88)　深さ (30)
SD12	NG 7		上径　(100)　深さ（9）
SD13	〃	土師，須恵，瓦	上径　(80)
SK04	〃		上径　(150)
SK05	〃		上径　(145)　深さ（9）

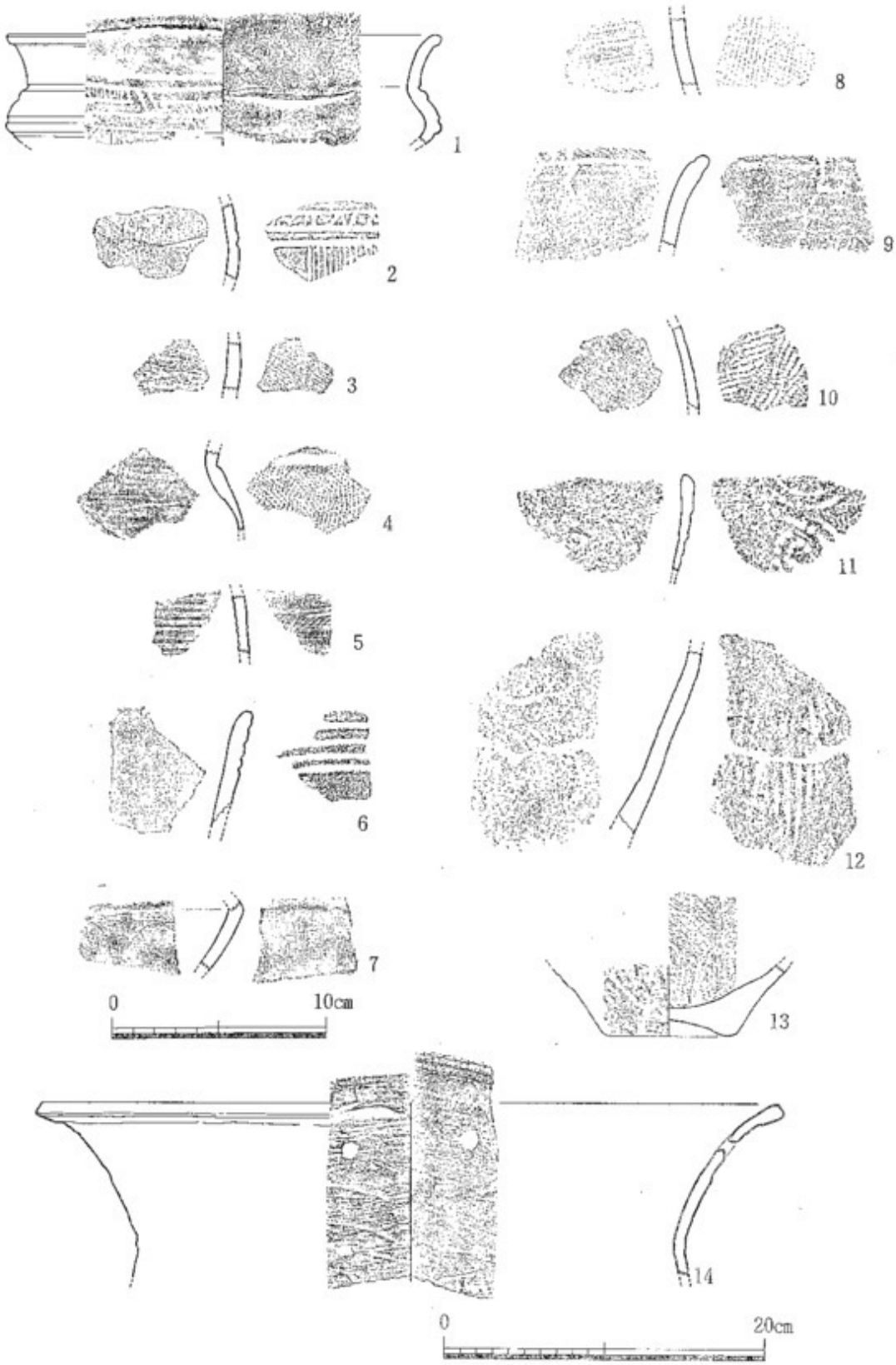
遺構名	区画名	遺物	備考 (cm)
SK06	NG 7	土師，須恵，自然石	上径(390～410) 深さ（8）
SK07	〃	土師，自然石	上径 (200) 深さ (10)
SX04	〃		上径 (340～) 深さ (37)
SX05	〃	土師，須恵，骨	上径 (110～) 深さ (10)
SK08	〃	土師（皿型）	上径 (75) 深さ（2）
SK09	〃	石ウス	上径 (100) 深さ（4）
SD14	NG 8		上径 (45) 深さ（3）
SD15	NG 9	土師，須恵，自然石	上径 (70) 深さ（4）
SD16	〃	土師	上径 (65) 深さ（3）
SD17	〃	土師，須恵，石器片，瓦	上径 (45) 深さ (10)
SD18	NG10	土師，石ゾク	上径 (85) 深さ (12)
SX06	〃	土師，須恵，石器片，石ゾク	上径 (330) 深さ (18)
SD19	NG10. 11		上径 (70) 深さ（9）
SD20	〃	石器，土師，須恵，石器片，石ゾク	上径 (610) 深さ (30)
SX07	NG11		上径 (100～) 深さ（7）
SD21	NG11・12	石ゾク	上径 (60) 深さ (18)
SD22	〃	土器，石器	上径 (450) 深さ (30)
SD23	NG12	土器	上径 (230) 深さ (20)
SD24	〃		上径 (530) 深さ (72)
SD25	NG12・13	土師，須恵，石器，石ゾク	
SD26	NG13		上径 (80～) 深さ (43)
SD27	〃		上径 (100) 深さ (13)
SD28	〃	土師，須恵，石器	上径 (440) 深さ (40)
SD29	〃	〃	上径 (380) 深さ (30)

遺構名	区画名	遺物	備考 (cm)
SD30	NG13		
SD31	〃		
SD32	〃		
SD33	NG14		上径 (60) 深さ (8)
SR01	NG15A		上径 (320)
SX08	NG15B		上径 (90) 深さ (10)
SD34－a	NG16B	土師,須恵,石器片,石ゾク	上径 (350) 深さ (30)
SD34－b	〃	土器，石器	
SD35	〃		上径 (100) 深さ (27)
SD36	NG17. 18		上径 (30～) 深さ (10)
SD37	〃		上径 (55) 深さ (12)
SX09	〃	土器，石器，木製品（杭）	上径 (250～) 深さ (12)
SX10	〃		上径 (110.60) 深さ (3)
SD38	NG19		上径 (100) 深さ (3)
SD39	〃		上径 (440) 深さ (9)
SX11	〃		上径 (160) 深さ (15)

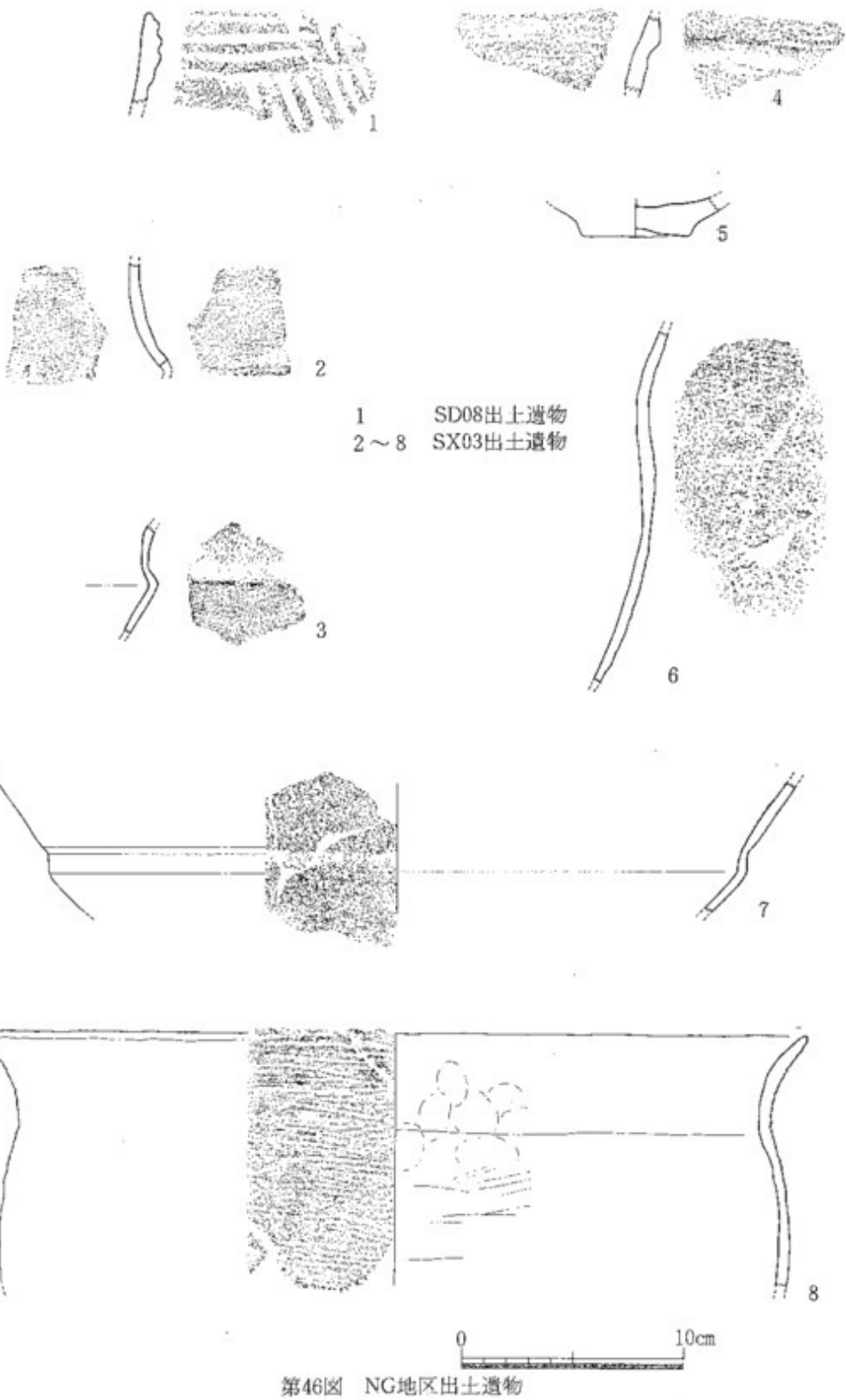
表10　稲木・高架地区　遺構一覧表

遺構名	区画名	遺物	備考（cm）
SR01	IN I 1		IN－8　SR01に続く 上径（300）　深さ（70）
SD01	IN I 2		上径（60）　深さ（10）
SD02	IN I 3 a	土師，自然石	上径（340）　深さ（30）
SD03	IN I 3 b	土師，縄文片	上径（470）　深さ（82）
SD04	IN I 4		上径（160）　深さ（23）
SD05	〃		上径（120）　深さ（40）
SD06	〃		
SD07	IN I 6	土器，木製品，木片，桃核石	上径（450）　深さ（8）
SD08	〃	土器	上径（65）　深さ（20）
SD09	〃		上径（150～）
SX01	〃	土器，木片（うす紙状）	上径（150～）
SR02	IN I 6 IN I 7	土器，木片，土塊，土葉， 土器，石器	上径（450～）　深さ（73） 上径（410～）　深さ（79）
SR03	IN I 7		
SD10	〃	土器	上径（250）　深さ（15）
SD11	IN I 8 S		
SR01	IN I 8 N		
SD01	IN Ⅱ 1	弥生，土師，須恵，備前	上径（550）　深さ（47）
SX01	〃		上径（260）　深さ（11）
SD02	IN Ⅱ 2	土師，須恵	上径（110）　深さ（33）
SD03	〃	土師，須恵，備前	上径（60）　深さ（21）
SX02	〃	土師	上径（100）　深さ（30）
SX03	〃	土師	上径（100）　深さ（17）
SD04	IN Ⅱ 3	土師，須恵	上径（45）
SD05	〃	土師	上径（35）　深さ（10）

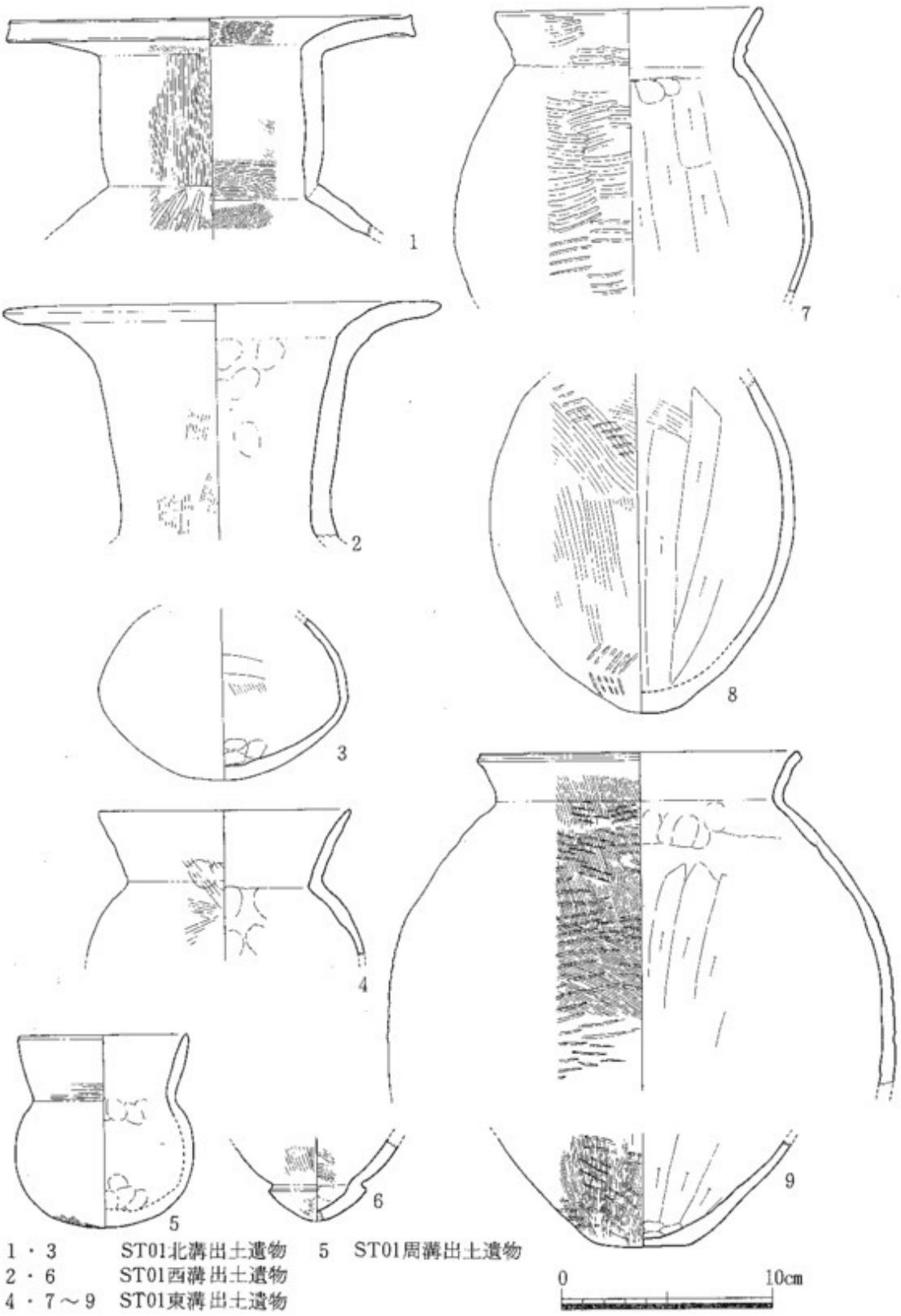
遺構名	区画名	遺物	備考 (cm)
SD06	IN Ⅱ 3	土師	
SX04	〃		
SD07	IN Ⅱ 4	土師，須恵	上径 (450) 深さ (8)
SD08	〃	〃	上径 (450～) 深さ (6)
SD09	〃		上径 (80)
SX05	〃		上径 (70)
SX06	〃		上径 (25)
SX07	〃	土師，須恵	上径 (210～)
SX08	〃		上径 (70)
ST01	IN Ⅱ 3．4	土師，須恵	上径 (1440.600～)深さ(52)
SD10	IN Ⅱ 6	備前，土師，須恵，陶器，鉄分	
SX09	〃	土師，石	上径 (260．130)
SX10	〃		
ST02	〃	土師	上径 (100．30)
SR01	IN Ⅲ 7．8	石器，木製品，土師，須恵，備前，瓦質土器，弥生	上径 (620) 深さ (104)
SD01	〃	土師，須恵	上径 (210) 深さ (86)
SH01	NI Ⅲ 11	土師，弥生	上径 (525.480) 深さ(35)
SH02	〃	土師	上径 (260～130～)深さ(21)
SH03	IN Ⅲ 15	土師，須恵	N－25°－W 上径 (170～550) 深さ (44)
SH04	〃	〃	N－15°－W 上径 (670.400～)深さ (23)
SH05	〃	〃	N－43°－W かまどあり 上径 (550.360～)深さ (20)
SH06	〃	〃	N－20°－W 上径 (450.200～)深さ (28)
SH07	〃	土師，須恵，陶器	N－46°－W 上径 (470.440) 深さ (10)
SD02	IN Ⅲ 15．16	土師，須恵	上径 (110) 深さ (35)
SD03	IN Ⅲ 17	土師，須恵	上径 (80) 深さ (27)
SX01	〃	土師	上径 (30．230)
SX02	〃	土師，須恵	上径 (210．120)



第45図　NKE地区　SR02出土遺物

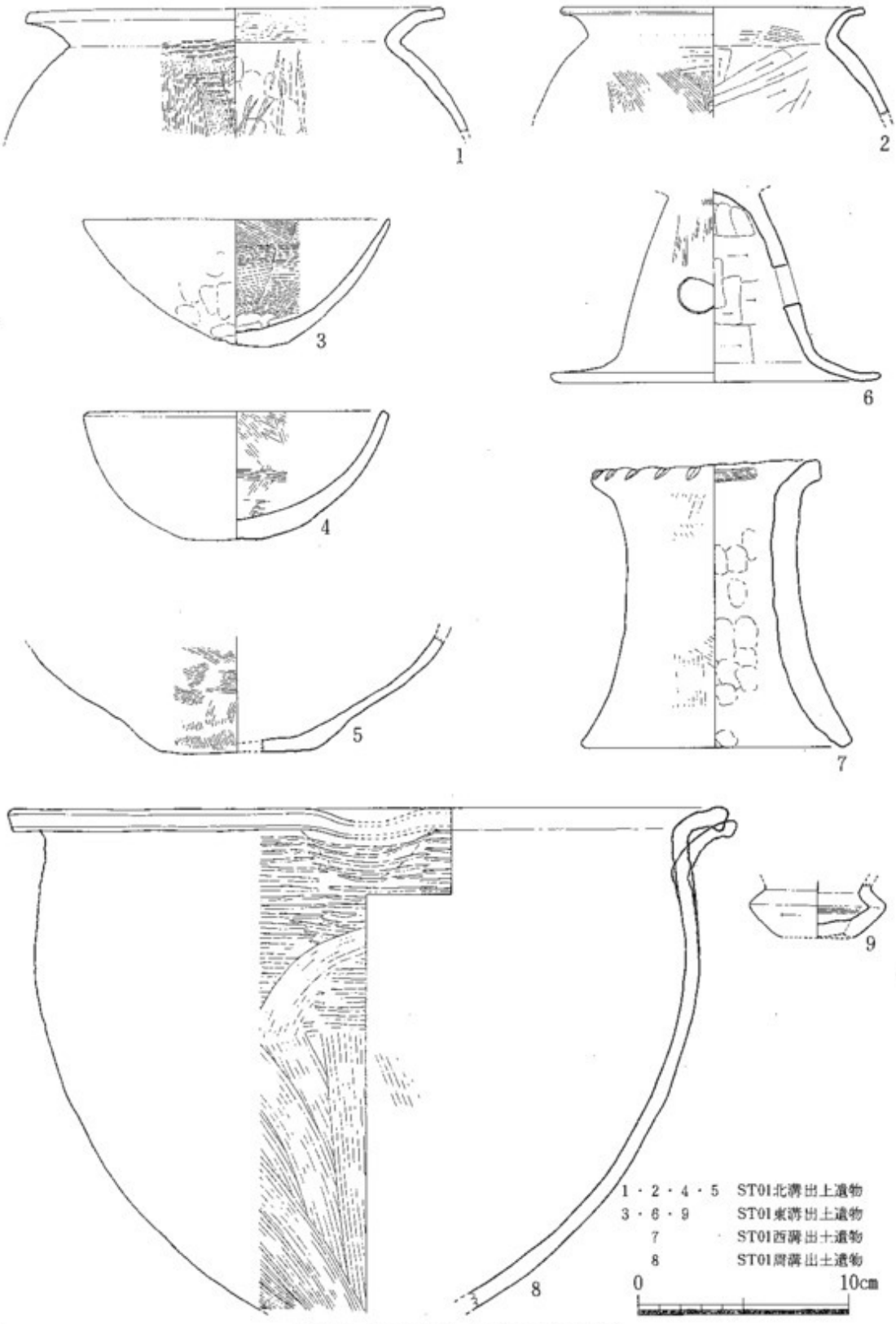


第46図　NG地区出土遺物

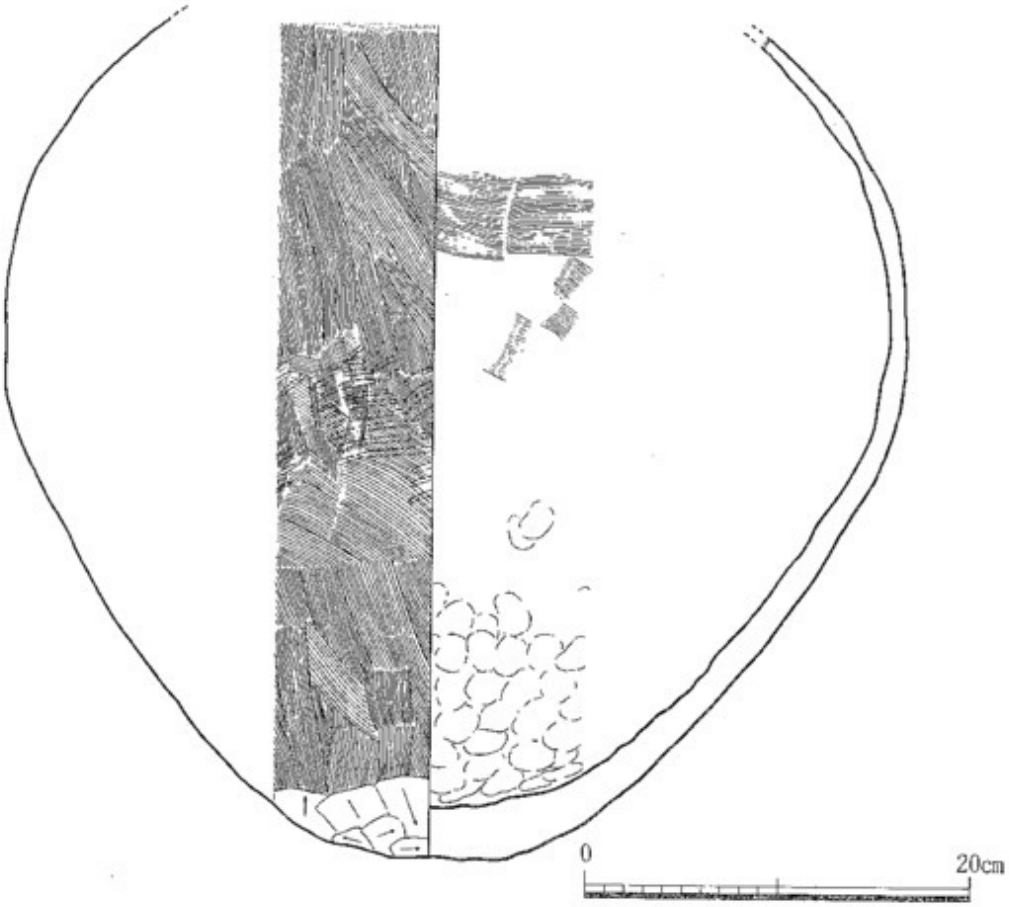


1・3　ST01北溝出土遺物　5　ST01周溝出土遺物
2・6　ST01西溝出土遺物
4・7～9　ST01東溝出土遺物

第47図　IN Ⅱ地区ST01出土遺物(1)

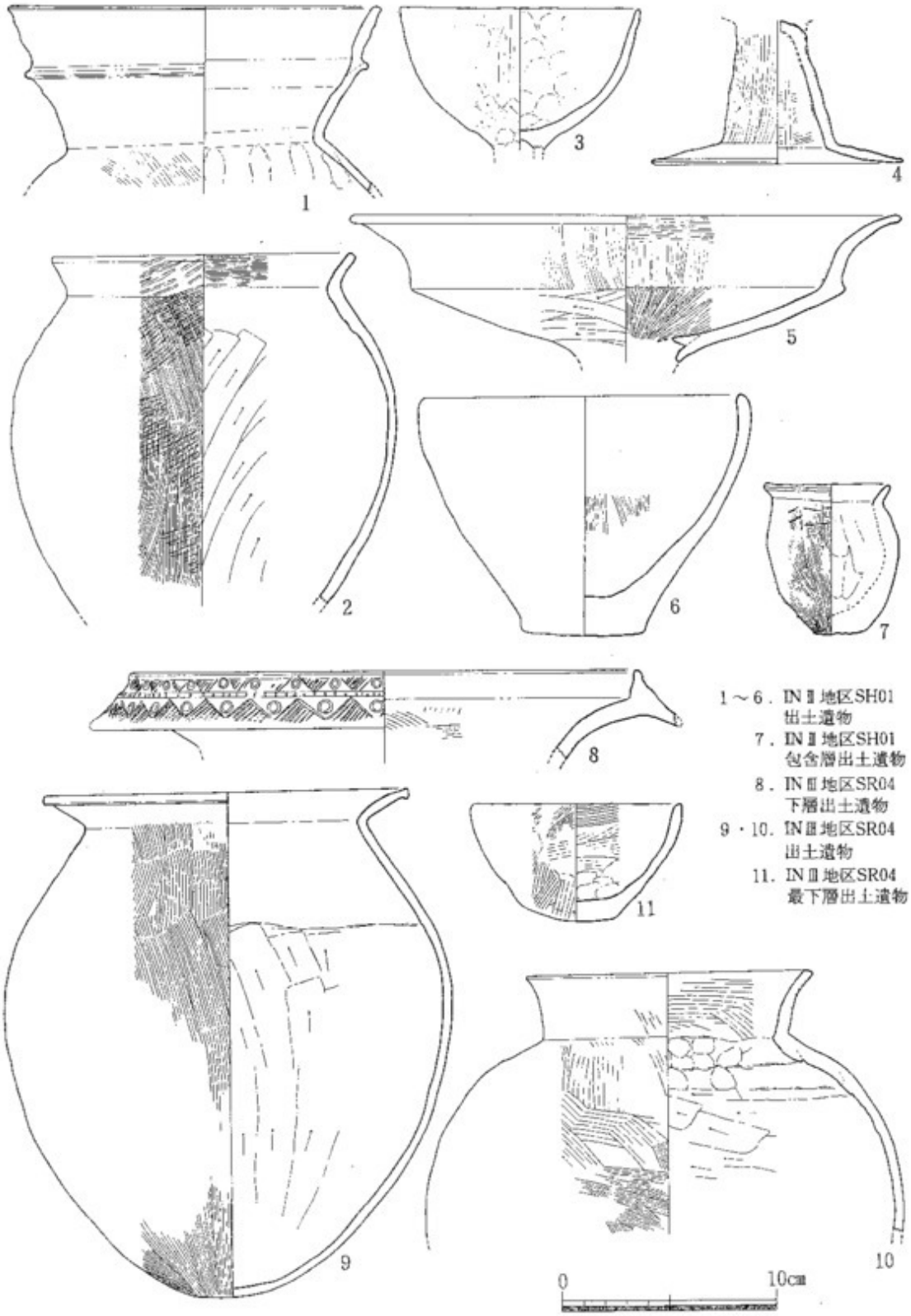


第48図　IN Ⅱ地区　ST01出土遺物(2)



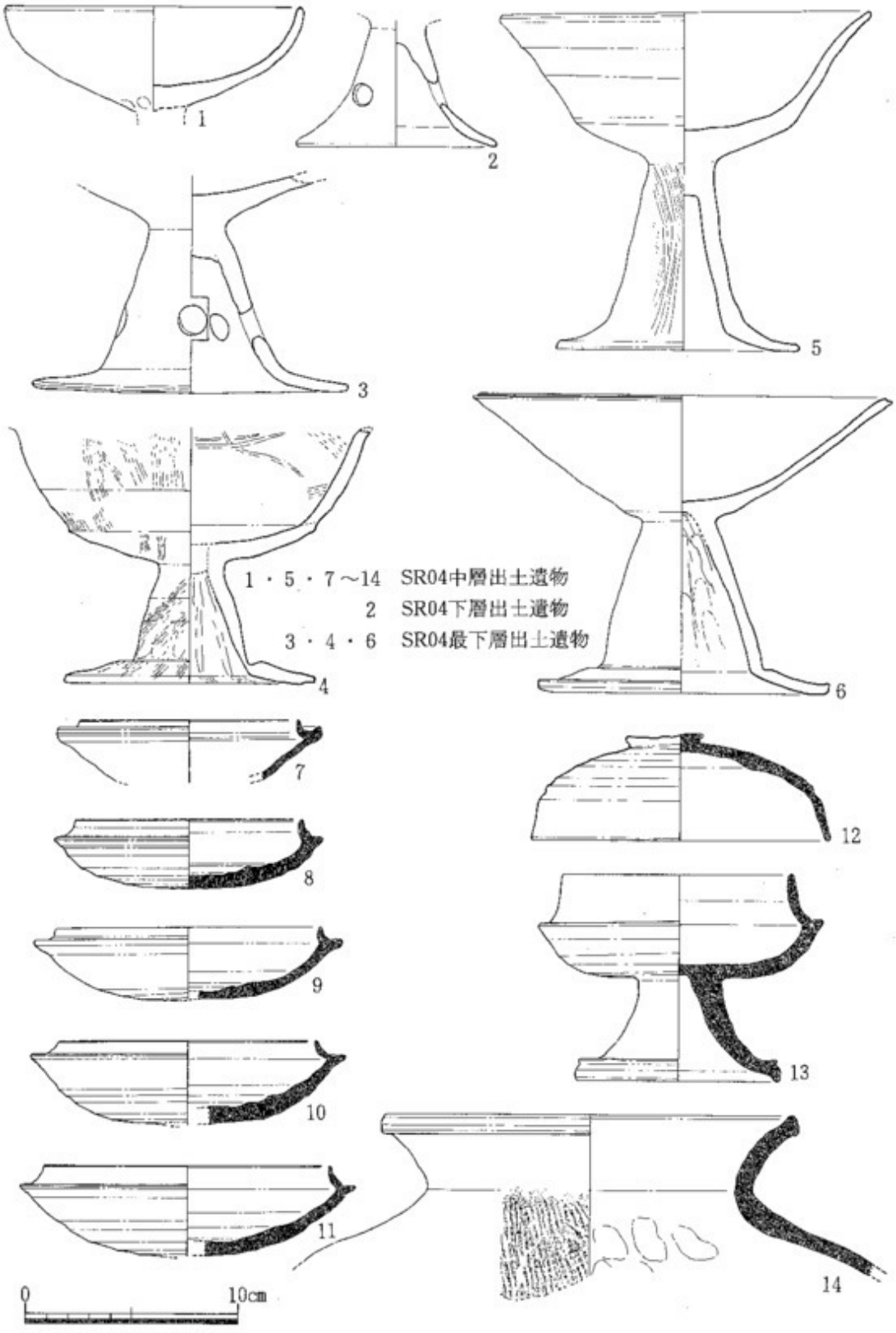
第49図　IN Ⅱ地区　ST01出土壺棺

第50図　IN Ⅱ地区　ST01上位包含層出土遺物

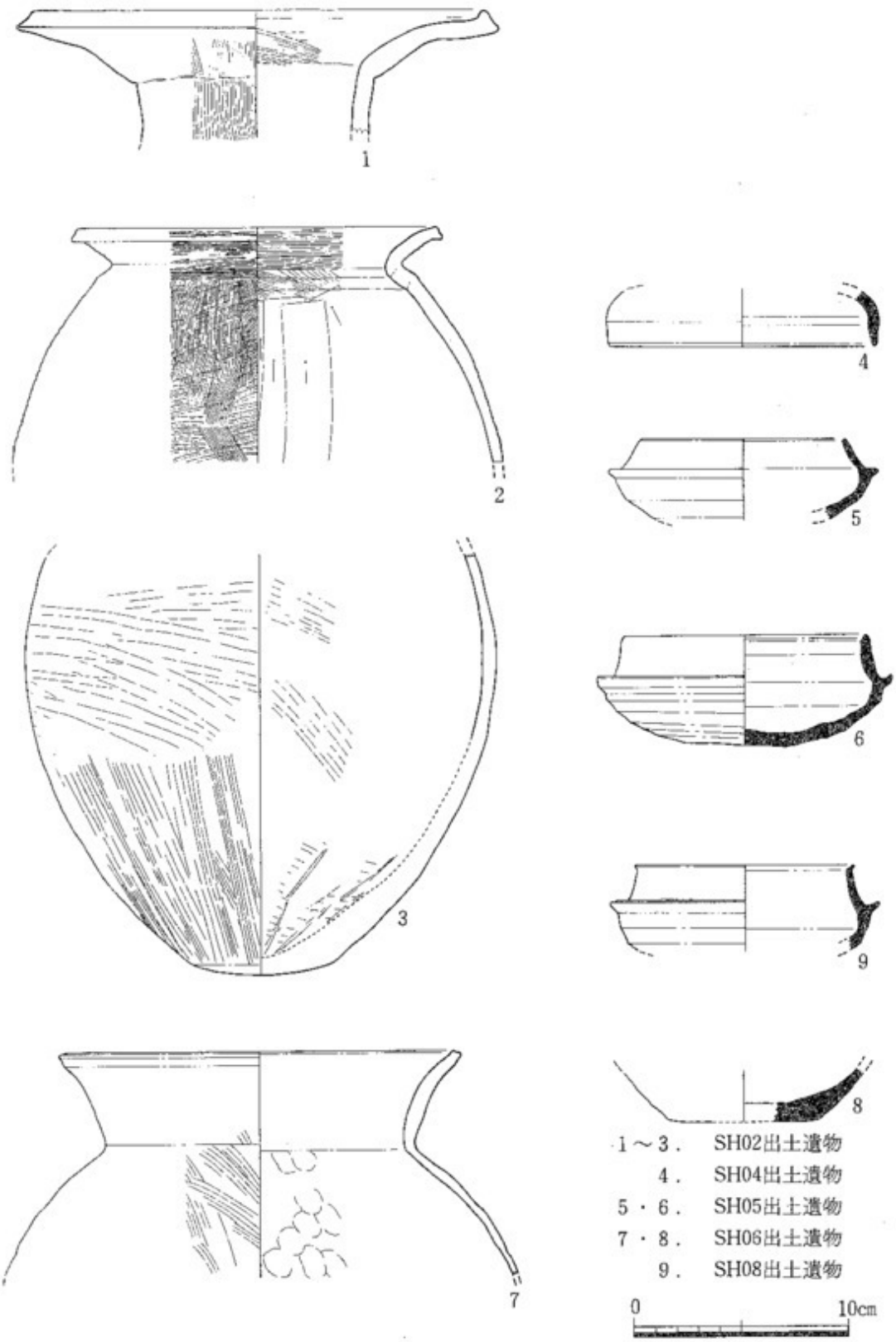


1～6．IN Ⅱ地区SH01
出土遺物
7．IN Ⅱ地区SH01
包含層出土遺物
8．IN Ⅲ地区SR04
下層出土遺物
9・10．IN Ⅲ地区SR04
出土遺物
11．IN Ⅲ地区SR04
最下層出土遺物

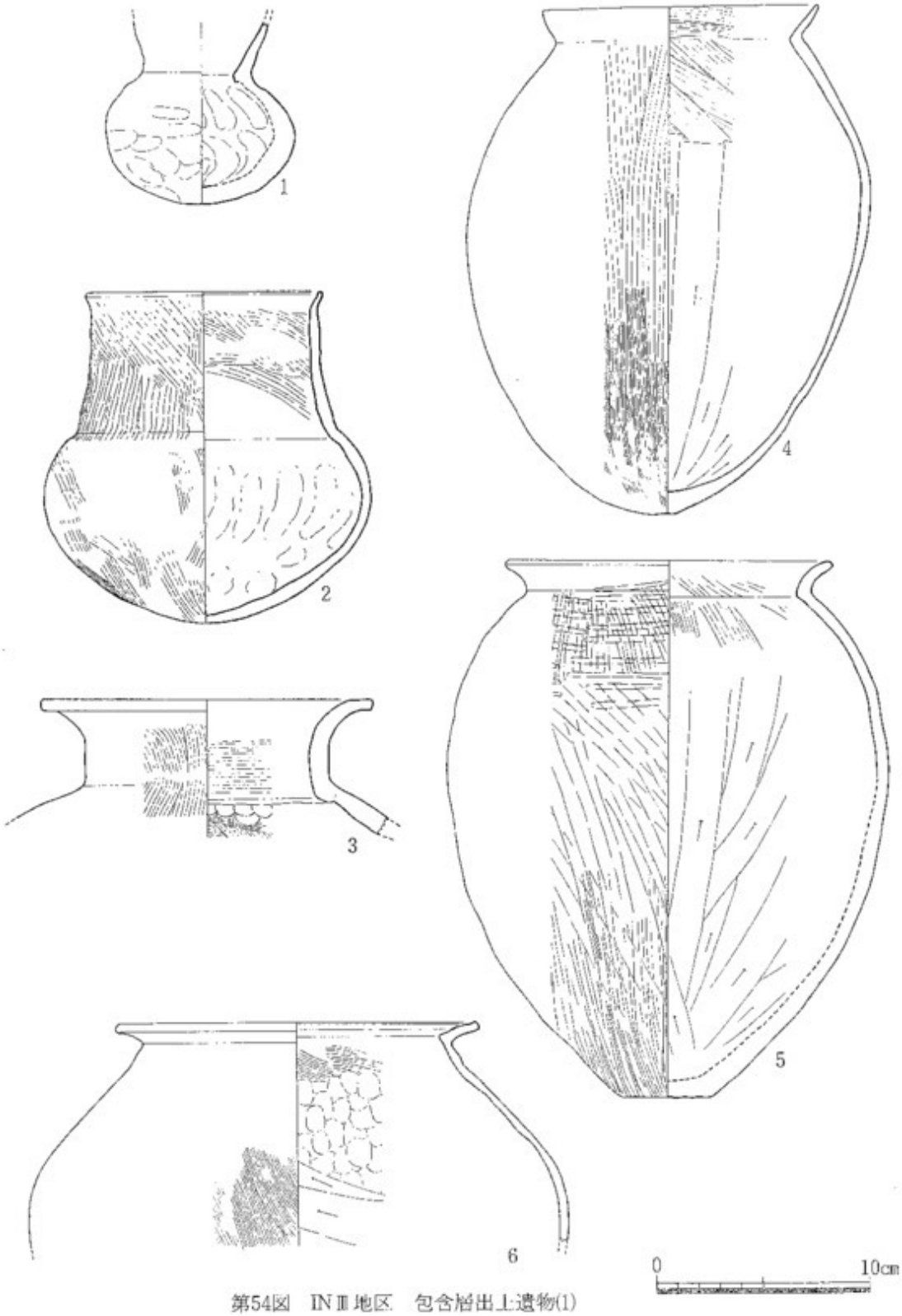
第51図　IN Ⅱ地区　SH01包含層出土遺物
IN Ⅲ地区　SR04出土遺物(1)



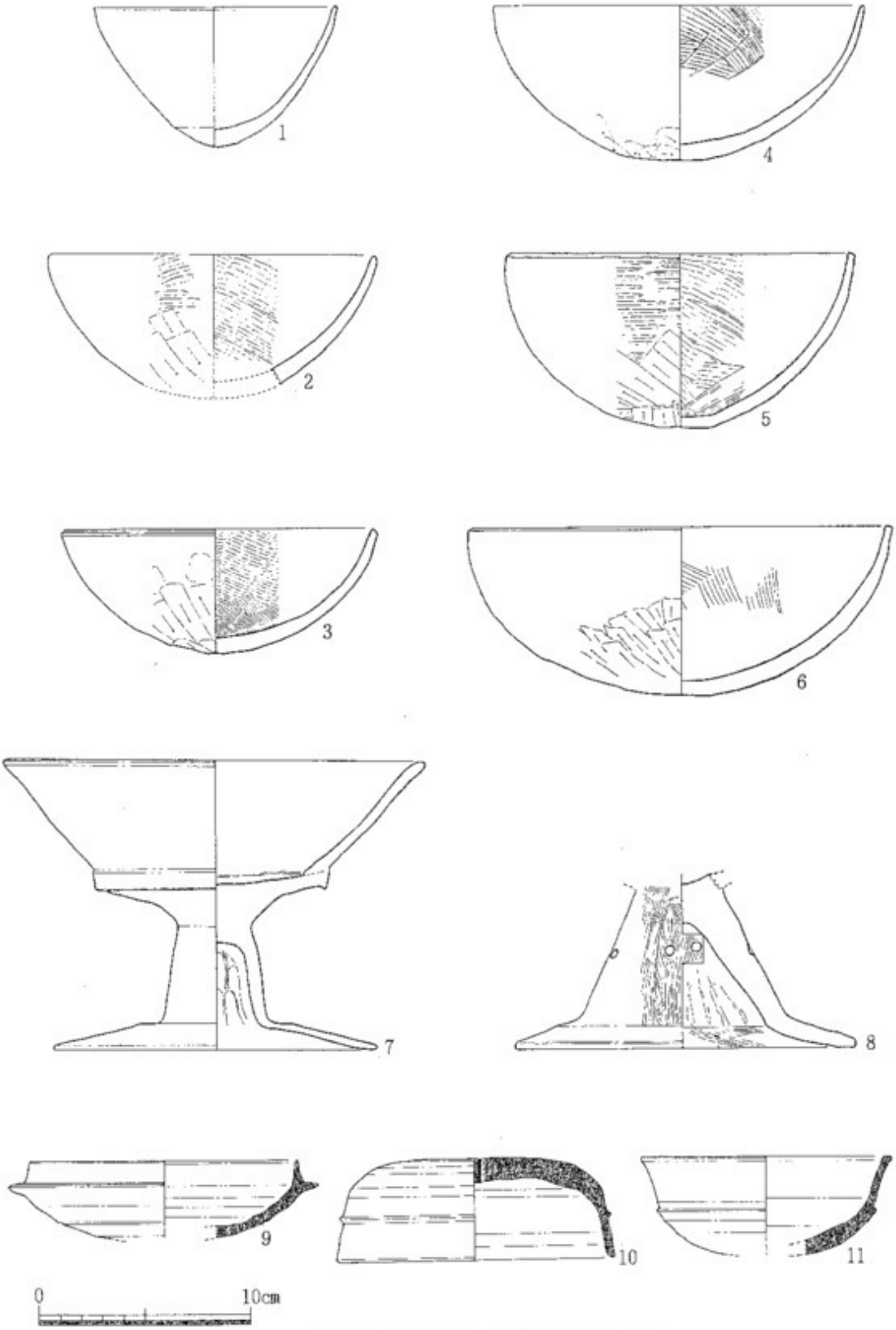
第52図　IN Ⅱ地区　SR04出土遺物(2)



第53図　IN Ⅱ地区　竪穴住居跡出土遺物

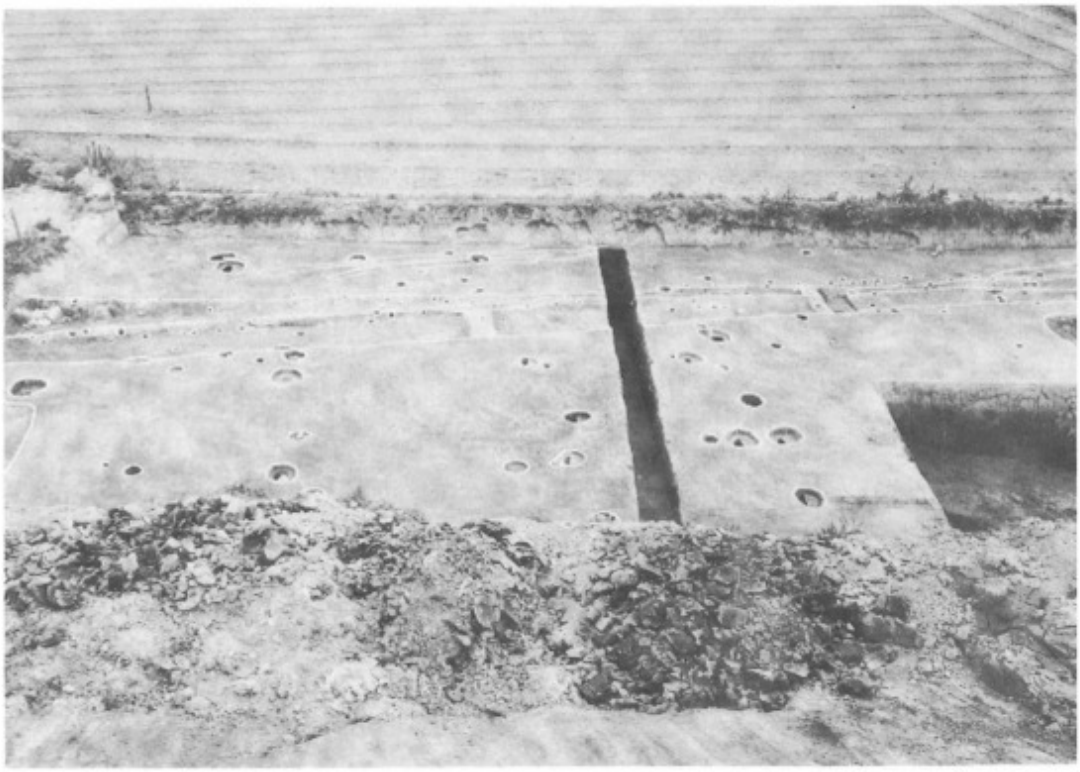


第54図　IN Ⅱ地区　包含層出土遺物(1)

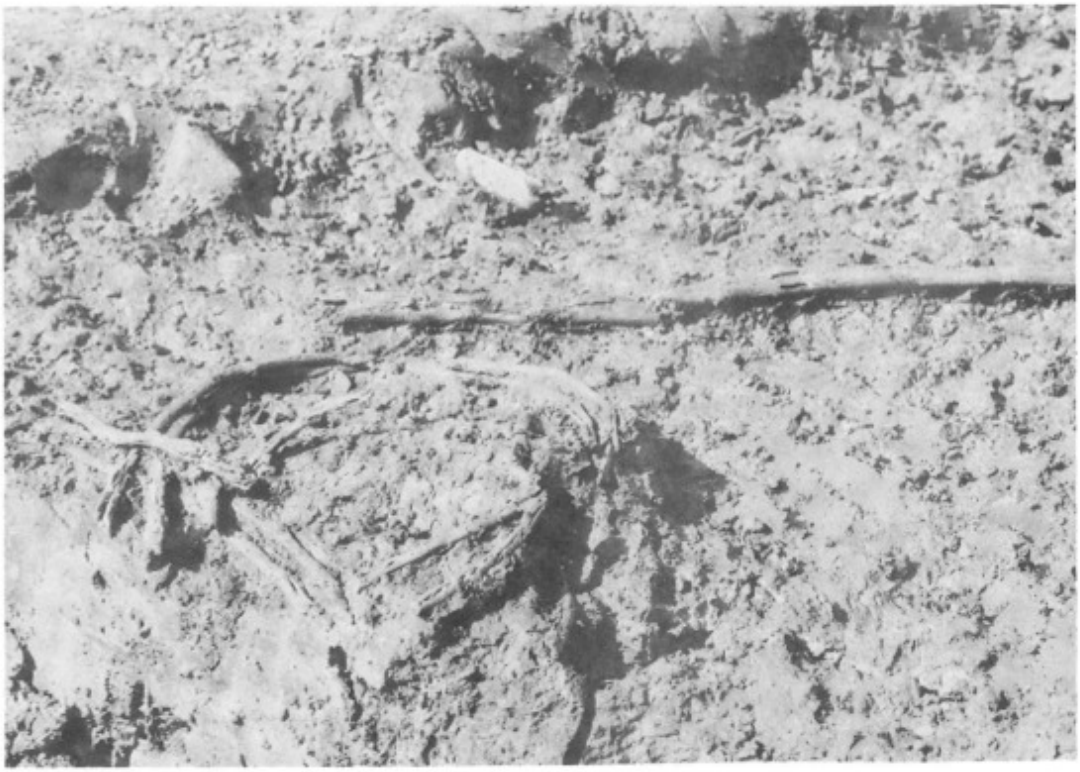


第55図　IN Ⅲ地区　包含層出土遺物(2)

図　版



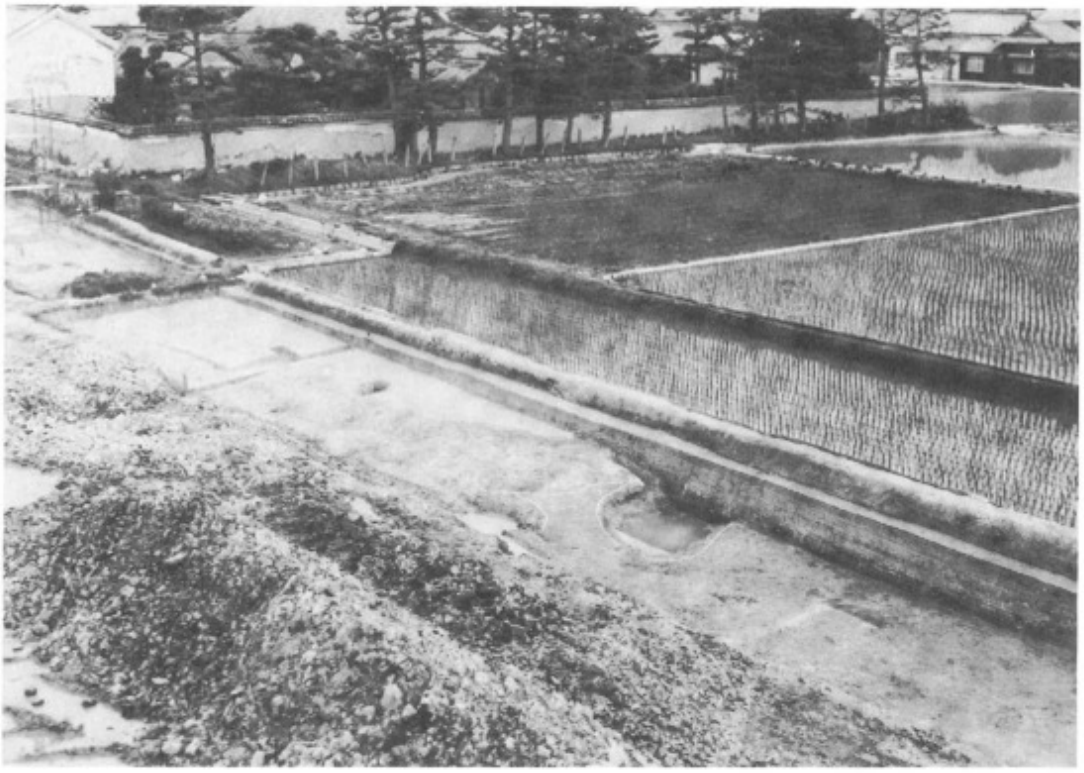
(1)　AM 1 区中世掘立柱建物群（北より）



(2)　AM 2 ・ 3 区SX01カツラ編物出土状況

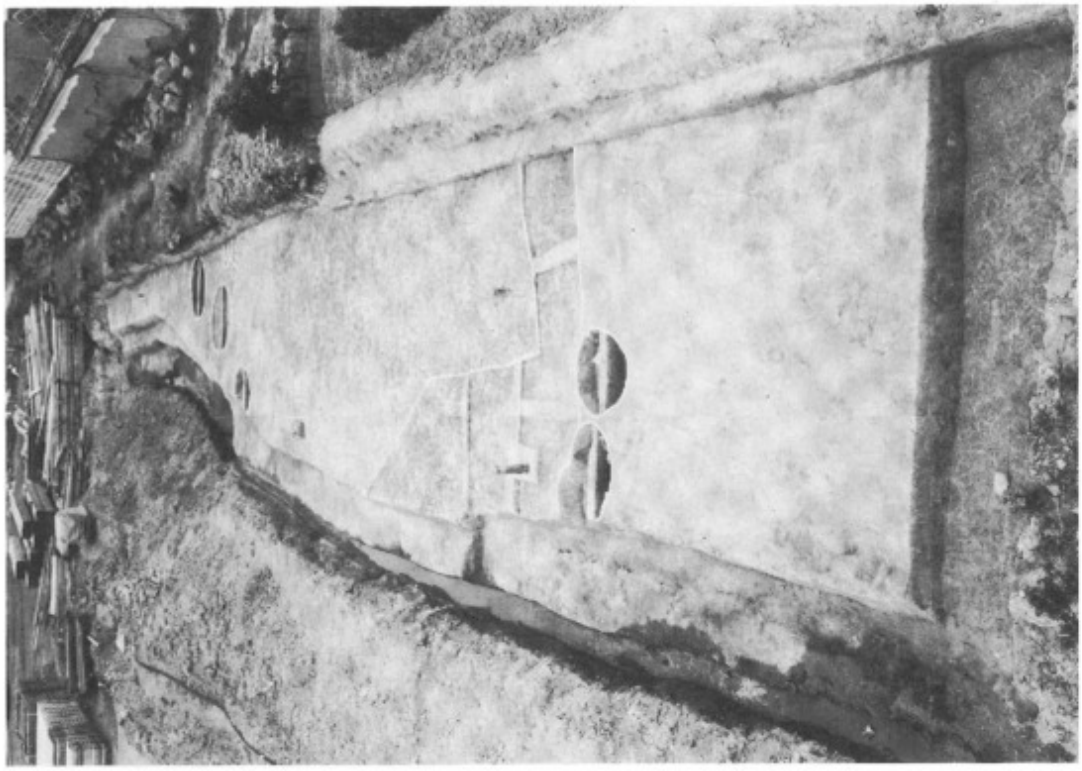
図版 2

(1)　AM10～13区SX03（東より）



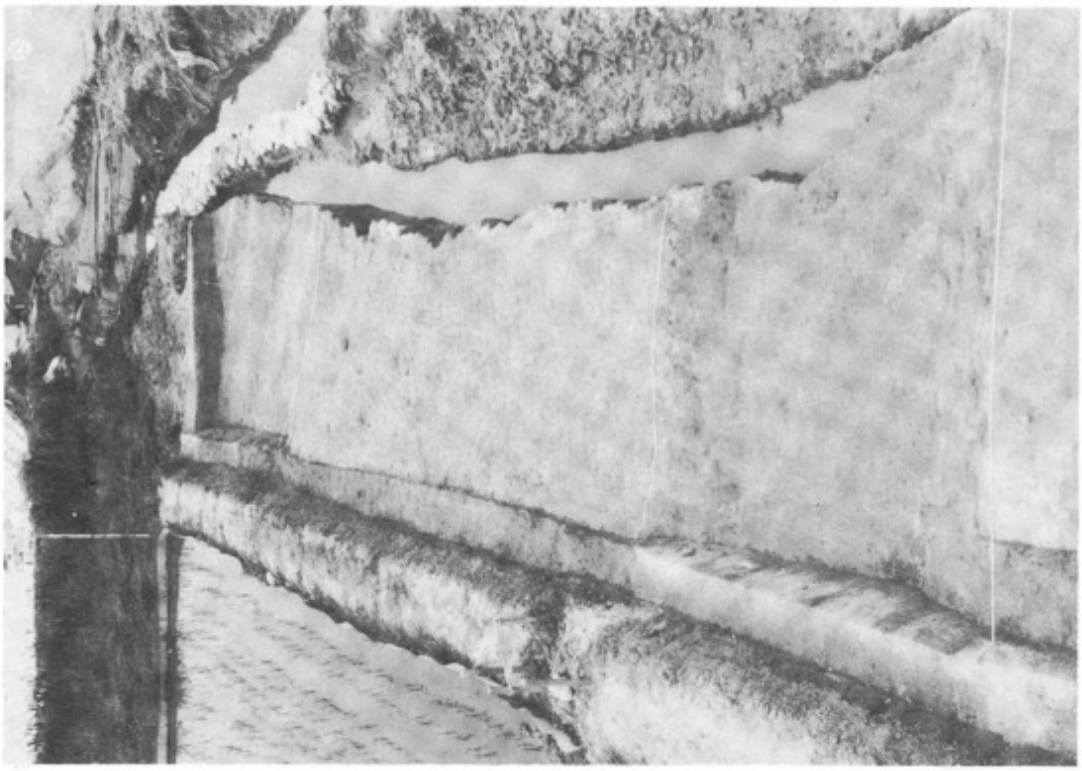
(2)　NKW 5 ～ 7 区遺構検出状況（北より）

(1)　NKW 1 区遺構検出状況（東より）

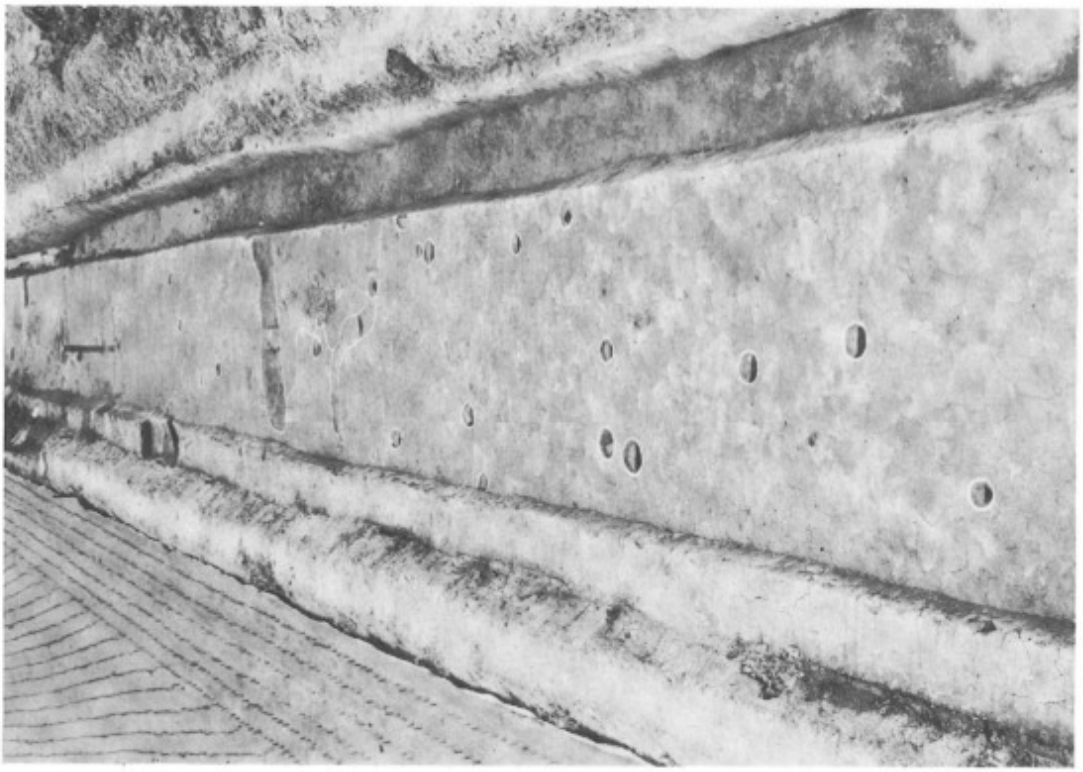


(2)　NKW 2 ～ 4 区遺構検出状況（西より）

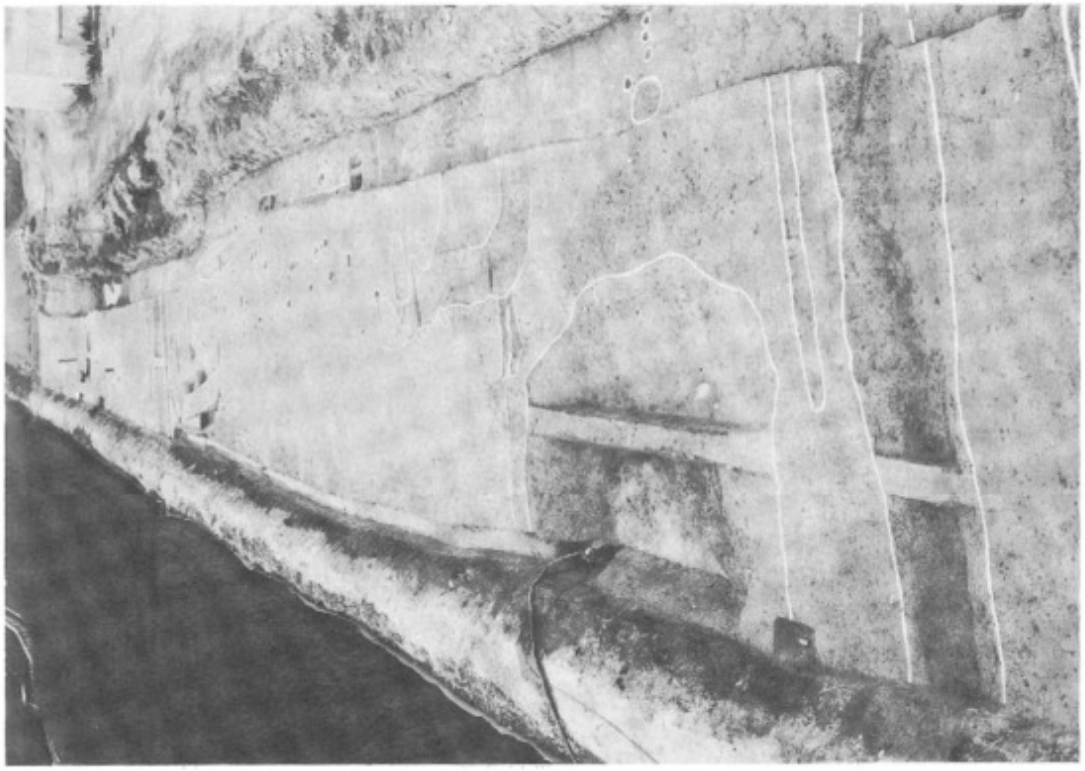
図版4



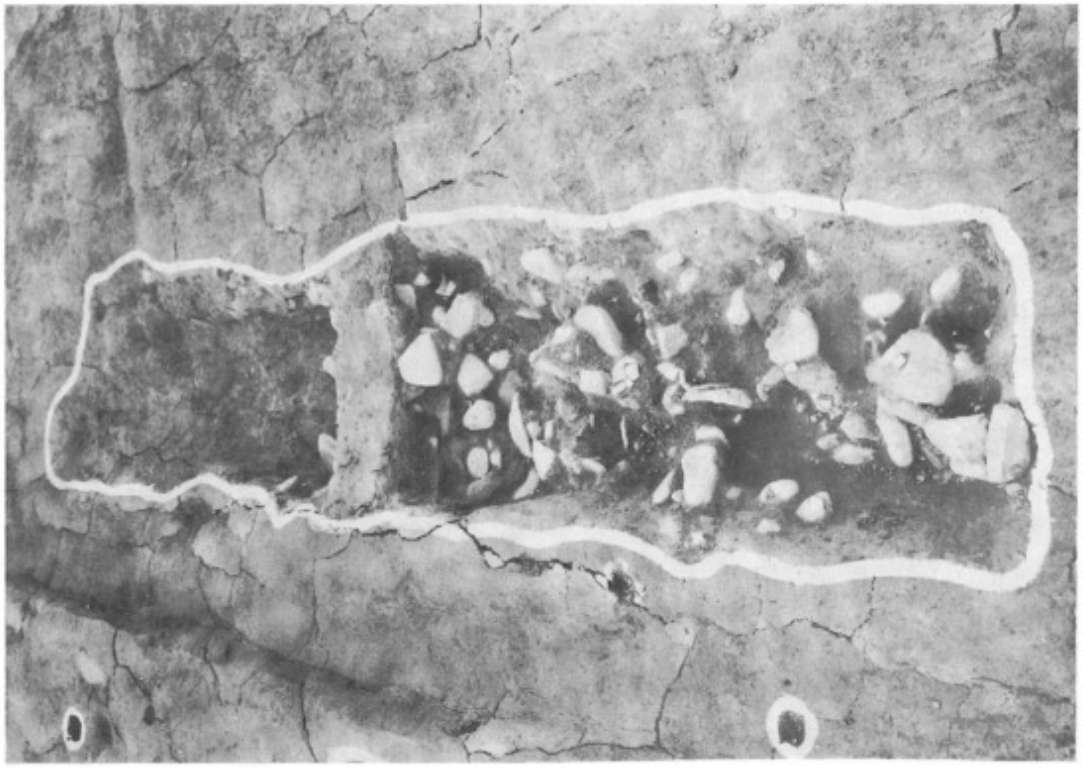
(1) NKW10・11区SD02・03（東より）



(2) NKE4・5区遺構検出状況（東より）



(1)　NKE 8～12遺構検出状況（東より）



(2)　NKE15区SK03（北より）